

第一表

第一條 此表訴訟ノ各目及初告控訴ノ種類ニ從ヒ棄却受理未決等ノ詳細ヲ區別ス

第二條 人民出ス處ノ訴狀件目多種アリト雖モ今其目安ノ文言ニ關セテ訴狀ノ主旨ヲ領得シ左ノ各目ニ照シ記入スルヲ要ス件數ヲ記入スル例ヘハ東京裁判所ノ初審ニ係ル家督相續ノ控訴一件アリ受理ノ上五十日目ニ裁許シ一部ヲ不適當トスレハ該件目ノ下總數ノ横線ヲ照シテ一件ヲ記入シ又受理部中初審ノ一部ヲ不適當トスル横線ヲ照シテ一件ヲ記入シ又下段初審廳名中東京裁判所ノ横線ヲ照シテ一件ヲ記入シ再ヒ時間區別中總數ノ横線ヲ照シテ一件ヲ記入シ又(二月以下)ノ下ニ於テ初審ノ一部ヲ不適當トスル横線ヲ照シテ一件ヲ記入シ又次ノ初審廳東京裁判所ノ下ニ於テ初審ノ一部ヲ不適當トスル横線ヲ照シテ一件ヲ記入スルカ如シ依テ今件目ノ種類ヲ左ニ掲ク是レ固ヨリ其大畧ヲ示ス者ナルカ故ニ訴狀中或ハ此各件目ニ屬ス可ラサル異種ノ者アレハ別ニ其件目ヲ設ケテ記入スヘシ

- 敷金
- 雇賃
- 給金
- 席料
- 損料
- 船舶碇泊料
- 藥料
- 家督相續實子
- 後見
- 離婚
- 養子女離別
- 妻取戻
- 子女取戻

十一年丁第貳
拾九號省達ヲ
以テ悉入(實)
入テ上地所
ヲ取ス

- 分家分地
- 雇人取戻
- 地所々有
- 地所境界
- 地所賣買
- 地所貸借
- 預ケ地所
- 地所書入
- 地所質入
- 開墾地ニ關スル事
- 道路ニ關スル事
- 河水ニ關スル事
- 用水ニ關スル事
- 鑛山
- 伐木
- 秣場
- 止宿并膳料
- 酒食料
- 藝娼妓揚代金
- 租税金
- 區入費
- 訴訟入費
- 代書代言料
- 會社金
- 小作金但米金相續者ノ
内金錢多キ者ハ
- 養育金此ニ入ル
- 米穀賣買商業上
- 米穀貸借商業ニアラサル
- 預ケ米穀米金相續者ノ
- 小作米内米穀多キ者
- 養育米ハ之ニ入ル
- 物品賣買

家屋賣買	物品貸借
家屋賃借	預ケ物品
建物書入	抵當ノ物品
預ケ家屋	横取物品
金錢貸借	證券 證書書改等ノ件モ之ニ入ル
預ケ金	公債證書
年月賦金	○ 受負違約
立替金	訴訟濟口違約
爲替金	調印差拒
受負金	帳簿一覽差拒
手金	精算差拒
證據金	營業差拒
賞金	家畜貸借
割賦金	預ケ家畜
賣代金	

地代 船舶貸借
家賃 出版

右件目中假ニ金錢物品米穀等ノ内ニ於テ商業ト商業ニアラサルトヲ區別スト雖モ實際此區別アルモノハ何件目ヲ問ハス必ス書分クヘシ

第三條 外國交渉等ノ件ハ符號ヲ以テ標出ス可シ例ヘハ金錢貸借ノ件初審裁判ヲ適當トスル者五件中外國人交渉三件アリ二件ハ英國人交渉ニシテ此内一件ハ本國人直トナリ一件ハ本國人曲トナリ又一件ハ佛國人交渉ニシテ本國人直ナレハ五件ト記スル側ニ(イ)ト記シ家作買取違約ノ件ニ未決三件アリ内一件米國人交渉ナレバ三件ト記スル側ニ(ロ)ト付シ表末ニ於テ(イ)號ノ内英國人交渉二件内一件本國人直佛國人交渉一件本國人直(ロ)號ノ内米國人關涉一件ト記スル如シ符號ハイロハニ限ラ米國人關涉一件ト記スル如シ符號ハイロハニ限ラ何タルモ妨ケス

但前季越高并新訴部中ニ於テハ符號ヲ記スルニ及ハス
第四條 件數ヲ計算スル前季越高ト本季中新件トヲ合シ本季中結局件數ヲ除ケハ即チ現在未決件數ヲ生ス可シ各件目毎ニ右ノ如ク計算シ各縦線ニ照シテ通計ノ數ヲ記ス可シ

但前季ヨリ越高ハ本季初七月一日ノ調ニシテ即前季最終六月三十日ノ未決件數タリ未決件數ハ本季最終ノ調ニシテ即後季ヘノ越高ナリ

第五條 刑事廻ハ刑事ヘ廻シ切ノモノヲ記ス可シ若シ一時刑事ヘ廻スト雖モ民事ノ結局トナサハルモノハ記入ノ限ニアラス

第六條 表中空白ノ處ハ盡ク(、)、(、)、(、)ヲ填シテ脱誤ノ疑ナカラシム

第七條 訴訟ノ時間ヲ區別スル雛形ノ如シト雖モ若シ三年以上ニ渉ル者アレハ一年毎ニ區別シテ記入ス可シ

第二表

第八條 此表第一表結局件數中ヨリ金額ニ關スル者ヲ抽記シ其金額ノ階級ヲ區別ス但金高ハ原告訴狀面ニ記シタル被告ヨリ受取ル可キ高ヲ以テス下段身代限件數ハ上ノ件數中ヨリ身代限トナリタル者ヲ抽記シ件數人員負債高償却階級等ヲ區別ス金員階級中件數ヲ記入スル例ヘハ金貸借百圓ノ訴訟(甲乙)二件千圓ノ訴訟(丙)一件アレハ先ツ該件目ノ下ニテ(百圓以上五百圓未満)ノ橫線ヲ照シテ(甲乙)二件ヲ記入シ又(千圓以上一萬圓未満)ノ橫線ヲ照シテ(丙)一件ヲ記入シ更ニ金員實數ノ橫線ヲ照シテ(甲乙丙)ノ金高ヲ合セテ千二百圓ヲ記入スルカ如シ

第九條 縱線外身代限件數ハ訴訟ノ件目ニ關セス何圓以上ノ身代限何件アリテ此負債高若干償却高若干ニ償却割合何分ニ當ルヤ等ノ區別ヲ知ラント要スルモノトス例ヘハ上ハ金員階級中ニテ身代限(甲乙丙)三件アリ(甲)(乙)二件ハ人民相互ニテ(甲)ニ係ル原告丁戊二件(丁)ヨリ負債三十圓(戊)ヨリ負債二十圓アリ合テ五十圓ニシテ此償却高十圓(乙)ニ係ル原告(己)一件負債二百圓ニシテ此償却高五十圓而シテ(丙)一件ハ官ニ對シ負債千圓此償却高百圓ナレハ先ツ身代限中人民相互ノ下ニテ上ノ(五十圓以上百圓未満)ノ橫線ヲ照シテ(甲)一件ヲ記入シ又(百圓以上五百圓未満)ノ橫線ヲ照シテ(乙)一件ヲ記入シ更ニ

下段被告件數ノ橫線ヲ照シテ(甲乙)二件ヲ記入シ又原告件數ノ橫線ヲ照シテ(丁戊己)ノ三件ヲ記入シ又負債主人員ノ橫線ヲ照シテ(甲乙)二人ヲ記入シ又債主人員ノ橫線ヲ照シテ(丁戊己)三人ヲ記入シ又負債高ノ橫線ヲ照シテ二百五十圓ヲ記入シ又償却高ノ橫線ヲ照シテ六十圓ヲ記入シ又償却階級(百分ノ十一ヨリ二十マテ)ノ橫線ヲ照シテ(甲)一件ヲ記入シ又(百分ノ二十一ヨリ二十五マテ)ノ橫線ヲ照シテ(乙)一件ヲ記入シ再ヒ官ニ對スル下ニテ(千圓以上一萬圓未満)ノ橫線ヲ照シテ(丙)一件ヲ記入シ下段原告被告件數人員負債高償却高及償却階級ノ各橫線ヲ照シテ記入スルコト上ノ如クスルカ如シ

第十條 身代限ノ件數人員ヲ算スル例ヘハ(甲)(乙)各自(丙)ニ掛リ(丙)身代限ヲナスハ被告一件原告二件債主二人負債主一人トシ(丁)ヨリ(戊)ニ掛リ(戊)身代限ヲナシテ不足アリ猶(丁)ヨリ(戊)ノ請人(己)ニ掛リ(己)亦身代限ヲナスハ原告一件被告二件債主一人負債主二人トスルカ如シ但件數人員ハ處分濟即裁判申渡ノ上六十日間揭示濟ノ者ヲ記入ス

第十一條 洋銀ハ金圓ニ引直シテ計算ス可シ又身代限ノ上引去タル訴訟入費ノ高ハ之ヲ償却部中ニ算入ス可ラス地租區費等ハ此限ニアラス

凡民刑諸表雛形中野間甚狹クシテ字ヲ填シ難キ者ハ各廳ニ於テ適宜之ヲ廣クスヘシ

第二千六十五 明治十一年六月廿六日司法省丁第貳拾貳號

(七月一月)取調可指出尤從前民刑事諸表及取調書等有ニ關スル諸達ハ總テ相磨シ候此旨相
 達候事^{十三年丁卯拾號ヲ以テ本年ヨリ兩度ニ分ツニ不}
 及一箇年相繼メ翌年二月限リ可差出旨ヲ達ス
 但訟獄審理表毎月勘解表犯罪糾問表并ニ檢事有之廳ノ犯罪未決件數表ハ非此限
 別冊

地方裁判所民刑事訴訟表記載總例

一製表差出期限ハ一年ヲ前季(自一月至六月)後季(自七月至十二月)ノ兩度ニ分チ前季ノ分
 ハ翌七月中後季ノ分ハ翌一月中其地差立ベシ
 但用紙ハ大美濃ヲ用ヒ正副二本ヲ調成シ正本ハ左ノ書式ノ上申書ヲ添へ本省へ差出副
 本ハ其廳へ備置クヘシ(大美濃ナキ地方ハ同判ノ紙ヲ用ユヘシ)
 (民刑事訴訟表上申書(民刑事各別ニ認ム可シ))

本廳分

一第何表 何葉
 一第何表 何葉

但第何表ハ記事無之ニ付欠

第何表ハ何々ニ付何日迄ニ可差出

何支廳分<sup>區裁判所モ
之ニ準ス</sup>

、
、
、
、
、
、
、
、

、
、
、
、
、
、
、
、

右明治何年何季本支廳區裁判所^{民事訴訟表何通調成ノ上及上申候也}

年月日

司法卿某殿

何裁判所長
判事某

- 一 支區廳ノ分ハ本廳へ取繼メ長官檢閱ノ上檢印シテ本廳分ト共ニ差出スヘシ
- 一 國事紀アル裁判所ハ總テ刑事訴訟表ニ準シ斟酌シテ別ニ製表スヘシ
- 一 表中人員金員等ヲ記スル數字ヲ以テシ人員ハ千位ニ。ヲ付シ金員ハ圓位ニ。ヲ付シ千位ニ。ヲ付スヘシ
- 一 凡製表ハ事件ノ科目並計算等總テ正確簡明ニシテ事實ヲ包括シ前後齟齬ノコアル可
 ラス故ニ雛形中ニナクシテ實際アルモノハ雛形ニ準シテ目ヲ設ケ掲出スルコト勿論ナリト
 ス若シ表中區界狭少ニシテ該職ス可ラサルコトアレハ欄外餘白或ハ下ケ紙或ハ別紙ニ書取
 リ指出ス可シ記ス可キ區界ナキヲ以テ故ラニ之ヲ脱シ或ハ強テ他ノ區界へ記入スル等失
 實ノ弊ナキヲ要ス
- 一 前記表中處分ノ者若シ後季ニ至リ處分チ變スル等ノ事アラハ後季表中ニ印テ附シ欄外餘
 白ニ標出シテ其理由ヲ記載ス可シ
- 一 雛形中若シ了解シ難キ事アレハ詳細伺出可シ

地方裁判所民事訴訟表記載例

第一表

十一年丁第三拾號(區別)以下判書ヲ加フ

第一條 此表訴訟件目ニ從ヒ棄却裁許未決等ノ詳細及原被告人ノ國名 原告本籍等ヲ區別スル可シ支區廳ヨリ本廳ヘ支區廳ヨリ支區廳ヘ若クハ本支區廳ヨリ他ノ裁判所ヘ引渡成ハ受取ルノ類

第二條 人民出ス所ノ訴狀件目多種アリト雖モ其日安ノ文言ニ關セズ訴狀ノ主旨ヲ領得シテ左ノ各目ニ照シ記入スルヲ要ス件數ヲ記入スル例ヘハ東京裁判所ニ於テ金錢貸借ノ訴訟甲乙二件アリ(甲)ハ東京府ノ者ニ係リ訴訟手續ニ違フヲ以テ即日棄却シ(乙)ハ横濱ノ者ニ係リ五十日目ニ裁許セハ先ツ該件目ノ下ニテ總數ノ横線ヲ照シテ甲乙二件ヲ記入シ又前季越高ト本季新訴トノ區別ニ隨ヒ之ヲ記入シ更ニ(訴訟手續ニ違フ)ノ横線ヲ照シテ(甲)ヲ記入シ下段府縣國名中(東京府武藏國)ノ横線ヲ照シテ(甲)ヲ記入シ(被告本貫ノ國名)ヲ記入シ(甲)ヲ記入スルモ之ニ又時間區別中(即日)ノ下ニ於テ(訴訟手續ニ違フ)ノ横線ヲ照シテ(甲)ヲ記入スルニ同伴目ノ下ニテ裁許ノ横線ヲ照シテ(乙)ヲ記入シ又下段府縣國名中(神奈川縣武藏國)ノ横線ヲ照シテ(乙)ヲ記入シ再ヒ時間區別中(二月以下)ノ下ニ於テ裁許ノ横線ヲ照シテ(乙)ヲ記入スルカ如シ依テ今件目ノ種類ヲ左ニ掲ケ是レ固ヨリ其大略ヲ示スモノナルカ故ニ訴狀中或ハ此各件目ニ屬スヘカラサル異種ノ者アレハ別ニ其件目ヲ設ケテ記入スヘシ

取金

同丁第三拾號(區別)以下判書ヲ加フ

- 家督相續 (實子 養子)
- 後見
- 離婚
- 養子女離別
- 妻取戻
- 子女取戻
- 分家分地
- 雇人取戻
-
- 地所々有
- 地所境界
- 地所賣買
- 地所貸借
- 預ケ地所
- 地所書入
- 地所質入
- 開墾地ニ關スル事
-
- 雇賃
- 給金
- 席料
- 損料
- 船舶碇泊料
- 藥料
- 止宿并賄料
- 酒食料
- 藝娼妓揚代金
- 租税金
- 區入費
- 訴訟入費
- 代書代言料
- 會社金
- 小作金 (但米金相兼者ノ内金錢多キ者ハ)
- 養育金 (此ニ入ル)
-

同(米穀買賣)
ノ下割書(前
業上ノ下(ル)
ヲ除ク

道路ニ關スル事
河水ニ關スル事
用水ニ關スル事
鑛山
伐木
秣場
家屋賣買
家屋貸借
建物書入
預ケ家屋
金錢貸借
預ケ金
年月賦金
立替金

米穀賣買
米穀貸借
預ケ米穀
小作米
養育米
物品賣買
物品貸借
預ケ物品
抵當ノ物品
橫取物品
證券
公債證書
受負違約

爲替金
請負金
手金
証據金
償金
罰賦金
賣代金
地代
家賃

訴訟濟口違約
調印差拒
帳簿一覽差拒
精算差拒
營業差拒
家畜貸借
預ケ家畜
船舶貸借
出版

右件目中假ニ金錢物品米穀等ノ内ニ於テ商業ト商業ニアラサルトヲ區別スト雖モ實際此區別アルモノハ何件目ヲ問ハス必ス書分クヘシ

第三條 外國交渉等ノ件ハ符號ヲ以テ標出ス可シ例ヘハ金錢貸借ノ件裁許五件中外國人交渉三件アリ二件ハ英國人交渉ニシ此内一件ハ本國人直トナリ一件ハ本國人曲トナリ又一件ハ佛國人交渉ニシ本國人直ナレハ五件ト記スル側ニ(甲)ト記シ家賃或ハ給金ノ件ニ未決三件アリ内一件米國人交渉ナレハ三件ト記スル側ニ(乙)ト付シ表末ニ於テ(甲)號ノ内英國人交渉二件内一件本國人直佛國人交渉一件本國人直(乙)號ノ内米國人關涉一件ト記スル如シ

但前季越高並新訴部中ニ於テハ符號ヲ記スルニ及ハス

第四條 件數ヲ計算スル前季越高ト本季中新訴トヲ合シ本季中結局件數ヲ除ケハ即現在未
決件數ヲ生ス可シ各件目毎ニ右ノ如ク計算シ各横線ニ照シテ通計ノ數ヲ記ス可シ同上各
ハ横ノ誤ナ
ル旨ヲ達ス

但前季ヨリ越高ハ本季初七月一日ノ調ニシテ即前季最終六月三十日ノ未決件數タリ未
決件數ハ本季最終ノ調ニシテ即後季ヘノ越高ナリ

第五條 刑事廻ハ刑事ヘ廻シ切ノモノヲ記ス可シ若シ一時刑事ヘ廻スト雖モ未タ民事ノ結
局トナサ、ルモノハ記入ノ限ニアラス

第六條 表中空白ノ處ハ盡ク(、)、(、)、(、)ヲ填シテ脱誤ノ疑ナカラシム

第七條 訴訟ノ時間ヲ區別スル雜形ノ如シト雖モ若シ三年以上ニ渉ル者アレハ一年毎ニ區
別シテ記入ス可シ

第二表

第八條 此表第一表結局件數中ヨリ金錢ニ關スル者ヲ抽記シ其金員ノ階級ヲ區別ス但金高
ハ原告訴狀面ニ記シタル被告ヨリ受取ル可キ高ヲ以テス下段身代限件數ハ上ノ件數中ヨ
リ身代限トナリタル者ヲ抽記シ件數人員負債高償却階級等ヲ區別ス金員階級中件
數ヲ記入スル例ヘハ金錢貸借百圓ノ訴訟(甲乙)二件千圓ノ訴訟(丙)一件アレハ先ツ該件
目ノ下ニテ(百圓以上五百圓未満)ノ横線ヲ照シテ(甲乙)二件ヲ記入シ又(千圓以上一萬
圓未満)ノ横線ヲ照シテ(丙)一件ヲ記入シ更ニ金員實數ノ横線ヲ照シテ(甲乙丙)ノ金高ヲ

合セテ千二百圓ヲ記入スルカ如シ同上高ヲ以テスノ下次ノ横線
外ハ下段ノ誤ナル旨ヲ達ス

第九條 縦線外身代限件數ハ訴訟ノ件目ニ關セス何圓以上ノ身代限何件アリテ此負債高若
干償却高若干ニシテ償却割合何分ニ當ルヤ等ノ區別ヲ知ランコトヲ要スルモノトス例ヘハ上
ノ金員階級中ニテ身代限(甲乙丙)三件アリ(甲)二件ハ人民相互ニ係リ(甲)ニ係ル原
告(丁戊)二件(丁)ヨリ負債三十圓(戊)ヨリノ負債二十圓アリ合テ五十圓ニシテ此償却高十
圓(乙)ニ係ル原告(己)一件負債二百圓ニシテ此償却高五十圓而シテ(丙)一件ハ官ニ對シ負
債千圓此償却高百圓ナレハ先ツ身代限中人民相互ノ下ニテ上ノ(五十圓以上百圓未満)ノ
横線ヲ照シテ(甲)一件ヲ記入シ又(百圓以上五百圓未満)ノ横線ヲ照シテ(乙)一件ヲ記入
シ更ニ下段被告件數ノ横線ヲ照シテ(甲乙)二件ヲ記入シ又原告件數ノ横線ヲ照シテ(丁
戊己)ノ三件ヲ記入シ又負債主人員ノ横線ヲ照シテ(甲乙)二人ヲ記入シ又債主人員ノ横
線ヲ照シテ(丁戊己)三人ヲ記入シ又負債高ノ横線ヲ照シテ二百五十圓ヲ記入シ又償却高
ノ横線ヲ照シテ六十圓ヲ記入シ又償却高階級(百分ノ十一ヨリ二十マテ)ノ横線ヲ照シテ
(甲)一件ヲ記入シ又百分ノ二十一ヨリ二十五マテ)ノ横線ヲ照シテ(乙)一件ヲ記入シ再
ヒ官ニ對スル下ニテ(千圓以上一萬圓未満)ノ横線ヲ照シテ(丙)一件ヲ記入シ下段原被
告件數人員負債高償却高及償却高階級ノ各横線ヲ照シテ記入スルコト上ノ如クスルカ如
シ

第十條 身代限ノ件數人員ヲ算スル例ヘハ(甲)(乙)各自(丙)ニ掛リ(丙)身代限ヲナスルハ
被告一件原告二件債主二人負債主一人トシ(丁)ヨリ(戊)ニ係リ(戊)身代限ヲナシテ不足

アリ猶(丁)ヨリ(戊)ノ請人(己)ニ掛リ(己)亦身代限ヲナスキハ原告一件被告二件債主一人負債主二人トスルカ如シ但件數人員處分濟即裁判申渡ノ上六十日間揭示濟ノ者ヲ記入ス同(上)被告件數ハ(件)數人

第十一條 洋銀ハ金圓ニ引直シテ計算ス可シ又身代限ノ上引去タル訴訟入費ノ高ハ之ヲ償却部中ニ算入ス可ラス地租區費等ハ此限ニアラス

○支廳區裁判所

第十二條 第一表第二表ハ總テ本廳ニ準ス可シ

第十三條 勸解件數表ハ區裁判所ニテ取扱ヒタル勸解件目ニ從ヒ棄却及調不調等ヲ區別ス但第二條ヨリ第九條ニ至ル條々ヲ參照ス可シ

凡民刑諸表雜形中野間甚狹クシテ字ヲ填シ難キ者ハ各廳ニ於テ適宜之ヲ廣クスヘシ略之

第二千六十六

明治十一年十二月十日司法省丙第拾貳號 開市開港場 有之府縣 へ達

明治九年已降内國人原告ニテ外國人ニ係ル民事ノ訴訟有之候者ハ別紙雜形ニ準シ年々兩度ニ取調可差出此旨相達候事

但九年分ハ至急入用ニ付本月中ニ差出十年十一月分ハ來十二年一月中ニ可差出候事

別紙

用紙通常界紙

明治何年(自何月至何月)民事訴訟各國領事へ添狀取調書
一各國領事へ添狀民事訴訟總數若干件

件目	件數		原告人管轄廳	領事館	結局
	越高新規	越高新規			
合計					
何件					
何件					
何人					
何人					
何人					
何人					
何人					
若干國					
直何件					
曲何件					
何件					

右之通有之候也
明治何年何月何日

某府官苗字名印

- 一取調書差出期限ハ一年ヲ前季後季ノ兩度ニ分チ前季自一月ノ分ハ翌七月中後季自七月ノ分ハ翌年一月中差出可シ
- 但明治九年十年十一月分ハ前後季ヲ分タス各一年ヲ纏メ取調來十二年ヨリ本文ノ通
- 一件目ハ訴訟ノ性質ニ從ヒ其主要ヲ簡明ニ摘記ス可シ
- 一件中原告數人アリ各管轄國名ヲ異ニスル類ハ符號ヲ付シ標出ス可シ

一 訴狀却下或ハ願下等ノ類アラハ其區ヲ設テ記入ス可シ
 一 明治九年甲第拾貳號布達前刑事ノ訴訟地方官ヨリ各國領事ヘ廻ス者ニシテ右布達前結局ノモノアレハ地方官ニテ別紙ニ取調差出可シ

第二千六十七

第二千六十八 明治十五年十月五日司法省丁第五拾壹號 始審裁判所ノ限ヲハ達
 人民ヨリ郡區戸長ノ職務上ニ對スル詞訟件數ハ明治十一年丁第貳拾貳號達民事訴訟表雛形ニ準シ別表ニ調成スヘシ此旨相達候事

第二千六十九

明治十五年十月五日司法省丁第五拾貳號 始審裁判所ヘ達
 昨十四年第八拾三號公布第五條ニ依リ治安裁判所ノ裁判ニ對スル控訴及ヒ同年當省甲第四號布達人民ヨリ郡區戸長ノ職務上ニ對スル詞訟件數ハ明治十一年丁第貳拾壹號ヲ以テ各上等裁判所ヘ相達置候別紙訴訟表雛形ニ準シ調成スヘシ此旨相達候事
 但郡區戸長ニ對スル件ハ別紙雛形中初告ノ部ニ記入スヘキ儀ト心得ヘシ
 別紙 二千六百十四ニ掲出
 アルヲ以テ略ス

○第三款 刑事諸表

○第一節 治罪法ニ依リ調製スヘキ諸表

第二千七十

明治十四年十二月十九日司法省丙第拾八號 縣府ヘ達
 刑事裁判ノ宣告犯人本貫ヘ通知ノ儀裁判所ヘ別紙丁第三拾三號ノ通相達候條此旨爲心得相

治罪法ハ(二) 千二百四十二 (三) 掲出ス

〔一〕ヲ施スモノハ米字以下同シ

十五年丙第廿三號達(二千七百三十三附錄)ヲ以テ事件表差出スニ不及旨ヲ達ス

達候事 丁第三拾三號省達ハ 第二千七十ニ出ス

第二千七十一

明治十四年十二月十九日司法省丙第拾九號 警視廳府縣東ヘ達
 警察署ニ於テ審判シタル違警罪事件表并既決犯罪表別紙様式ニ照準シテ調成ス可シ尤違警罪事件表ハ治罪法第五十二條ニ從ヒ差出ス儀ト心得此旨相達候事
 別紙

〔治罪法第五十二條違警罪事件表式〕

用紙美濃ノ類

明治何年何月中何警察署(警察分署)違警罪既決未決事件表

件數	總數			既濟			未濟
	舊受	新受	無罪免訴	刑罰ノ管轄違	棄却	消滅	
何月何日調	檢察官 官氏名印						
何月何日閱	署長 官氏名印						

〔檢察官意見アル片ハ表末ニ記載ス可シ但長文ニ涉ル片ハ別紙ニ記スルモ可ナリ左ニ一ニノ文例ヲ示ス〕

〔犯罪事件前表ニ比スレハ若干ノ増加アルハ近來管内ニ某事業興起シタルニ因リ人口幅狭スルニ原由セリト思考ス〕

〔又ハ犯罪事件斯ク増加スト雖モ過半ハ何々ノ一ニ關スル犯罪ナルヲ以テ久シカラスシテ常ニ復ス可シト思考ス〕
 〔又ハ何月以來未決事件ノ増加セシハ係リ官員疾病或ハ何々ニ因リ何月以來事務ヲ執ルヲ能ハサルニ由ル〕
 〔又ハ事件ノ減少スルハ何々ニ原由セリ因テ久シカラスシテ増加ヲ見ルニ至ル可シト思考ス〕
 〔署長意見アラハ亦前文ニ準ス〕

〔治罪法第四百六十四條既決犯罪表式〕

何警察署(警察分署)既決犯罪表

氏名		〔伊藤某〕	
年	齡	〔何年何月〕	
職	業	〔何々〕	
住	所	〔何府何郡何町〕	
出生ノ地	籍	〔同上〕	
本籍	籍	〔同上〕	

治罪法ハ(二)千二百四十二ニ掲出ス

罪名	〔竊盜〕
刑名	〔禁錮何年(或ハ何月)〕
裁判言渡ノ年月日	〔初犯(或ハ再犯)〕
犯數	〔何年何月何日〕
對審關席區別	〔對審裁判(或ハ關席裁判)〕

此表一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ編綴シ探討ニ便ニス可シ
 表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準ス可シ

〔第二千七百十二〕 明治十四年十二月十九日司法省丁第三拾三號 裁判 へ達

刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍へ通知シ及ヒ犯人前科取調ノ儀是迄區々和成居候處來明治十五年一月ヨリ左ノ通可相心得此旨相達候事
 刑事裁判言渡アリタルハ治罪法第四百六十四條ニ掲グル既決犯罪表寫ヲ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ送致ス可シ右送致ヲ受タル檢事ハ其旨ヲ犯人本籍ノ地ノ戶長ニ通知シ該表ハイロハ標號ニ從ヒ區別編纂致置可シ
 犯人ノ前科取調ヲ要スルハ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ照會シ檢事ハ編纂致置タル既決犯罪表寫ヲ送致スヘシ

既決犯罪表

イ號

何裁判所

イ號目錄

伊藤某

一丁

生駒某

二丁

飯塚某

三丁

イ號目											

〔モ〕ハ朱字以下同シ

十五年四月二十五日第八號附録(ヲ以テ追加ス)

何裁判所既決犯罪表

〔號〕		イ)									
對審閣席區別	裁判言渡ヲ爲シタル年月日	犯數	刑名	罪名	本籍	出生ノ地	住所	職業	年齡	氏名	
〔對審裁判(或ハ閣席裁判)〕	〔何年何月何日〕	〔初犯(或ハ再犯)〕	〔重禁錮何年(或ハ何月)〕	〔竊盜〕	〔同上〕	〔同上〕	〔何縣何郡何村町〕	〔何々〕	〔何年何月〕	〔伊藤某〕	

イ號

此表治罪法第四百六十四條ニ依リ裁判言渡確定シ又ハ閣席裁判アリタル時其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ルモノトス但一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ之ヲ編綴シ探討ニ便ス可シ表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準ス可シ

〔第二千七百三十三〕 明治十四年十二月十九日司法省丁第三拾四號大審院裁判所へ達

治罪法第五十二條第六十八條第七十六條第八十二條第四百六十四條表式別紙之通相定候條右ニ照準シテ調成ス可シ此旨相達候事

但明治十年丙第拾七號違犯罪未決件數表丁第六拾貳號違犯罪糾問表ハ來十五年一月一日ヨリ廢止候事

別紙 用紙美濃ノ類

〔第壹號〕 治罪法第五十二條違警罪事件表式

明治何年何月中何違警罪裁判所違警罪既決未決事件表	總數	既	濟	未濟
違警罪	舊受	新受	無罪免訴	刑言渡ノ管轉送ノ言渡
	棄却	消滅	願下	

〔モ〕ハ朱字以下同シ

何月何日調
何月何日調
何月何日調
何月何日調
何月何日調
何月何日調
何月何日調
何月何日調
何月何日調
何月何日調
何月何日調
何月何日調

〔檢察官意見アルキハ表末ニ記載ス可シ但シ長文ニ涉ルキハ別紙ニ記スルモ可ナリ左ニ一二ノ文例ヲ示ス〕

〔犯罪事件前表ニ比スレハ若干ノ増加アルハ近來管内ニ某事業興起シタルニ因リ人口転々スルニ原由セリト思考ス〕

〔又ハ犯罪事件斯ク増加スト雖モ過半ハ何々ノニ關スル犯罪ナルヲ以テ久シカラスシテ常ニ復ヌヘシト思考ス〕

〔又ハ何月以來未決事件ノ増加セシハ係リ官員疾病或ハ何々ニ因リ何月以來事務ヲ執ルコト能ハサルニ由ル〕

〔又ハ事件ノ減少スルハ何々ニ原由セリ因テ久シカラスシテ増加ヲ見ルニ至ル可シト思考ス〕

〔裁判所長意見アラハ亦前文ニ準ス〕

〔附録〕

明治十五年六月十六日司法省丙第廿三號 裁判所警視廳府 附東京府ヲ除クヘ達

昨十四年内第拾九號丁第拾四號達中自今違警罪事件表ハ三通ヲ差出シ輕罪裁判所檢事ハ其一通ヲ備置二通ヲ差出シ控訴裁判所檢事長ハ又其一通ヲ備置豫審及輕罪事件表

111

ハ二通ヲ差出シ控訴裁判所檢事長ハ亦其一通ヲ備置各一通ヲ本省ヘ差出ス可シ此旨
相達候事

〔第貳號 治罪法第六十二條豫審事件表式ノ一〕

明治何年 自何月 至何月 何輕罪裁判所豫審既決未決事件表

豫審	豫審件數上數ノ内			既	濟	未
	受	新	現			
受	受	行	行	受	受	受
行	行	行	行	行	行	行
訴	免	既	既	既	既	既
移	所	所	所	所	所	所
移	移	移	移	移	移	移
移	移	移	移	移	移	移
行	行	行	行	行	行	行
却	却	却	却	却	却	却
減	減	減	減	減	減	減
下	下	下	下	下	下	下
濟	濟	濟	濟	濟	濟	濟
受	受	受	受	受	受	受
受	受	受	受	受	受	受
濟	決	決	決	決	決	決
未	未	未	未	未	未	未
告	告	告	告	告	告	告

何月何日調

檢事官氏名印

何月何日聞

所長官氏名印

〔檢事及ヒ所長意見ヲ記載スルハ違警罪表式ニ準ス〕
此表總テ件數ヲ以テ記載ス可シ既濟未濟ノ日數ハ受理ノ日ヨリ豫審終結或ハ送致シタル
日迄ヲ算ス以下各表之ニ準ス

既濟未濟日數二月以上ノ者アラハ二月以上三月未滿三月以上六月未滿六月以上一年未滿ト
記スヘシ其一年以上ニ及フ者ハ一年毎ニ區別シテ記入シ未濟三月以上ニ及フ者ハ其理由ヲ
説明スヘキ者トス以下各表之ニ準ス但豫審中止ノ分ハ其總件數ヲ記スルニ止マリ中止日數
ヲ區別記入スルニ及ハス十六年丁第三拾七號
省達ヲ以テ本項改正
表中斜線ヲ填シタル欄ハ件數ヲ記入スルニ及ハス以下各表之ニ準ス

附錄 明治十六年九月廿八日司法省丁第廿六號始審裁
判所へ達

豫審事件中被告人ノ屬籍氏名等分明ナラスシテ豫審終結ノ言渡ヲ爲ス能ハサル場合ニ
於テ期滿免除ニ至ル迄猶ホ豫審判事ノ手ニ留置クモノハ通常ノ未決件數ト混淆セサル
爲メ明治十四年丁第三拾四號達第貳號豫審既決事件表中未濟ノ下及ヒ明治十五年ノ丁
第五號達豫審第一表末段ニ於テ(豫審中止)ノ一區ヲ設ケ其件數ノミヲ記入スヘシ此旨
相達候事

〔第三號 治罪法第六十二條豫審表式ノ二〕

明治何年 自何月何日 何輕罪裁判所豫審未濟人員表

日數區別	未濟總人員		入	監	保釋	責付	不入監
	舊受	新受					
十日未滿							
一月以上							
二月以上							
合計							
<p>何月何日調 檢事官氏名印</p> <p>何月何日聞 所長官氏名印</p>							

此表未濟人員ノ現在ヲ以テ記ス可シ例ヘハ先ニ拘留スト雖モ現ニ收監ナレハ現ニ收監
シタル日數ヲ以テ記スルカ如シ但不入監トハ收監拘留保釋責付ヲ爲サ、ル人員ヲ云フ

〔第四號 治罪法第六十二條輕罪事件表式〕

明治何年 自何月何日 何輕罪裁判所輕罪既決未決事件表

總數	上數ノ内	既	濟	未	會 議 局 上 數 ノ 内	總
----	------	---	---	---	---------------------------------	---

件 數	輕 罪		
	舊受 新受	豫審直ニ ヲ經公判 タルニ付 モノモシ	刑ノ 轉 免訴 言渡 言渡
既濟未濟日數	十日未滿	十日以上 一月未滿	一月以上 二月未滿
	〃	〃	〃
何月何日調	〃	〃	〃
何月何日閱	〃	〃	〃
檢事官氏名印	〃	〃	〃
所長官氏名印	〃	〃	〃

〔檢事及ヒ所長意見ヲ記載スルハ違警罪表式ニ準ス〕
 治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルハ本表ニ準シ其裁判所々在ノ警部之ヲ調成シ管轄ノ輕罪裁判所檢事長ニ差出シ輕罪裁判所檢事長之ヲ取纏メ左ノ表式ニ準シテ更ニ調成シ管轄ノ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ十五年丁第八號省達ヲ以テ本
 但昨十四年第七拾七號公布ニ依リ總テノ輕罪ヲ裁判スヘキ各治安裁判所ノ豫審表モ此例ニ準スヘシ十五年丁第四拾八號省達但書追加

〔ハ〕ヲ施スモ
ハ朱字

〔第四號乙 治罪法第六十二條輕罪事件表式〕

明治何年 自何月何日何輕罪裁判所輕罪既決未決事件表	輕 罪	總數	既濟	未濟
		豫審直ニ ヲ經公判 タルニ付 モノモシ	刑ノ 轉 免訴 言渡 言渡	刑ノ 轉 免訴 言渡 言渡
何輕罪裁判所件數	何治安裁判所件數	合計	十日未滿	十日以上 一月未滿
			〃	〃
何月何日調	〃	〃	〃	〃
何月何日閱	〃	〃	〃	〃
檢事官氏名印	〃	〃	〃	〃
所長官氏名印	〃	〃	〃	〃

〔檢事及ヒ所長意見ヲ記載スルハ違警罪表式ニ準ス〕

第三部 第九編 第五章 第三款 第四節

〔第五號 治罪法第六十八條輕罪控訴事件表式〕

明治何年 自何月何日 何控訴裁判所輕罪控訴歸決未決事件表

原裁判所	總件數		既濟		未濟		合計	既決未決日數			
	舊受	新受	全原裁判	異原裁判	重罪裁判	棄却消滅願下		十日未滿	十日以上一月未滿	一月以上二月以下	
何月何日調											
何月何日調											
何月何日調											
何月何日調											
何月何日調											
何月何日調											
何月何日調											
合計											

檢事長 官氏名印

何月何日調

所長 官氏名印

〔檢事長及ヒ所長意見ヲ記載スルハ違警罪表式ニ準ス〕

〔第六號 治罪法第七十六條重罪既決事件表〕

明治何年 自何月何日 何裁判所重罪既決事件表

公訴ヲ受理シタル原聲名	總件數	上内		會議局件數	總テノ上告
		無罪	免罪		
何月何日調					
何月何日調					
何月何日調					
何月何日調					
何月何日調					
合計					

檢事長 官氏名印
所長 官氏名印

〔檢事長及ヒ所長意見ヲ記載スルハ違警罪表式ニ準ス〕
〔第七號 治罪法第八十二條大審院既決未決事件表式〕

明治何年 自何月 至何月 大審院既決未決事件表ノ一 上告

原裁判所	總件數		上數ノ内		既		濟	
	舊受	新受	檢事ノ 上告	被告ノ 上告	破毀 指 定	棄却	消滅 願下	濟
合計	十日以下	十日以上 一月未満	一月以上 二月未満	合計	十日以下	十日以上 一月未満	一月以上 二月未満	
既濟未濟日數								
何月何日調								

檢事長 官氏名印

何月何日閱

院長 官氏名印

〔檢事長及ヒ院長意見ヲ記載スルハ違警罪表式ニ準ス〕
〔第八號 治罪法第八十二條大審院既決未決事件表式〕

明治何年 自何月 至何月 大審院既決未決事件表ノ二 哀訴再審裁移管轄ヲ

事件	總件數		上數ノ内		既		濟	
	舊受	新受	檢 察 官 ヨリ	刑ノ 受 ク モ 其 他 ノ ヨリ	破毀 指 定	管轄 ヲ 移 ス	棄却	消滅 願下
哀訴								
再審ノ訴								
裁判管轄ヲ定ルノ訴								
裁判管轄ヲ移スノ訴								
合計	十日未満	十日以上 一月未満	一月以上 二月未満	合計	十日未満	十日以上 一月未満	一月以上 二月未満	
既濟未濟日數								
何月何日調								

第三部 第九編 第五章 第三款 第壹節

何月何日調

檢事長

官氏名印

何月何日閱

院長

官氏名印

〔檢事及ヒ院長意見ヲ記載スルハ違警罪表式ニ準ス〕

大審院ノ表式ハ分テ第一第二トス第一ハ上告ヲ記シ第二ハ哀訴再審ノ訴裁判管轄ヲ定ルノ訴裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ記ス

〔第九條 治罪法第四百六十四條既決犯罪表式〕

何裁判所既決犯罪表

〔伊藤某〕

氏名	〔何年何月〕	〔何々〕	〔何府何郡何町〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕
年	〔何年何月〕	〔何々〕	〔何府何郡何町〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕
職	〔何々〕	〔何々〕	〔何府何郡何町〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕
住	〔何年何月〕	〔何々〕	〔何府何郡何町〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕
出生ノ地	〔何年何月〕	〔何々〕	〔何府何郡何町〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕
本籍	〔何年何月〕	〔何々〕	〔何府何郡何町〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕
罪名	〔何年何月〕	〔何々〕	〔何府何郡何町〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕
刑名	〔何年何月〕	〔何々〕	〔何府何郡何町〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕

犯數	〔初犯(或ハ再犯)〕
裁判言渡ノ年月日	〔何年何月何日〕
對審關席區別	〔對審裁判(或ハ關席裁判)〕

此表一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ編綴シ探討ニ便ニス可シ
 表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモナレハ(ロ)以下モ之ニ準ス可シ治罪法第四百六十五條ニ從ヒ本省ニ送致スルニハ一月分ヲ編綴シテ一冊トナシ每翌月十五日迄ニ差立可シ

〔附錄〕 明治十五年十二月六日司法省丁第五拾八號 大審院 裁判所 へ達
 昨年丁第三拾三及三拾四號達ニ係ル既決犯罪表中刑名及犯數ノ兩條別紙之書例追加候條右ニ準シ記載スヘシ此旨相達候事

別紙
 丁第三拾三及三拾四號達中既決犯罪表書例追加
 一 刑名ノ條ヲ記スルニ假令ハ重禁錮何年監視何月(自首若クハ附量)又ハ(再犯若クハ刑法何)ノ如ク加減或ハ再犯加重ニ係ル者ハ必ラス之ヲ附記スヘシ若シ無罪及免訴ニ係ル者アル時ハ証憑不充分ニ付無罪又ハ期滿免除確定裁判ヲ經ルニ付免訴ト書スルカ如ク無罪ノ事由并ニ治罪法第二百二十四條第三以下各項ノ事由ヲ簡明ニ附記スヘシ
 一 犯數ノ條ハ(舊法ニ據リ處斷何度)ト區別記載スヘシ(新法ニ據リ處斷何度)ト區別記載スヘシ

〔二千七十四〕 明治十五年二月十七日司法省丁第拾三號 大審院へ達

明治十四年第八拾貳號布告ニ依リ處分セシ刑事事件數ハ既決未決事件表中ニ記載難致儀モ可有之ニ付左ノ書式ニ準シ表末或ハ別紙ニ記載ス可シ此旨相達候事

一十四年十二月殘件

既濟	何件
未濟	何件

糾問件數及ヒ大審院ノ死罪案件數控訴裁判所ノ懲役終身案件數等ハ本文ニ準シ各別ニ掲ク可シ

〔二千七十五〕 明治十六年三月十九日司法省丁第拾三號 裁判へ達

始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開クキノ手續等ニ付本年一月第七拾貳號ヲ以テ内訓ニ及置候處其重罪事件表ニ係ル事實ノ探討若クハ此ニ關スル景況ノ通報等ハ右始審裁判所檢事ヲシテ其取調ヲ爲サシムルモ總テ是迄ノ通治罪法第七十六條并明治十四年當省丁第三拾四號達ニ據リ控訴裁判所檢事長ニ於テ之ヲ調成シ差出スヘキ事ト心得ヘシ爲念此旨相達候事

○第貳節 刑事裁判統計表ノ材料ニ供スル諸表

〔二千七十六〕 明治十五年一月十六日司法省丙第壹號 警視廳府縣東へ達

今般刑法治罪法實施ニ付テハ今後刑事裁判統計表之材料ニ供候間別紙表式及書例ニ準シ每

年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ違警罪事件ヲ記載シ翌年二月マテニ取纏メ差出ス可ク候條此段相達候事

別紙

違警罪裁判所

公判第一表 此表ハ違警罪ノ公判ニ係ル件數及人員ヲ記載スル者トス

第一欄

此欄ニハ刑法第四百二十五條以下ノ各項ニ從テ犯罪ノ性質ヲ詳カニ記載スル者トス此他各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪モ亦實際ノ罪狀ヲ詳明ニ記載スルヲ要ス以下各表中犯罪ノ性質ヲ記スヘキ欄ハ皆之ニ倣フヘシ

但初メニ男ノ罪狀ヲ條列シ次ニ女ノ罪狀ニ及フヘシ

第二欄

此欄ニハ表目ノ如ク一項ニ前年ヨリ越高ノ件數アレハ之ヲ記シ本年受理ノ件中一節ハ治罪法第三百二十一條ノ一項ニ係ル者ニシテ二節以下ハ同條二項ヲ區分シテ記載スル者ナリ

但女ノ件數中前條男ノ件ト同一ニシテ前後再出スル者ハ女ノ件數各項内ニ於テ重複數ヲ朱書スヘシ假令ハ女ノ各條中六十件アリ前ノ男ト同一ノ件十三アレハ 四七ノ如ク書シ合計迄各項皆同シヲ以テ本文ヲ追加ス

第三欄

第三部 第九編 第五章 第三款 第貳節

此欄ニハ前年ノ殘件中ノ人員ト本年受理中ノ人員トヲ區分記載スヘシ

第四欄

此欄ニハ對審ト缺席裁判トノ人員ヲ區分記載スヘシ

第五欄

此欄ニモ亦書例ヲ舉ル如ク裁判言渡ニ從テ被告人員ヲ記載スヘシ

違警罪裁判所

公判第二表 此表ハ公庭内ニ於テ犯セシ違警罪ノ公判ニ係ル件數及ヒ人員ヲ記載スル者トス
此表ハ第二欄ノ二項ヲ除ク外總テ第一表ノ例ニ依ルヘシ

別號第一表 此表ハ科料言渡及裁判費用ニ係ル總數ヲ記載スル者トス

此表ノ書例ハ既ニ各條ニ付テ説明スルカ如シ但證人等ノ科料言渡ヲ取消シタル者ハ其人員及金額ヲ記スルニ及ハス

別號第二表 此表ハ囑託ヲ受ケシ總數ヲ舉テ其執行時間ヲ區分スル者トス

第一欄

此欄ハ既ニ書例ヲ舉ル如シ然レ若シ三月以上ニ至ル者アル時ハ其箇條ヲ附加スヘシ

第二欄以下

第二欄ニハ前年ノ殘件ト本年ノ新件トヲ區分シテ總件數ヲ舉ル者トス但本表欄外既ニ説明セシ期限ニ從テ記載スルコトヲ要ス即チ前年ノ項中囑託ノ到着セシヨリ本年一月十日マテニ執行報知シテ其日數十五日トナルノ類ハ之ヲ上欄第二條ノ下ニ記スルカ如シ以下ノ書例皆之ニ準スヘシ

何違警罪裁判所

公判第一表 本表ハ違警罪ノ公判ニ係ル既決(監六寸四分)横五寸三分)件數人員等ヲ記載スル者ナリ

件數		前年		本年受理ノ件		計		被訴人員		前年		本年		計		管轄		無罪		免稅		拘留		科料		計			
件	殘	リ	ヨ	年	前	本年受理ノ件	計	人員	爲シタ	人員	前年	人員	本年	計	管轄	無罪	免稅	拘留	科料	計	管轄	無罪	免稅	拘留	科料	計			
リ	ニ	ヨ	決	ニ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ
リ	ニ	ヨ	決	ニ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ	リ	ヨ

計	女	男	一		件
			前年ヨリノ件		二
			本年ノ新訴		
			計		三
			前年ノ人員		
			本年ノ人員		
			計		四
			對	審	
			欠	席	
			管轄		五
			無罪		
			免訴		
			十日以上二十日以下		六
六日以上十日以下					
一日以上五日以下		七			
一日以下					
料		八			
圓					
計					

表中左ノ箇條アル時ハ之ヲ欄外ニ條列シ既ニ違警罪ノ被告人タリシ者ト區分スルヲ

計	女	男	一		件
			前年ヨリノ件		二
			本年ノ新訴		
			計		三
			前年ノ人員		
			本年ノ人員		
			計		四
			對	審	
			欠	席	
			管轄		五
			無罪		
			免訴		
			十日以上二十日以下		六
六日以上十日以下					
一日以上五日以下		七			
一日以下					
料		八			
圓					
計					

此他若シ十二月三十一日取調中ニシテ翌年ニ越スヘキ件アレハ別ニ欄外ニ於テ件數及人員ヲ區分記載スヘシ

何違警罪裁判所

公判第二表 此表ハ訟廷内ニ於テ犯セシ違警罪ノ公判ニ限リ記載スヘシ

要ス

- 一 何犯罪ノ條 何處斷ノ内 証人何人
- 一 何犯罪ノ條 何處斷ノ内 民事原告人何人
- 一 何犯罪ノ條 何處斷ノ内 代人何人

此他若シ民事擔當人鑑定人等ニシテ既ニ被告人タリシ者ト區分スヘキ者アレハ前條ノ例ニ依リ一々區別シテ記載スヘシ

右ノ外訟廷内ノ違警罪ニシテ十二月三十一日取調中ニシテ翌年ニ越スヘキ件アレハ別ニ欄外ニ於テ件數及人員ヲ區別記載スヘシ

一 証人呼出ニ應セスシテ科料ヲ言渡シタル者アレハ左ノ各條ニ從ヒ其人員及金額ヲ記載スヘシ

一 証人呼出ニ應セサル者

人員總計

科料

一圓以上
全 以下

人員
全

一 証人再度ノ呼出ニ應セサル者 人員總計

科料

二圓以上
全 以下

人員
全

○ 此他若シ科料ノ言渡ヲ取消シタル者アル時ハ唯其人員ノミヲ掲載スヘシ

何違警罪裁判所

別號第一表 此表ハ科料ニ係ル人員及金額ヲ總テ記載スル者トス

科料人員及金額

總 數

區 別

被告人員

科料

金額

完納
不完納
人員金額
人員金額

人員金額ノ下各其員數ヲ記載スヘシ以下皆同シ

科料ヲ拘留ニ換ヘシ人員

拘留 二日 人員

全 一日 人員

計

前條ノ外左ノ各件アレハ其人員及金額ヲ記スヘシ

裁判費用

被告人員

被告人員

賦課金被

給與金額

第三部 第九編 第五章 第三款 第貳節

右給與ノ條ハ官ニテ擔當セシ金額ヲ掲載スヘシ

証人人員

証人人員

賦課金額

給與金額

右証人ノ外裁判ノ費用ニ係ル者アレハ其名稱ヲ掲テ人員及金額ヲ條列スヘシ



何違警罪裁判所

別號第二表

此表ハ囑託ニ係ル總件數ヲ掲ケ兼テ執行時間ヲ示ス者トス此時(監六寸二分)間ハ囑託ノ若日ヨリ執行若クハ十二月三十一日マテノ期限アリ(横三寸)

囑託執行時間	囑託件數			執行件數	十二月三十一日取調中
	前年ノ件	本年ノ件	計		
十日以下					
十一日至二十日					
二十一日至三十日					
計					

一月以上
三月以上

計

附録

明治十五年一月廿七日司法省丙第貳號警視廳府縣東へ達

本年丙第壹號ヲ以テ相違候違警罪各表式ノ欄外ニ何違警罪裁判所ト記載アリト雖當分之内左ノ書例ニ據リ記スル者ト可心得此旨相違候事

違警罪公判表欄外ノ廳名ハ姑ク左ノ例ニ據ルヘシ

何府縣
何警察署

又ハ

何府縣

何警察分署

第二千七十九

明治十五年一月十六日司法省丁第五號始審裁へ達

今般刑法治罪法實施ニ就テハ今後刑事裁判統計表之材料ニ供候間別紙表式ニ準シ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日マテノ豫審事件ヲ記載シ翌年二月マテニ取纏メ差出スヘク候條此

第三部 第九編 第五章 第三款 第貳節

第二欄内件数人員ノ各項中前年分トハ前年十二月三十一日終結セシテ本年ニ廻ハリシ者ニテ本年分トハ本年一月一日ヨリ十二月三十一日マテノ被告人員トス

第三欄内ハ表目ノ如ク言渡ヲ區別シ被告人員ヲ列載スヘシ

第四欄内モ亦表目ノ如ク區別シ被告人員ヲ列載スヘシ其前ニ拘留セシ者モ其後保釋及賞付セシ者ハ保釋及賞付中ニ合シ拘留人中ニハ之ヲ除ク其他之ニ倣フヘシ總テ終結セシ者ハ言渡ノ時ノ現況ニ依リ若クハ未決ノ者ハ十二月三十一日ノ現況ニ依リ詳載スヘシ

第五欄内ハ表目ノ如ク十二月三十一日未決ノ件アレハ之ヲ記スヘシ

右第一表ニ設ケタル各欄ノ外左ノ各件アレハ其件數ヲ本表ニ準シテ附屬表ヲ製スヘシ

治罪法第百十四條上半截

一 被告人ヲ尋問スルニ止リ檢事ニ送致スルニ及ハサリシ件

一 檢事ニ送致セシ件

一 治罪法第百十五條末項

一 檢事ニ通知スト雖モ起訴ヲ爲サ、ル件

一 治罪法第百十六條全文

一 他ノ豫審判事ニ送致セシ件

同條

一 他ノ豫審判事ヨリ送致セシ件

一 治罪法第百三十五條

一 各控訴裁判所檢事長ニ捜査及逮捕ヲ請求セシ件

右ノ外此類ノ箇條アレハ亦條列スヘシ但囑託ノ件ト混ス可カラズ

豫審第二表 此表ハ保證金及保釋費付ニ係ル人員ヲ記スル者トス

保證金ヲ出	自己ヨリ
セシ人員	他人ヨリ
金額ニ充ツヘキ証	自己ヨリ
書ヲ出セシ人員	他人ヨリ

保證金及証書ノ區分 人員

件數 件數 件數 件數 件數

豫審第三表

起訴ヨリ五日 全	十日 全	十五日 全	二十日 全
件數	件數	件數	件數
管轄 非	管轄 非	管轄 非	管轄 非
免訴	免訴	免訴	免訴
裁 判 所 移 ス	裁 判 所 移 ス	裁 判 所 移 ス	裁 判 所 移 ス
計	計	計	計
川 取 調 中 日 月	川 取 調 中 日 月	川 取 調 中 日 月	川 取 調 中 日 月

此時間ハ即チ受理ヨリ終結マテノ期限トス但十二月三十一日取調中ノ欄ハ受理ヨリ十二月三十一日マテノ期限トス總テ此期限ヲ各欄ニ照シ件數及人員ヲ記載スヘシ

計

保釋及賞付ノ言渡ヲ取消シタル被告人員
保釋ヲ取消シタル者
賞付ヲ取消シタル者

計

若シ左ノ條ニ係ル者アレハ其人員ヲ記スヘシ
保釋ノ請求ヲ棄却シ
タル者

全第四表

五日 全	十日 全	十五日 全	二十日 全
入監時間	入監時間	入監時間	入監時間
管轄 非	管轄 非	管轄 非	管轄 非
免訴	免訴	免訴	免訴
裁 判 所 移 ス	裁 判 所 移 ス	裁 判 所 移 ス	裁 判 所 移 ス
計	計	計	計

此時間ハ拘留及收監狀ヲ發シテ監倉ニ入リシヨリ終結マテノ期限トス但シ保釋費付人員モ總テ合算スヘシ

計	全	一月内	一月内
	全	二个月内	二个月内
全	三月内	三月内	三月内
全	三月以上	三月以上	三月以上
全	六月以上		
全	一年以上		
計			

第二欄内ハ第一表第二欄件数及人員ノ合計ヲ記スヘシ
 第三及四欄内ノ事例ハ第一表ノ如シ
 豫審第五表 此表ハ免訴言渡ノ區
 分ヲ舉クル者トス

犯罪ノ性質

免訴言渡ニ因リ終結セシ人員	証憑充	被告人員
	分ナラ	計
罪ト	公訴ノ	監入
	期滿免	
除	ヲ裁判	監入不
	赦大	
	免全	計

第一欄内 此欄内ニハ思料セシ犯罪ヲ以テ刑法各條ニ照シ其罪狀ヲ記スヘシ
 第二欄内 此欄内免訴ニ係ル人員ヲ舉ル者トス其各項ハ治罪法二百二十四條參看スヘシ
 第三欄内 此欄内ハ表目ノ如ク區別シテ上欄ノ人員ヲ記スヘシ入監トハ勾留セシ人員ヲ云フ不入監トハ曾テ勾留セサル人員ヲ云
 豫審第六表囑託事件 此表ハ表目ノ如ク訊問其外囑託ヲ受ケシ事件ヲ
 舉ル者トス此時間ハ囑託ノ到着セシ日ヨリ之ヲ
 執行シテ報知セシマテノ期限ナリ

執行時間	件數	他應ヨリ囑託ヲ受ケシ各件			
		治罪法第百十 九條	治罪法第百二 十四條	治罪法第百二 十五條	治罪法第百七 十二條二項
十日以下					
十一日至二十日					
二十一日至三十日					
一月至二月					
二月至三月					
三月以上					
十二月三十一日發件					
計					

右表中三欄内各項ノ外他應ヨリ囑託ヲ受ケシ者アレハ表中ニ別項ヲ設ケテ記載スヘシ
豫審第七表 此表ハ豫審ニ係ル被告人及証人等ノ裁判費用ヲ條列スル者トス

免 達 違 輕 重 罪 罪 訴	言 渡 ノ 區 分	被 告 人 員 証 人 人 員	鑑 定 人	通 事	裁 判 費 用 金 額	
					賦 課	給 與
計						

一 鑑定人ノ内ニハ醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者ヲ總テ合算スヘシ

一 賦課ノ項ハ被告人ニ科シ若クハ証人ヲシテ擔當セシメシ金額即チ治罪法百七十六條第二項等ニ係ル者ヲ算クヘシ

二 檢與ハ治罪法百九十條及二百條等ニ係ル者ヲ總テ合算スヘシ

豫審第八表 此表ハ豫審中罰金ヲ言渡セシ人員ヲ記載スル者ナリ

犯 罪 ノ 性 質	罰 金 言 渡 ニ 係 ル 人 員 區 分		計
	証 人 鑑 定 人	通 事	
	金 額 區 分 ニ 付 テ ノ 人 員		
	二 十 四 十 以 上	四 十 以 上	計

故 ナ ク 解 剖 ヲ 肯 セ ス	
故 ナ ク 分 析 ヲ 肯 セ ス	
故 ナ ク 鑑 定 ヲ 肯 セ ス	
故 ナ ク 陳 述 ヲ 肯 セ ス	
故 ナ ク 宣 誓 ヲ 肯 セ ス	
呼 出 ニ 應 セ ス	
再 度 ノ 呼 出 ニ 應 セ ス	
計	

此他若シ上欄記載外ノ條アレハ各條ノ例ニ依リ簡明ニ其事由ヲ記載シ又言渡人員ニ於テ記載外ノ者アレハ通事以下ノ空欄中ニ其名稱ヲ記スルコトヲ要ス
右上欄各條ニ照シ人員區分ト金額區分ニ從テ其人員ヲ記載スヘシ
一 前表ノ事件ニ就キ其言渡ヲ取消シタル者ハ左ノ箇條ニ從テ別紙ニ條列スヘシ
鑑定人ノ解剖ヲ肯セサル者 何人
証人ノ陳述ヲ肯セサル者 何人
証人ノ陳述ヲ肯セサル者 何人
証人ノ呼出ニ應セサル者 何人
証人ノ再度ノ呼出ニ應セサル者 何人

第二千八十一 明治十五年十一月廿五日司法省丙第三拾三號(始審裁判所府縣へ達
治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタル日ハ本年當省丁第五號達中檢事處分表雛形ニ準シ

檢事ノ職務ヲ代理スル警部ニ於テ之ヲ調成シ管轄ノ輕罪裁判所檢事ニ差出シ輕罪裁判所檢事ハ之ヲ取總メ共ニ差出スヘシ此旨相達候事

第二千八十二 明治十五年五月十八日司法省丁第三拾壹號 大審院 裁判所へ達

明治十一年丁第貳拾及貳拾壹貳拾貳號達中刑事訴訟表雖形並記載例ヲ廢シ更ニ別冊之通刑事裁判統計材料表式并書例相定候條本年分ヨリ右ニ準シ其應ニ於テ取扱タル事件ヲ記載シ翌年三月限り差出スヘシ此旨相達候事

但大審院各表ハ裁判所ニ附セス

治安裁判所ニ於テ輕罪各表ヲ調成シタル時ハ所轄ノ始審裁判所ニ於テ之ヲ取總メ共ニ差出スヘシ

別冊略

第二千八十三 明治十五年五月十八日司法省丁第三拾貳號 大審院 裁判所へ達

明治十一年丙第拾壹號達相廢シ更ニ別冊之通刑事裁判統計材料中特赦表式並書例相定候條本年分ヨリ右ニ準シ特赦事件ハ監獄長ヨリ中立シ者ニ至ル迄總テ調成シ翌年三月マテニ差出スヘシ此旨相達候事

別冊略

第二千八十四 明治十五年九月一日司法省丁第四拾五號 裁判所へ達

重罪ト雖モ法律上ノ減輕ニ因リ輕罪以下ノ刑ニ處スヘキ者ハ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬スル儀ニ候處右ハ輕罪公判各表ニ據リ難キ場合アルヲ以テ此類ニ限り重罪公判各表ノ例ニ準シ編

▲一五

成シ輕罪各表ト共ニ差出ス儀ト心得ヘシ此旨相達候事

第二千八十二 明治十五年七月十一日司法省丁第三拾七號 裁判所へ達

本年五月丁第三拾貳號ヲ以相達候諸表郵紙ハ本省ニ於テ摺立相渡候條紙數取調請求方第九局へ可申出候事

但本文紙數ニ對スル費用ハ其應經費ヲ以支拂候儀ト可心得

第二千八十三 明治十五年十二月八日司法省丁第六拾號 裁判所へ達

本年五月丁第三拾壹號ヲ以テ相達候刑事裁判統計表式ノ内重輕罪公判表式ニ係ル別號第貳及三表附帶私訴表會議局故障事件表ノ外公判各表ハ照查ノ都合有之ニ付各廳ニ於テ調成スルニ及ハス候尤右表式中重輕罪登記簿ノ別紙登記簿徵集簡條書ノ順序期限等ニ據リ逐次ニ取調差出ス可シ此旨相達候事

別紙略

第二千八十四 明治十六年十月廿二日司法省丁第貳拾八號 裁判所へ達

重輕罪登記簿ノ義ニ付テハ明治十五年丁第三拾壹號并同年丁第六拾號ヲ以テ相達置候處猶ホ一層注意ノ爲メ左ノ通り登記簿徵收簡條并取扱順序増補候條自今右ニ準シ各表式ノ材料ニ適應スヘキ様鄭重ニ記載スヘシ此旨相達候事

重輕罪登記簿書例并取扱順序之略

第二千八十五 明治十五年十二月八日司法省丁第六拾壹號 裁判所へ達

本年六月太政官ヨリ第三拾九號ヲ以テ御達シアリタル如ク統計材料計查ノ忽セニス可ラサ

丁第廿及貳拾
八(二)千六十六
三(二)千六十六
四(二)千六十六
五(二)千六十六

ルハ固ヨリ言ヲ待タス今般丁第六拾號達ヲ以テ裁判所ヨリ重輕罪登記簿ヲ徵集スル旨趣モ亦裁判統計材料點檢ノ方法ヲ益精覈ナラシムルニ在ルナリ抑材料各條記載ノ明晰ニシテ事實ノ正確ナルハ各廳表紀擔任者ノ勸勞ニ因ラサル可カラズ然モ各條採録ノ際裁判官若クハ檢察官ニ就キ其事由ノ探討ヲ要スル事アルヘシ故ニ其各員ニ於テモ亦表紀擔任者ヨリ質問スルニ方リ正實ニ應答スルハ勿論ナリト雖モ尙ホ一層鄭重ニ注意致スヘシ此旨相達候事

○第四款 民刑各表并登記心得進達書例

第二千八十六 明治十六年十二月廿八日司法省丁第四拾號^{裁判所}へ達

民刑事各表并登記簿等進達ノ際爾後左ノ書例ニ準シ必ス目錄ヲ添フヘシ此旨相達候事
但民事訴訟表添書目錄モ亦左ノ如ク改正ス

各表並登記簿進達目錄凡例

- 一 登記簿並輕罪既決未決事件表ハ每季分ヲ其翌月中ニ進達スヘシ其他諸表ハ其進達期限ニ從テ可シ若シ已ムヲ得サル事故アリテ其期限ニ進達スルヲ能ハサルハ其事由ヲ具シ期限ヲ豫定シテ延期ヲ請フヘシ
- 一 治安裁判所ノ登記簿其他左ノ各目錄ニ掲クル諸表ハ各本廳管内治安廳ノ分ヲ取纏メ一同ニ進達スヘシ又各支廳ニ於テモ亦其管内治安廳ノ分ヲ取纏メ直ニ進達スヘシ
- 一 但シ刑事既決未決事件表ハ從前ノ手續ニ從フ
- 一 登記簿ハ一冊毎ニ其表適宜ノ場所ニ於テ其簿冊ノ紙數何枚及件數何件ト記載スヘシ

民事訴訟表上申目錄

何 裁判所

一何年分 民事訴訟表^{第壹表}

何 枚

一同上 控訴并郡區戶長ノ職務ニ對スル民事訴訟表

全

計 何 枚

但控訴裁判所民事訴訟表ハ明治十年丁
第貳拾號達候書表上申書ノ例ニ因ル

何治安裁判所分

一何年分 民事訴訟表

何 枚

一同上 勸解表

全

計 何 枚

合計 何 枚

(右ノ内記載スヘキ事件ナキハ某處何々ノ表ハ記載スヘシ
但延期中ノ者モ其旨記載スヘシ)

右目錄ノ通及進達候也

年月日

何 裁判所長官氏印

重輕罪登記簿上申目錄^(遺留罪アレハ輕罪ノ次)

何 裁判所

一至何月

重罪登記簿

何 冊

一同上 輕罪登記簿
 一同上 諸罰則登記簿
 一同上 遲不參登記簿

全全全

計何冊

何治安裁判所分

一至何月 輕罪登記簿
 一同上 諸罰則登記簿
 一同上 遲不參登記簿

何冊
全全

合計何冊

(右ノ内記載スヘキ事件ナキハ其處ニ記載スヘシ以下總テ做之
 但シ延期中ノ者モ其旨記載スヘシ)

右目錄ノ通及進達候也

何裁判所長官氏印

民事既決未決件數表上申目錄

一至何月 民事既決未決件數表
 一同上 民事身代限件數表

何枚
全

何裁判所分

一同上 民事執行件數表
 一同上 民事控訴既決未決件數表
 一同上 人民ヨリ院省府縣ニ對スル訴訟既決未決件數表
 一同上 人民ヨリ郡區戶長ノ職務ニ對スル訴訟件數表

全全全全

合何枚

何治安裁判所分

一何年 自何月 民事既決未決件數表
 一同上 民事身代限件數表
 一同上 民事執行件數表
 一同上 勸解件數表

何枚
全全全

合何枚

右目錄ノ通及進達候也

何裁判所長官氏印

一刑事ニ係ル既決未決事件表ハ裁判所本支廳毎ニ輕罪豫審既決未決事件表及管内違警罪既決未決事件表ヲ合シ各一冊トナシ其簿冊編纂ノ順序ハ左ノ如クスヘシ

第一 本廳輕罪及豫審既決未決事件表
 同廳管内違警罪既決未決事件表
 支廳輕罪及豫審既決未決事件表
 同廳管内違警罪既決未決事件表

第二 同廳管内違警罪既決未決事件表

第三部 第九編 第五章 第四款

右目錄ノ例

但シ分署ノ違警罪既決未決事件表ハ其本署ノ次ニ付ス可シ

至何月 自何月 管内各輕罪裁判所輕罪豫審及違警罪既決未決事件表上中目錄

一何始審裁判所分 一冊

一何支廳分 全

一何始審裁判所分 全

一何支廳分 全

、 、 全

以下之レニ準ス

合何冊

右目錄ノ通及進達候也

年月日

何控訴裁判所

檢事長氏名印

重罪既決事件表上中目錄

一自何月 何重罪裁判所重罪既決事件表

一同上 何重罪裁判所重罪既決事件表

以下之レニ準ス

一枚
一枚

合何枚

右目錄ノ通及進達候也

何控訴裁判所

檢事長氏名印

年月日

別號表附帶私訴公判表會議局故障事件表上中目錄

何支廳分

一何年分 別號表

一同上 附帶私訴公判表

一同上 會議局故障事件表

(治安裁判所モ之レニ準ス)

合何枚

右目錄ノ通及進達候也

年月日

何支廳分
何支廳所長官氏印

檢事及豫審處分表上中目錄

何支廳分

一何年分 檢事處分表 自第一表

檢事處分表第二表欄外左ノ件

何枚

一同上 捜査及逮捕件數

一同上	執行人員	(死刑以下拘置 科刑等ニ至ル)	
一同上	裁判費用徴收件數		何枚
一同上	沒收物品徴收件數		何枚
一同上	同 處分件數		何枚
一同上	豫審表 <small>自一表 至八表</small>		何枚
一同上	豫審第一表欄外附屬表		何枚
	(治安裁判所モ之レニ準ス)		
	合 何枚		
	右目錄ノ通及進達候也		
年月日		何裁判所長 <small>(又ハ 檢事)</small> 氏名印	
	重罪既決犯罪表上申目錄		何枚
一自何月 至何月	重罪裁判所重罪既決犯罪表		何枚
	右目錄ノ通及進達候也		
年月日		何裁判所	
	輕罪既決犯罪表上申目錄		何冊
一何月分	何始審裁判所輕罪既決犯罪表		何冊
一同上	何治安裁判所輕罪既決犯罪表		何冊
	合 何冊		

一同上	何支廳輕罪既決犯罪表		何冊
一同上	何治安裁判所輕罪既決犯罪表		何冊
	合 何冊		
	右目錄ノ通及進達候也		
年月日		何裁判所	
	集會條例新聞條例及刑法犯者表上申目錄		何枚
一何年 自何月 至何月	何始審裁判所分		何枚
一同上	何治安裁判所分		何枚
	合 何枚		
一同上	何支廳分		何枚
一同上	何治安裁判所分		何枚
	合 何枚		
	(犯者之レナキ向ハ 其旨屈出ツヘシ)		
	右目錄ノ通及進達候也		
年月日		何裁判所	
	特赦表上申目錄		何枚
一何年分	何始審裁判所分		何枚
	特赦表		何枚

(記載スヘキ事件無之)
向ハ其旨届出ツヘシ

右目錄ノ通及進達候也

年月日

何裁判所檢事氏名印

○第五款 外國人ニ係ル刑事訴訟及新聞條例集
會條例讒謗律違犯者表

第二千八十七上

明治十一年十二月十日司法省丙第拾三號檢事檢事へ達不在府縣へ達

明治九年已降内國人原告ニテ外國人ニ係ル刑事ノ訴訟有之候者ハ別紙雛形ニ準シ年々兩度ニ取調可差出此旨相達候事

但九年分ハ至急入川ニ付本月中ニ差出十年十一年分ハ來十二年一月中ニ可差出候事

別紙

用紙通符界紙

明治何年自何月至何月刑事訴訟各國領事へ求刑取調書

一各國領事へ求刑總數若干件

件目	件數		人員		原告人管轄廳	領事館	結局
	新高規	越新高規	新高規	越新高規			
原告人姓名	、	、	、	、	、	、	未
原告人姓名	、	、	、	、	、	、	未
領事館	、	、	、	、	、	、	未
結局	、	、	、	、	、	、	未
原告人姓名	、	、	、	、	、	、	未
原告人姓名	、	、	、	、	、	、	未
領事館	、	、	、	、	、	、	未
結局	、	、	、	、	、	、	未
原告人姓名	、	、	、	、	、	、	未
原告人姓名	、	、	、	、	、	、	未
領事館	、	、	、	、	、	、	未
結局	、	、	、	、	、	、	未

合計	何件	何件	何人	何人	何人	何人	何人	何人	若干國	直何件	何件	何件
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	----	----

右之通有之候也

某裁判所官苗字名印

一取調書差出期限ハ一年ヲ前季後季ノ兩度ニ分テ前季自一月至六月ノ分ハ翌七月中後季自七月至十二月ノ分ハ翌年一月中差出可シ

但明治九年十年十一年分ハ前季後季ヲ分タス各一年ヲ纏メ取調來十二年ヨリ本文ノ通

一件目ハ訴訟ノ性質ニ從ヒ其主要ヲ簡明ニ摘記ス可シ

一一件中原告數人アリ各管廳國名ヲ異ニスルノ類ハ符號ヲ付シ標出ス可シ

一訴狀却下或ハ願下等ノ類アラハ其區ヲ設テ記入ス可シ

一明治九年甲第拾貳號布達前刑事ノ訴訟地方官ヨリ各國領事へ廻ス者ニ右布達後結局ノ

モノアレハ檢事ニテ別紙ニ取調差出ス可シ

第二千八十七下

明治十五年三月廿九日司法省丁第拾九號大審院へ達

明治十一年當省丁第貳拾七號達新聞條例及讒謗律違犯者表雛形別紙之通改正候條右ニ照準年兩度ニ取調前季自一月至六月分ハ七月十五日限後季自七月至十二月分ハ翌年一月十五日限可差出尤犯者無

之向ハ其段可届出此旨相達候事

但治安裁判所ノ分ハ始審廳へ取廻メ可差出事

別紙

凡例

- 一本表ハ集會條例新聞條例ヲ以テ處斷シ及ヒ新聞紙雜誌雜報ノ記事ヨリ起リ或ハ公然演説ヲ爲シタル犯者ニシテ刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ヲ記入ス
- 一所犯新法頒布以前ニ在テ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ニ從テ處斷シタル者ハ本表記載ノ例ニ倣ヒ記入ス可シ
- 一數罪俱發シ一ノ重キヲ以テ論シ其餘罪ノ輕クシテ論セサル者モ本表記載ノ例ニ準シ一々記載ス可シ
- 一一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シクシテ論セス或ハ重クシテ更論シタル者ハ各々本表記名ノ區畫中ニ記載シタル例ニ倣ヒ記入ス可シ
- 一上告ニ係ル者ハ其上告ニ拘ハラス原裁判ノ刑名ヲ記入ス但シ大審院ノ表ハ此例ニアラス一公然ノ演説上ヨリ起リ刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ハ本表新聞名ノ欄内へ其社名ヲ書シ若シ社名アラサル者ハ其理由ヲ記入ス可シ

(原表輪廓曲尺 縱三五寸 橫三寸五分)

大審院 明治何年自何月至何月

集會條例新聞條例及刑法犯者表

犯罪ノ條目	裁判言渡シヲ爲シタル月日	刑名	新聞等ノ名	犯者
ハ禁	ハ禁	罰金何日何口	社名若シ其理由	族籍姓名
罰金	何日何口	何日何口	新聞	編輯長姓名或ハ何々姓名
禁錮	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	
罰金	何日何口	何日何口	新聞	

第六章 收入金上納記及送納手續並明細表

[第二千八百十八] 明治十五年七月三十一日司法省丁第三拾八號裁判へ達
 諸收入金上納記明細書及ヒ贓贖諸罰金月表等從來ノ書式相廢止別紙雛形ノ通改正候條七月以降右ニ照準可差出此旨相違候事

別紙

凡例

- 一 始審廳ハ治安廳分ヲ總括合算スルモノトス
- 一 表中數トアルハ代言免許料贖追徵金等ノ如キハ人員ヲ以テシ訴訟用課紙贖本料等ハ枚數家屋ハ個所ヲ以テス
- 一 其他貫目荷數ノ如キ都テ其種類ニ因テ記入スルモノトス
- 一 物品雜收入ノ如キ空課アルハ豫定シ難キモノヲ記入スルカ爲メナリ

部	之	稅	科	明治		裁判所
				年	月分	
總計	代言免許計	諸稅合計	訴訟裁許用目	課紙文通用紙計	贖追徵金等	其他貫目
				金		
				員		
				計		

雜 收 入 之												
官有			官物			官代			雜			
家計		合計	家計		合計	代計		合計	雜計		合計	
炭	紙	灰	炭	紙	灰	贖	贖	贖	贖	贖	贖	贖

明治 年 月 日	總	入			
		合	徵	金	計
			科 保 罰 使 丁 違 約 金	料 釋 俸 金	計
計		計	計	計	
官	姓	名	印		

凡例

一 治安廳ハ雛形ニ照準甲月分ヲ乙月七日限該廳差立主管始審廳ヘ送納スルモノトス

一 始審廳ハ治安廳分ヲ取纏メ雛形ニ照準審廳ノ乙月ニ屬スル如シ乙月七日限該廳差立本局ヘ上納スルモノトス

一 始審廳ニ於テハ治安廳ヨリ送納スル上納記ハ合算シ明細書ハ各廳ヲ區別シテ記載スルモノトス

同丁第五拾號省達ヲ以テ第四項刪除

第壹號 用紙美濃梓野紙
上納記

一金

但何地大藏省爲替方何銀行又ハ領收ノ納金證書何葉ヲ以テ

内譯

何月分
租稅收入

金

内

訴訟用野紙稅

金

金 金

金 金

裁許用紙
交通用紙
代言免許料

右 上納候也

年 月 日

何裁判所會計課
官 姓 名 印

司法省第九局長(或ハ始審裁判所會計課)

官 姓 名 宛

第貳號

用紙美濃梓野紙

上納記

何月分

一金

金

但何地大藏省爲替方何銀行又ハ領收ノ納金證書何葉ヲ以テ

内譯

雜收入

官有物排下代

内

第三部 第九編 第六章

右 上 納 候 也

金 金 金 金 金 金

金 金 金 金 金 金

內 內

何裁判所會計課

官 姓 名 宛

何年何月雜收入金明細書

何裁判所何月分

家屋拂下代

家屋

官有物貸下料

物品

雜入

賍贖退徵金

雜收

一 金

內 譯

金 金

一 金

內 譯

金 金 金 金 金 金

一 金

內 譯

金 金 金 金

內 譯

金 金 金 金

何地建家何坪何ニ付拂下代

同

物品拂下代

炭明ニ俵幾何拂代但壹箇ニ付何程

紙屑何貫目拂代但壹貫目ニ付何程

灰幾何拂代但幾何ニ付何程

何品何箇何ニ付拂代但壹個ニ付何程

家屋貸下料

何家何ニ付何ノ誰ヘ貸下料

同

雜 收

宣告謄本料何枚分何人納

下肥何荷拂代但壹箇ニ付何程

何々

一 金

內 譯

金 金 金 金

一 金

內 譯

金 金 金 金

一 金

內 譯

金 金 金 金

一金

內譯

金

內

金

內

金

內

金

內

金

內

金

內

金

內

金

內

贓贖追徵金

贖罪金

國郡町村人名何々付納

同

收贖金

國郡町村人名何々付納

同

贓金

國郡町村人名何々付納

同

贓物買拂金

何品何ノ誰何々付排代

同

罰金

國郡町村人名何々付納

同

附加罰金

國郡町村人名何々付納

同

科料金

國郡町村人名何々付納

同

保釋金

國郡町村人名何々付納

同

罰俸

金	何ノ誰何々付納
同	
金	使丁違約金
内	
金	何ノ誰何々付納
同	
合計	何裁判所何月分
	家屋拂下代
一金	
内	
金	何地建家何坪何々付拂下代
同	

合計 (治安或ハ始審各廳ノ合計)

一金

内

金

金

(以下前ニ倣フ)

合計 (治安或ハ始審各廳ノ合計)

總計 (各廳ノ合計ヲ總計スルモノ)

第二千八十九

明治十五年十月三日司法省丁第五拾號 裁判所(函館控訴院)開始審根 室始審札帳始審所轄ヲ除ク)へ達 今般太政官第四拾六號御達ノ趣モ有之ニ付當省エ領收候國稅金送納方來ル十一月一日以降 別紙取扱手續書ノ通可相心得此旨相達候事

但本年當省丁第三拾八號達上納記凡例第四項ハ同日以降削除候事

別紙

國稅金送納取扱手續

第一條 各裁判所ニ領收スル國稅金ハ客年大藏省乙第貳拾五號達國稅領收順序ニ準據會計課主任ヨリ之レヲ大藏省租稅局出張所長エ宛送納スルモノトス

第二條 訴訟用野紙稅并代言免許料等ハ國稅領收順序第貳號納稅切符ヲ以テ領收シ之レヲ一句日毎ニ取纏メ同順序第五號上納證ヲ添テ所在租稅局出張所エ送納スルモノトス

但所在租稅局出張所ノ區畫ハ客年太政官御達第七拾五號ヲ參考スヘシ

第三條 租稅局出張所ヨリ回送スル領收證ヲ一ヶ月分毎ニ取纏メ本年當省丁第三拾八號達上納記ニ添テ本省エ進達スルモノトス

但治安廳ニ於テハ租稅局出張所ヨリ回付スル領收證ヲ始審廳へ送付スヘシ

第四條 各廳ニ於テ收入ナキ月ハ翌月二十日限其旨所在租稅局出張所へ通知スヘシ

第五條 過誤納ヲ發見シ下戻ヲ要スルハ其旨所在租稅局出張所へ通報該手續ヲ爲スヘシ

第二千九十

明治十六年十二月十八日司法省丙第拾號 警視廳府縣へ達 憲兵本部 雜收入金上納記并ニ明細書從前書式相廢シ左ノ雛形之通改正候條以來右ニ照準取調本人納証一同翌月十五日限り可差出若シ收入無之ハ其旨可届出此旨相達候事

但納証綴首尾ニ白紙ヲ用ヒ何年何月雜收入金上納証何府縣ト記載可致候事

用紙十三行野紙

上納記

何月分雜收入

贓贖追徵金

一金
但何地大藏省爲換方何銀行又ハ何ノ誰納金証書何葉ヲ以テ
内譯

贓金
贓物賣拂代
科料金

右
上納候也

官姓名印

明治何年何月何日

司法卿宛

用紙十三行野紙

何年何月雜收入金明細書

贓贖追徵金

一金

贓金

内譯

國郡町村人名何々付納

金
内

同

贓物賣拂金

金
内

國郡町村人名何品何々付拂代

同

科料金

金

内

國郡町村人名何々付納

同

金
金

右之通候也

何府縣

年 月 日

首尾ニ白美濃紙ヲ川ヒ表紙ニ何年何月雜入金明細書何府縣ト記載スヘシ

○第四部 民事之部

○第壹編 民法

○第壹章 財產

○第壹款 社寺學校病院等へ寄附ノ物件所有ノ

區別

第二千九十一 明治九年四月十八日第五拾四號布告

社寺學校病院等へ寄附候土地建物其他物品等別段之契約無之分へ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノトシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

○第貳款 廢戶主并財產管理方

第二千九十二 明治十五年八月廿二日司法省丁第四拾四號大審院^{裁判所}へ達

廢戶主并財產管理ノ儀ニ付左ノ通り太政官ヨリ御達相成候條此旨爲心得相達候事

司法省

廢戶主并財產管理ノ儀ニ付別紙ノ通内務省ヨリ伺出朱書ノ通及指令候條其旨爲心得諸裁判所へ可相達事

明治十五年八月十四日

太政大臣三條實美

別紙

第四部 第壹編 第壹章 第壹款 第貳款

二百六十七

六年第二百四拾九號布告(八百五十四) 九年敍達(八百三十五)參看

廢戶主并ニ財産管理ノ義ニ付伺

別紙島根縣伺ノ趣密案候處第一條受刑者廢戶主ノ義ハ去ル明治十年中法制部ニ質問ノ上一年以上ノ懲役ニ處セラレ一家營生難相立場合ニ於テハ戶主ヲ廢スルヲ許可致來候處今般漸刑法御實施ニ付爾後ハ舊例ニ準據シ輕重禁錮一年以上ノ處刑ヲ受ケ一家生計難相立者ニ限リ父母若クハ親屬協議ノ上廢戶主出願スレハ開屆不苦候哉又其第三條禁治産ノ處分ヲ受クル者ノ財産管理ハ曩日上申致置候通り後見人規則御設定相成候上同規則ニ據リ可取扱心得ニ有之候得共其第四條管理ノ職ニ任スヘキ家族親戚ナキ者ハ戶長ヲシテ財産保管セシメ其負債償却等ハ總テ裁判處分ニ歸セシメ候テ可然候哉全縣伺書之略相添此段相伺候也

明治十五年五月十九日

內務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

朱書

伺ノ趣左ノ通可相心得事

明治十五年八月十四日

第一條 廢戶主ノ儀ハ伺之通

第三條 財産管理人ノ儀ハ受刑者ヲシテ家族又ハ親戚ノ内ニ就テ之ヲ撰定セシメ其姓名ヲ管轄裁判所ニ届出テ置キ他日賣買貸借等ノコアルキハ都テ該所ノ處分ヲ仰カシムヘシ

第四條 戶長管理ノ儀ハ伺ノ通

○第三款 失踪死亡跡及絶家ノ財産保管

第二千九十二

明治十一年十一月廿六日司法省丁第四拾壹號大審院諸へ達

失踪死亡跡遺留財産處分ノ儀ニ付太政官裁令ノ趣左ノ通內務省ヨリ通知有之候條爲心得相違候事

內務省ヨリ通知 明治十一年十一月十八日

失踪並ニ死亡跡遺財處分ノ義ニ付別紙寫ノ通太政官へ伺ヒ候處即チ朱書ノ通御指令相成候仍テ爲御心得此段及御通知候也

別紙

內務省ヨリ太政官へ伺 明治十一年五月十日

失踪並死亡跡遺財處分ノ儀ニ付テハ追々御指令ノ次第モ有之即今當省ニ於テ右御指揮ニ準據シ各府縣へ及指令候得共猶ホ穩當ナラサル處モ有之更ニ左ノ通更定致度相伺候

一失踪逃亡者ノ遺財ハ家族ニテ保管シ家族ナキハ親族親族ナキハ區戶長役場ニテ保管

セシメ負債アルモノハ其償却處分モ取計ハスル例ニ有之 岡山縣伺租稅未納ノ者脱走處分ニ由テ候處右負債處分ノ義ハ種々差圖ノ廉モ有之候ニ付以來ハ保管財産中書入質トナリタル分ハ其約定期限ニ至リ償却ノ處分地方官ニテ開屆書入質ニアラサル負債ノ義ハ一切

裁判處決ヲ經テ償却候様致度

一前條ノ遺財負債ナキカ又ハ負債償却シテ猶ホ餘財アル分ハ三十六ヶ月ヲ過キテ復歸セサル時ハ官沒スル例ニ有之候處 筑摩縣伺村民退轉所有地ノ件ハ八年五月二日御指令並警前縣伺舉家死失踪處分ノ件ハ九年四月十七日御指令等ニ由テ

例ト右三十六ヶ月ノ期限ハ裁判上失踪者負債處分ノ期限ニテ官没ノ期限モ之ニ準スルハ
穩當ナラス依テ該財産ハ可成丈永久ニ保護スルノ趣旨ヲ以テ自今十年ヲ期滿トシ官没ノ
處分ニ及ヒ候様致度

一死亡跡相續人無之遺財ハ三十六ヶ月ヲ待タス直ニ官没シ負債アル時ハ償却スル例ニ有之

第二條判註同御指 候處右負債償却處分區別ノ義ハ第一條ノ通取計ハセ候様致度

右ハ各府縣ヨリ續々伺出候事件モ有之義ニ付至急御裁令被下度候也

朱書御指令明治十一年十一月四日

同ノ趣ハ左ノ通可相心得事

第一項 區戸長ニ保管スル財産中負債償却處分ノ義ハ其書入費公證ノ有無ニ拘ハラヌ都
テ裁判上ノ處分ニ任シ區戸長ハ之ヲ保存スルニ止ルヘシ

第二項 追テ法律制定迄ハ官没ノ處分ヲ爲サス本人歸來セハ其遺財ヲ返付スヘシ

第三項 負債償却處分ノ義ハ第一項指令ノ通

第二千九十四 明治十七年一月十日内務省府外達

失踪逃亡死亡及絶家ノ財産ヲ戸長ニ於テ保管スルハ財産目錄ヲ作り郡區長ニ差出候様可
致此旨相達候事

○第貳章 契約

○第壹款 證書

○第壹節 證書ヲ作ルノ法式及證書ノ効

第二千九十五 明治六年六月十四日第貳百拾貳號布告

來ル七月十日以後ノ證書類及ヒ公私ノ文書ニハ總テ年號月日ヲ記載可致若シ疎漏ニシテ年
月日ノ内何レニテモ略記シタル時ハ裁判上證據ニ不相立候事

第二千九十六 明治八年二月廿七日司法省甲第壹號布達

明治六年第貳百拾貳號ヲ以テ年月日ノ内何レニテモ略記シタル諸證書類及ヒ公私文書等ハ
裁判上證據ニ不相立旨布告相成候ハ其證書全ク證據ニ不相立ル儀ニハ之レナク只其年月日
ノ早晚ヲ定ムヘキ證據ニ相立サル儀ニ候條右等ノ證書ヲ以テ年月日ノ早晚ニ拘ハラヌ其記
入ノ事件ニ付訴訟ニ及フキハ取揚ケ裁判ニ及フヘク候條此旨布達候事

第二千九十七 明治八年五月十二日第七拾七號使府達

金穀貸借證書面金員數等ヲ改作塗抹シ又ハ一二十等ノ數字ヨリ往々紛雜ヲ醸シ不都合ノ
儀不抄候間凡ソ他日ノ證據ヲ要スル書類ハ自今一二十ノ數字ハ壹貳拾ノ字體ヲ用ヒ無餘儀
改作塗抹スル時ハ其處ニ押印シ且物品員數等一紙ニ書盡シ難ク又ハ帳簿ヲ爲スモノハ其繼
目及ヒ綴目ニ押印シ總テ他日紛雜ノ基ヲ生セサル様深ク注意可致旨各管下ヘ可曉諭此旨相
達候事

第二千九十八 明治八年五月十八日第八拾七號布告

諸品賣買取引心得方定書去ル明治四年九月布告ニ及ヒ置候處自今相廢シ候尤向後賣買ノ約
定ハ勿論其他諸取引ノ約定ヲ爲ス證書ニハ成ルヘキ丈ケ其約定ノ趣意ヲ明確ニ書キ載セ候

漏曉味ノ事之レナキ様注意可致此旨布告候事

第一千九十九 明治九年五月廿二日第七拾六號布告

華族ノ輩金穀貸借証文及ヒ其他ノ契約書ニ家令家扶ノ名ヲ用ヒ何家何局等ノ印ヲ捺セシ慣習有之處自今都テ本人ノ名印ヲ用フヘシ若シ本人ノ名印ナキモノハ其効無之義ト可相心得此旨布告候事

第一千百 明治十年三月廿六日司法省丁第廿七號大審院上等裁判所布告

訴答文例ハ唯リ訴答ノ書式ヲ指示シタルモノナレハ第十四條第廿八條第廿九條ヲ除クノ外文例中云々スル所ノ証書等ナシト雖ヒ証據ノ端緒之レアルニ於テハ憑據アル訴答ト見認ム可キハ勿論ノ事

右相違候條此旨可心得事

第一千百一 明治十年七月七日第五拾號布告

諸証書ノ姓名ハ必ス本人自ラ書シテ實印ヲ押スヘシ若シ自書スルコト能ハサル者ハ他人ヲシテ代書セシムルヲ得ルト雖ヒ必ス其實印ヲ押スヘシ其代書セシ者ハ本人姓名ノ傍ニ其代書セシ事由ト已レノ姓名トヲ記シテ實印ヲ押スヘシ

但シ本文諸証書トハ契約ノ証書(金穀地所建物貸借買賣讓與並預リ證書等凡テ民事上相互ノ契約ニ係ルモノヲ云フ)ニ限ルモノトス十年第六拾四號布告ヲ以但書ヲ追加ス

右布告候事

附錄 明治十年十月十七日司法省丁第七拾八號大審院諸裁判所へ達

大藏省何銀行證書姓名自書云々御裁令ノ趣別紙ノ通候條此段爲心得相違候事

銀行諸證書姓名自書實印ノ儀ニ付伺

諸證書姓名自書實印ノ儀ニ付先般經伺候處第六拾四號公布ノ通可相心得旨御指令相成致了承候然ル處猶第一國立銀行ヨリ別紙ノ通伺出候ニ付篤ト勘考致候處國立銀行ノ儀ハ一人一個ノ取引ト違ヒ金銀ノ出入殊ニ劇シク從テ諸種ノ契約書巨多ニシテ頭取支配人一人自記スルニ違アラサル者有之尤其自記シ得ヘキ者ハ可成公布ノ趣ヲ遵奉セシメ候心得ニ有之候得共當座預金受取證書振出手形爲換手形等ハ其數巨多ニ有之今此類ノ諸證書へ自記實印致居候時ハ自餘諸般ノ事務之カ爲滯致銀行ニ於テ事實難澁ノ義ト被存候間前文ノ諸證書ニ限り願意間届左ノ振ニ及指令不苦候哉目下差支候間迅速御指揮相成度此段相伺候也

明治十年九月廿六日

大藏卿大隈重信

太政大臣三條實美殿

御指令

伺之通

明治十年十月十一日

本年七月七日第五拾號ヲ以テ諸證書ノ姓名ハ必ス本人自ラ書シ云々ト御布告相成候處國立銀行ノ儀ハ第一ニ銀行ノ名ヲ記シ其印章ヲ押捺シ頭取支配人等其役印ヲ加印候迄ノ儀ニ付一人一個ノ契約書トハ相異候儀ト相心得罷在候處本月七日第六拾四號ヲ以テ

訴答文例ハ(一)二千七百七十二ニ掲出ス

再應御布告ノ趣ヲ考思候ニ國立銀行ト雖ヒ一人一個同様ニ御布告之通り執行可仕儀ト奉存候ニ付テハ諸約定証書ノ類ハ勿論自記仕ヘク候得共當銀行ヨリ發行致シ候定期預金証書振出手形爲換手形當座預金受取證書保護預リ証書等ハ其數巨多煩繁ニシテ多キ時ハ日ニ三百枚以上少クモ百枚位宛有之此他諸般ノ事務頭取支配人ニ於テ多ク其引合ヲ爲シ居候儀ニテ何分ニモ自記致シ候寸暇無之候ニ付何卒前書諸證書類ニ限り自筆姓名ヲ彫刻致シ置右ヲ自身ニ押捺シ且加印仕候様仕度此段奉伺候也

明治十年九月十九日

第一國立銀行

大藏卿大隈重信殿代理

大藏大輔松方正義殿

指令案

伺ノ趣事實無餘儀相聞候條當座預金受取證書振出手形爲換手形ノ三種ニ限り自筆姓名ヲ彫刻シ自身ニ之ヲ押捺シ且加印致候儀聞届候事

大藏卿

○第貳節 契約證書解釋方法

第二百百二

明治十年十月十二日司法省丁第七拾五號

大審院諸裁判所へ達

契約證書解釋方法ノ儀太政官へ相伺候處別紙ノ通御指令相成候ニ付心得ノ爲メ此旨相達候事

裁判上契約證書解釋方法ノ儀ニ付上申

抑モ契約證書ナル者ハ雙方ノ權利義務ヲ定メ其趣旨目的ヲ確實ナラシムルモノニシテ素ヨリ輕易ニ付スヘカラサルナリ然ルニ各人契約ノ証書動モスレハ疎漏ニ流レ訴訟トナルニ及テ意義ノ解釋ニ苦シム文意汎漫立言曖昧ニシテ契約ノ趣旨目的明劃ナラサル者アリ意義兩端ニ渉ル者アリ其他地方ノ慣習ニ因リ文言ノ其趣旨ニ適セサル者アリ裁判官タルモノ活眼以テ之ヲ解シ明察以テ其要旨ヲ採ラサレハ裁判其當ヲ失ヒ冤ヲ吞ミ憾ヲ含ミ却テ人民ヲシテ冤屈ニ沈マシム慎マサルヘケンヤ

現今裁判上ノ景况ヲ視ルニ特リ其文詞ニ拘泥シ其契約ノ主旨ヲ誤リ或ハ文意ノ曖昧ナル者ハ概シテ無効トナスカ如キノ弊害アルヲ免レサルナリ果シテ然ルハ權利者却テ權利ヲ失ヒ義務者却テ義務ヲ免ルニ至リ雙方ノ權利義務ヲ錯亂シ各人ノ權利財産ノ安固ヲ妨害スル實ニ鮮少ナラサルヘシ是ニ於テ道理ニ基キ便益ヲ測リ猶佛國民法ノ法理ニ據リ契約證書ノ解釋法ヲ指示シテ裁判上ノ謬誤ヲ豫防スルコト目今ノ一大急務タリ

因テハ別紙ノ通疑シキ契約證書ノ解釋方法兼テ於當省議定イタシ置キ斯主旨ヲ以テ伺出ノ向キへ指令ニ及ヒ度又時宜ニ因リ各裁判所爲心得相達候儀モ有之ヘク存候抑モ是等ノ事ハ事理ノ然ラサルヘカラサル者ニ候得共爲念一應相伺候條至急御裁令ヲ請

明治十年六月廿二日

司法卿大木喬任

右大臣岩倉具視殿

御指令

伺之趣ハ修正ノ通相心得ヘシ

明治十年七月十七日

別紙原案ハ之レヲ畧ス

修正

契約書解釋心得

- 一 契約書ヲ解釋スルニハ其文字ノミニ依著スルヨリハ寧ロ其契約ヲ爲シタル雙方ノ者ノ旨趣如何ヲ考察スヘシ
- 二 一個ノ條款ニ條ノ意ヲ帶ルルハ其契約ノ効ナカラシム可キ意ニ之レヲ解スルヨリ寧ロ其効ヲ生セシムヘキノ意ニ之ヲ解スヘシ
- 三 文詞ニ條ノ意ヲ帶ルルハ其契約ノ目的ニ最モ適シタル意ニ之ヲ解スヘシ
- 四 文意ノ曖昧タルモノハ其契約ヲ結ヒタル地方ノ習慣ニ從テ之ヲ解スヘシ
- 五 習慣上通常記載スル條款ヲ契約書中ニ記セサルモ仍ホ之ヲ記シタルモノト看做ス可シ
- 六 契約書中ノ條款ハ皆其全文ノ大意ニ從ヒ互ニ相解釋スヘシ
- 七 疑ノ場合ニ於テハ契約ハ其義務ヲ行フ可キ者ノ利益トナル條之ヲ解釋ス可シ
- 八 契約書中ノ文詞如何ニ泛キトモ其契約ヲ結ヒタル雙方ノ者互ニ相思攬シタル可シト推知スルヲ得ヘキ者ヲ除クノ外ハ之ヲ包含セス
- 九 義務ヲ解釋スル爲メ契約書中ニ一箇ノ事項ヲ掲ケタリトモ其契約上當然ニ包含ス可キ事件他ノ事項ヲ除去シタル者ト看做ス可ラス

○第三節 金穀授受證書ニ印紙貼用スヘキ事
及證書ニ官名官印ヲ用ユヘカラサル事

第二百百三 明治六年六月五日第百九拾號布告

人民相互ニ金子授受ノ際從來請取證書等爲取替候筈ノ處今般証券印紙貼用規則相違候ニ付テハ自今請取引並賣買トモ金高拾圓以上ニハ必ス證書又ハ請取書爲取替候様可致事

第二百百四 明治六年六月廿三日第百貳拾號布告

本年第百九拾六號公布ノ儀ハ取消シ更ニ左之通改正候條此旨相違候事
金銀貸借其他私用ノ証文類ヘ官名ヲ記載シ或ハ官名ヲ刻シタル印章ヲ相用候儀ハ固ヨリ有之間政事ニ候得共開ニハ誤用候者モ有之哉ノ趣不都合ノ事ニ候條屹度令禁止候事

○第貳款 改曆以前ノ契約期限

第二百百五 明治五年十一月司法省第四拾四號布達

般今太陽曆御頒布相成候ニ付テハ自今諸約定期限ノ儀左ノ通可相心得候
一 明治六年一月一日ヨリ諸約定期限ノ儀總テ太陽曆月日ヲ以テ可相定事
一 明治五年十二月ヨリ以前ニ取結候諸約定ノ分若シ明治六年一月一日以後ニ相掛ル訴訟ハ太陰曆月日不足ノ分ヲ太陽曆月日ニ引直シ廿八日ヲ加ヘ其期限ト可相定事
此段相違候也

○第三款 外國人ニ關スル契約

第二百百六 明治七年八月十二日第八拾五號布告

外國人エ家屋地所等貸渡シノ節約東上輕忽疎漏ヨリ竟ニ内外人民ノ間不都合ヲ生シ候テハ自然交際ニモ差礙候條自今學校其他ノタメ雇入レ居留地外へ住居スヘキ外國人及ヒ公使館附屬書記官等へ貸家賃地ノ節ハ先ツ約定草案相添其管轄廳へ伺出許可ノ上締約可致此旨布告候事

但建物取毀賣拂ノ分ハ幾日以内取拂ノ約定取結可賣渡尤賣渡ノ上ハ其旨管轄廳へ可届出事

○第四款 代理委任

第二百百七 明治六年六月十八日第貳百拾五號布告

人民一般商業及ヒ其他ノ事ニ因リ代人ヲ以テ契約取引等致シ候規則別紙ノ通被定候條此旨相達候事

代人規則

第一條 凡ソ何人ニ限ラス己レノ名義ヲ以テ他人ヲシテ其事ヲ代理セシムルノ權アルヘシ但シ本人幼年等ニテ其事理ヲ辨シ難キ時ハ其後見人及ヒ親族ノ者協議ノ上代人ヲ任スルヲ得ヘシ

第二條 凡ソ他人ノ委任ヲ受ケ其事件ヲ取扱フ者ハ代人ニシテ其事件ヲ委任スル者ハ本人ナリ故ニ代人委任上ノ所行ハ本人ノ關係タルヘシ

第三條 凡代人ハ心術正實ニシテ滿二十歲以上ノ者ヲ撰ムヘシ九年第四拾四號布告ヲ以テ全文ヲ改正ス

第四條 代人ハ總理代人部理代人ノ別アリ總理代人ハ其本人身上諸般ノ事務ヲ代理スル者ニシテ部理代人ハ特ニ其委任スル部内ノ事務ヲ代理スルヲ得ル者トス

第五條 凡本人ヨリ代人ヲ任シ他人ト契約取引等ヲ爲ント欲スル時ハ必ス實印ヲ押シタル委任狀ヲ與フ可シ

但シ其家業取扱フ場所ニ於テ通常ノ事務ヲ取扱ハシムルノ類ハ別段委任狀ヲ與フルニ及ハス

第六條 委任狀ハ總理代人又ハ部理代人タル事及ヒ其委任シタル權限ヲ明白ニ記載ス可シ

第七條 委任狀書式左ノ通 (拙者拙者共) 儀某ノ事件ニ付何誰ヲ以テ(總理代人部理代人)ト定メ拙者ノ名義ニテ左ノ件々ノ事ハ代理爲致候事

一何々ノ事(但權限ノ次第ヲ分條記載スヘシ) 有代理ノ委任狀仍而如件

年號何年何月何日 住所身分 姓 名 印

後見人等ハ住所身分何誰ノ後見人何誰ト記スヘシ

第八條 代人ヲ任スルノ權限ハ豫メ規定シ難キモノト雖モ其本人幼弱疾病事故等ニテ長ク委任セントスルキハ其地方ニ新聞紙アラハ之ニ記入セシメ世上ニ公布スヘシ

○第五款 貸借賣買讓渡附托物

○第一節 金穀貸借ノ抵當及賣買其他附托等
ヲ爲スヲ得ヘカラサル物件

第一千零八 明治五年四月十四日第百貳拾四號布告

御國內一般地所ノ儀銘々所持ノ分タリ共外國人ヘ對シ賣渡候儀ハ勿論金銀取引ノ爲メ地所
又ハ地券等書入致シ候儀ハ決テ不相成候條末末ノ者ニ至ル迄心得違無之様各管内無遺漏可
觸示事

第一千百九 明治五年七月十日第百九拾七號布告

人民質印ノ儀ハ諸事證據ニ相成大切ノ品ニ候處妄ニ他人ヘ相預ケ候者有之ニ付問々奸詐ノ
訴訟差起リ以ノ外ノ事ニ候以來質印相預候儀固被禁候條萬一心得違ノ者有之候節ハ預ケ人
預リ人共屹度可及處置候事

第一千百十 明治七年十一月十日第百貳拾四號布告

抗物ノ儀ハ明治六年第貳百五拾九號布告日本抗法ニ搦職ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ付
假令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣
約定等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候事

第一千百十一 明治八年八月十四日第百貳拾八號布告

金錢貸借ニ付引當物ト致候ハ賣買又ハ讓渡ニ可相成物件ニ限リ候ハ勿論ニ候處地方ニ寄リ
間ニハ人身ヲ書入致候者モ有之哉ノ趣右ハ嚴禁ニ候條此旨布告候事

第三百五拾九號布告ハ一千九百七十六ニ掲出ス

三年八月十二日布告(五百八十五)五年第百五拾五號布告(五百八十八)

六) 參照

但期限ヲ定メ工作使役等ノ勞力ヲ以テ負債ヲ償フハ此限ニアラス

第一千百十二 明治九年八月五日第百九號布告

今般第百八號ヲ以テ布告候金祿公債證書ノ儀ハ追テ指令ニ及フ迄書入質入并賣買約定取結
候儀ハ禁止候條此旨布告候事

附錄 明治十一年九月廿四日司法省丁第三拾三號大審判所ヘ達

東京裁判所同金祿公債證書ノ義別紙ノ通及指令候條爲心得相達候事

別紙

東京裁判所同 明治十一年九月十八日

金祿公債證書ノ儀明治九年第百九號ノ公布ヲ以テ書入質入并賣買約定取結候儀相禁シ
置カレ候處問々人民心得違ヒ致シ書入等ノ契約ヲ以テ金穀致貸借居候者有之右ハ本月
九日第貳拾五號ノ公布ニテ勝手ニ書入等被差許候得共固ヨリ禁止中ノ密約ニ付全ク其
効驗ヲ失ヒ唯貸借ノ分ノモト心得可然哉此段相伺候也

指令(明治十一年九月廿一日)

伺之通

第一千百十三 明治十二年七月十四日內務省乙第三拾九號縣^府へ達

本年當省乙第貳拾貳號ヲ以テ社寺寶物古文書保護之儀相達候ニ就テハ今般調製スヘキ目錄
帳中へ記載ノ物品ハ明治十年第拾三號公布之通抵當ト爲スヘカラサル筋ニ有之依テ自今
社寺ニ於テスル抵當ハ氏子檀家協議之書面ヲ以テ一應管應ヘ申出サセ調査ノ上全ク寶物古

第廿九號公布ハ本文ニ付除去ス

乙第廿貳號達ハ(八百五十七)第拾三號布告ハ(二千五百廿五)ニ掲出ス

文書ニアラサル分ニ限り認可スヘシ此旨相達候事

但目録帳へ記載セスト雖モ該社寺ニ別段ノ由緒アル地所建物等ハ寶物古文書ニ准スヘク且社寺ノ物件不得已儀有之處分候節ハ明治六年第貳百四拾九號公布同九年敎部省第三號達書之通心得ヘシ

○第貳節 連帶ノ貸借

第一千百十四 明治八年四月廿日第六拾三號布告

金穀其他借用証書中借主數名連印ニテ各自分借ノ員數ヲ記載セサル分ハ右連印中失踪又ハ死亡シテ相續人ナキ者等有之トモ其借用シタル金銀其他ノ總額ヲ其連印中現在ノ者へ償却可申付候條此旨布告候事

但右証書中分借ノ員數無之トモ別ニ分借ノ明証アルハ此限ニアラス

附錄 明治十三年二月十二日司法省丁第三號 大審院 諸裁判所 へ達

連借証書處分ノ義ニ付甲號ノ通熊谷裁判所ヨリ伺出候間乙號ノ通内訓及ヒ候條爲心得此旨相達候事

甲號

熊谷裁判所伺 明治十三年一月二十日

甲乙丙ト連借証書ノ内甲ハ東京乙ハ長崎丙ハ箱館等各所在ヲ異ニセル者アリ右ハ明治八年第六拾三號公布ニ照セハ失踪死亡等ノ事故アルニ非レハ債主之レヲ訟求セントス

ルニハ斯所在ヲ異ニセル者ト雖モ其負債者一同へ對シ訟求セサルヲ得サルモノ、如シ若果シテ然リトセハ連借証書ニシテ別段ノ約條之レ無キ分ハ何レモ保證人ノ義務ト敢テ別ナキモノニ似タリ然レモ右ハ明治十年六月仙臺裁判所伺御指令（民事部第廿六號十一葉見合）ノ意ヲ推考スレハ債主ノ撰ム所ニヨリ其一名又ハ二名へ對シ全部ノ請求ヲ爲スモ亦妨ケナシト雖モ現ニ被告セラレタル一名又ハ二名ニ於テ他ノ連借者ノ召喚ヲ乞フ場合ニ在テハ又召喚セサルヲ得サルモノ、如シ然ルニ是等一々召喚セシ上ニ非レハ審理判決スルヲ得サルモノトセハ裁判上頗ル不便ヲ生シ徒ラニ夥多ノ年月ヲ費スノミナラス債主ノ損害モ亦尠ナカラズ畢竟分借ノ員數ヲ明記セサル連借者ハ素ヨリ保證人ノ義務トハ全ク其生質ヲ異ニスレハ各自ニ其全額ヲ負擔スヘキ義務ナシトモ亦謂フ可カラス左スレハ債主ニ於テ右連借人ノ内現在スル一名又ハ二名ヲ相手取出訴セシ片被告ニ於テ他ノ連借者ノ召喚ヲ求ル際裁判官ニ於テ其求メニ應シ連借者ヲ召喚スルモ無益ノ時日ヲ經過スルノミニテ現在ノ被告ニ全額返辨セシムルモ不都合之レ無モノト思料スル片ハ直チニ其全額ヲ償却セシメ可然義ト存候得共右ハ前顯第六拾三號ノ公布ニ牴觸スルノ疑議有之候間一應奉伺候至急仰内訓候也

乙號

内訓 明治十三年二月九日

連借証書處分ノ義ニ付伺ノ趣明治八年第六拾三號公布ノ主旨ハ借用証書中數名連印各自分借ノ員數ヲ記セサル分ハ右連印中失踪又ハ死亡シテ相續人無キ者等有之片ニ限り

現在セル數名ノ者へ償却可申付トノ義ナレハ獨リ一名又ハ二名而已ニ對シ全額ヲ請求スルコトヲ得ス必ス訴答文例第八章第廿五條ニ照準スヘシ但仙臺裁判所ヘノ指令第二條ハ援引不相成候事

○第三節 抵當ノ物件ヲ以テ負債ノ償却ヲ爲スニ付一般ノ法則

第一千五百五 明治六年八月廿三日第三百六號布告

動産不動産書入金穀貸借規則左之通相定候條此旨布告候事

動産不動産書入金穀貸借規則

- 一 動産不動産ヲ書入ニ爲シ金穀貸借致シ右期限中書入ノ動産不動産流亡又ハ燒失ヲ爲スト雖モ負債ハ身代限濟方可申付事
- 一 動産不動産ヲ書入ニ爲シ金穀貸借シ濟方ノ期ニ臨ミ右書入ノ動産不動産ノ相場高下アリテ糶賣ノ價ト負債ノ高ヨリ餘分アル時ハ其餘分ハ借主ヘ與フヘシ若シ其價ト負債ヨリ不足ナレハ身代限濟方可申付事
- 一 壬申第三百號布告以前家祿ヲ書入ニ爲シ金穀貸借致シタル分ハ家祿ヲ除キ外物品ヲ以テ身代限濟方可申付事

○第四節 附托物

十六年裁第七號達(千九百一十三)參看

第一千五百十六 明治七年三月四日第貳拾七號布告

預金穀ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サ、ルノ明文ナキ分ハ出訴候トモ本年五月一日ヨリ以後ハ貸金同様ニ裁判可致候條此旨布告候事

○第五節 地所質入書入規則

第一千五百十七 明治六年一月十七日第拾八號縣府達

先般田地永代賣買被差許候ニ付自今質入書入致シ候節ハ左ノ規則ノ通り可相心得事

地所質入書入規則

- 第一條 金穀ノ借主_地ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主_金ニ地所ト証文トヲ渡シ貸主其作徳米ヲ以テ貸高ノ利息ニ充候ヲ地所ノ質入ト云フ
- 第二條 金穀ノ借主_地ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主_金ニ地所引當ノ證文ノミヲ渡シ借主ノ作徳米ノ全部又ハ一部ヲ貸主ニ渡シ利息ニ充候ヲ書入ト云フ
- 第三條 金穀ノ借主_地ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主_金ニ地所引當ノ證文ノミヲ渡シ借主ヨリ其利息トシテ米又ハ金ヲ拂ヒ候ヲモ亦書入ト云フ
- 第四條 地所ヲ質入ニ致シ候節ハ地券ヲモ相渡シ可申其年期ノ儀ハ三ケ年ヲ限ル可シ尤三ケ年以下期限取極候儀ハ勝手タルヘク且ツ年限取極候儀ハ判然証文面ニ記載致シ置可申事
- 但書入ノ儀ハ地券ヲ相渡スニ及ハス其年限長短共本文ノ限ニアラスト雖モ雙方相對ニ

第四部 第壹編 第貳章 第五款 第三節 第四節 第五節 二百八十五

本章第八款公証之部及五年(二千八百八十九)第九年內(一千八百九十)第十年內(一千八百九十)參看

十年第拾貳號布告(二千五百五十六)參看

テ取極候年限ハ本文同様証文面ニ記載致シ置可申事

第五條 質入又ハ書入ノ地所期限ニ至リ貸主借主相談ノ上金穀ヲ返サスシテ地所ヲ引渡候節ハ舊地主ヨリ金主ヘ可引渡旨別紙ニ相認メ其地ノ戸長加印ノ上金主ヨリ地券相添ヘ確認ノ証ヲ可願出事十二年第七號布告テ至條改正ス

第六條 質入レノ地所ハ金主ニテ其地所耕作可致筈ニ付テハ地租諸役トモ總テ金主ニテ可相勤事

但其段管轄廳ヘ届出證書可差出事

第七條 書入ノ地所ハ地主ニテ耕作致シ候儀ニ付地租諸役トモ無論地主ヨリ可相勤事但管轄廳ヘ届出ニ不及候事

第八條 管轄違ノ者或ハ同管轄ト雖ヒ懸隔ノ地所ヲ質ニ取候節ハ其現地ノ村町ヘ金主ノ名代人相定置其地租諸役トモ差支無之様可爲相勤事

第九條 質入又ハ書入証文ニハ必ス其村町戸長ノ奥書證印ヲ取ルヘシ其村町戸長ノ役場ニハ奥書割印帳ヲ備ヘ置キ証文ノ奥書割印ヲ願出ル時ハ帳面ト證文トニ符號ヲ朱書シ割印ヲ押シ奥書ヲ爲ス可シ若シ奥書並ニ割印ナキ証文ハ質入又ハ書入ノ證據ニハ不相成ニ付右証文ヲ以テ訴出ルニ於テハ負債主財産分散ノ時債主他ノ債主ニ對シ先キ取リノ特權ヲ失ヒ獨リ質入又ハ書入ナキ金穀貸借ノ處分ヲ可受事七年第六號布告ヲ以テ但書共至條改正

但戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戸長奥書調印ス可シ

第十條 一箇所ノ地ヲ二重三重ニ書入候儀ハ不相成候得共若シ第一番ノ金主ヘ引當ニ入レ

置キ候事ヲ第二番ノ金主承知ノ上ニテ地所代價ノ餘分ヲ見込又其地所ヲ引當ニ借添ヘ致シ候儀ハ不苦尤借主身代限ノ處分ニ相成候節ハ右地所糶賣ノ代金ヲ以テ第一番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡申スヘク若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金第二番ノ金主ヘ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スルハ其不足ノ分ヲ價フヘ並ニ第三番以下ノ金主ニ價フヘ平常引當ナキ債主ニ身代限償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡可申事七年第五拾貳號布告ヲ以テ至條改正但書ハ依舊

但第二番ノ金主ヘ受取候証文ヘハ地所代價ノ餘分ヲ見込借添候旨ヲ書載可申事

第十一條 地所ハ勿論地券ノミタリトモ外國人ヘ賣買質入書入等致シ金子請取又ハ借受候儀一切不相成候事

第十二條 質入年季中天災ニテ地所流亡等其地ノ全形ヲ失フニ至ル時ハ地券ハ消滅スル理ニ付貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ代リ質ニ差入サセ証文書替ヲ求ムルヲ得ヘシ若シ代リ質ニ差入ルヘキ地所物品等コレナキハ訴訟ノ末身代限リノ處分ニ及フヘク又池成野地成等ニ變換シ或ハ闕崩等ノタメニ其地ノ幾分ヲ失フキハ變換ノ模様及殘存ノ大小ニ應シ規則ニ基キテ地券書替願出ヘキ儀ニ付若シ其變換殘存ノ地ハ貸金穀高ノ價ヲナスニ足ラサルト見込場合ニ於テハ貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ増質ニ差入サセ証文書替ヲ求ムルヲ得可シ若シ増質ニ差入ヘキ地所物品等無之時ハコレ亦訴訟ノ末身代限ノ處分ニ及フヘキ事上

六年第五拾壹號布告(二千六百八十七) 第七號布告(二千六百八十八) 第八號布告(二千六百八十九)

但貸主借主相對示談ハ格別ノ事

第十三條 質入ノ地所年期中天災ニ因リ荒蕪ト相成ハ貸主金ヨリ起返ノ見込ヲ定メ借主地承諾ノ證書ヲ取り其管轄ヘ可願出尤モ入費ハ借主ヨリ償フ可キ事
但借主起返ノ入費ヲ出スヲ能ハサルキハ証書ヲ以テ其地所ヲ貸主ニ引渡シ可申尤相對示談ノ處置ハ格別ノ事

第十四條 當今質入又ハ書入ニ致シ置年期中ノ分ハ總テ前文規則ニ照準シ當七月限リ証文相改メ可申事

第十五條 是迄質入書入ニ致シ置候分ハ前約ノ年季据置不苦尤証文面等前文規則ニ觸候廉ハ總テ相改可申事 六年第百六拾七號 布告ヲ以テ増補

第十六條 從前取結ヒタル質入書入ノ約定ニテ明治六年七月三十一日前ニ期限ヲ過去リタル分ニテ債主ニ於テ貸金返濟方ニ付延期ノ勘辨ヲ加フル者ハ來十月三十一日迄ニ其地所所管ノ戶長役場ヘ届出地所質入書入規則第九條ニ準シ與書割印ヲ受クヘシ若シ右日限内與書割印ヲ受ケスシテ後日其證書ヲ以テ訴訟ニ及フ時ハ質入書入ノ證據ニハ相立サルニ付裁判上糶賣分配ノ時ハ先取ノ權利ヲ失ヒ質入書入ナキ貸借同様ノ處分ニ及フヘキ事 第七拾六號布告ヲ以テ増補

右之通相定候事

○第六節 土地賣買讓渡

第一千百十八 明治五年二月十五日第五拾號布告

地所永代賣買ノ儀從來禁制ノ處自今四民共賣買致所持候儀被差許候事

第一千百十九 明治八年五月八日內務省甲第八號布達

明治五年九月大藏省達第百貳拾六號地券渡方規則第十八條中屋敷地ノ外切步ノ儀ハ百坪以下ハ難相成旨掲載候所自今人民便利ノ爲メ耕地宅地山林等總テ畝步ノ多少ニ拘ハラヌ切步賣買不苦候條此旨布達候事

第一千二百二十 明治十三年十一月三十日第五拾貳號布告

土地賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條此旨布告候事

但明治八年^{六月}第百六號布告并同年^{十月}第百五拾三號布告廢止候事

別紙

土地賣買讓渡規則

第一條 凡ソ所有ノ土地ヲ賣渡シ又ハ讓渡サント欲スル者ハ(賣渡讓渡)證文ニ地券ヲ添ヘ其地ノ戶長役場ニ差出シ與書割印ヲ受ケ之ヲ買受人又ハ讓受人ヘ附與スヘシ

但一筆ノ土地ヲ分割シテ與書割印ヲ受ケント欲スル者ハ其分界及坪數等ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘテ差出スヘシ

第二條 戶長役場ニ於テハ豫メ土地賣買讓渡與書割印帳ヲ備置キ與書割印ヲ請フモノアレハ地所質入書入與書割印帳ヲ見合セ登記ナキニ於テハ(賣渡讓渡)證文ニ與書割印ヲナスヘシ

第百廿六號達
ハ一千七百七十
九ノ第五條
以下ニ掲ク

十二年第六號
布告(一千八百八
十五)十年司
丁第四拾號達
(二千七百七十
二)參看
戶長與書割印
ニ付テハ本章
第八款公證ノ
部ヲ參看スヘシ

第三條 買受人又ハ讓受人(賣渡讓渡)證文ヲ領收スルキハ地券(書換裏書)願書ニ雙方連印ノ土地券ヲ添ヘ戸長役場ヲ經テ管轄廳ヘ差出スヘシ

第四條 第一條ノ手續ヲ以テ其土地所有權ヲ移轉スルコトヲ得ト雖モ地租并地方稅ハ地券ニ記載セル姓名ノ者ヨリ之ヲ徵收スヘシ

但地券紛失ノ際下附願出ルモ亦地券ニ記載セル姓名ノ者タルヘシ

第五條 死亡者失踪者ノ家督相續若クハ遺產相續及ヒ離縁戸主ノ家督相續ニ由リ土地ヲ讓受ケタル者ハ親族(親族ナキモノハ近隣ノ戸主)ト連印ノ上戸長役場ヲ經テ地券(書換裏書)願書ヲ管轄廳ヘ差出スヘシ若シ家督相續又ハ遺產相續ノ日ヨリ六箇月以内ニ戸長役場迄之ヲ差出サハル者ハ證印稅五倍ノ科料ニ處ス

但本條期限内ニ地券(書換裏書)願書ヲ差出ス能ハサル事由アリテ之ヲ届出ル者ハ此限ニ在ラス

第一千二百二十一 明治十五年一月三十日第貳號布達

明治十三年^{十一月}第五拾貳號布告土地賣買讓渡規則第一條但書ノ儀ニ付左ノ通取扱手續ヲ定ム

土地分割取扱手續

第一條 賣買讓渡等ノ爲メ一筆ノ土地ヲ分割シテ與書割印ヲ受ケ地券書換ヲ請ハント欲スルモノハ境界ヲ明瞭ニシテ其反別ヲ正シ地位ノ優劣ニヨリ全筆ノ地價ヲ分配シ其書面ヲ戸長役場ニ差出スヘシ

第二條 戸長ハ實地ヲ檢シ不都合ナキ時ハ與書割印ヲナシ若シ反別地價ノ配分上不適當ノモノアリト認ル場合ニ於テハ其旨ヲ説諭シ願人承服セサル時ハ其意見ヲ付シ郡區役所ヲ經テ管轄廳ニ具申スヘシ

第三條 該廳ニ於テ前條ノ具申ヲ受クル時ハ更ニ實地ヲ審査シ分界ヲ檢シ坪數地位ニ適スル地價ヲ定メ其旨本人ニ申達シ與書割印ヲ受クルノ手續ヲナサシムヘシ

但賣買讓渡ニアラスシテ自己ノ都合ニヨリ一筆ノ土地ヲ分割スルモ前條々ノ例ニヨルヘシ

右布達候事

第七節 建物書入質入賣買讓渡

第一千二百二十二 明治八年九月三十日第四百拾八號布告

諸建物書入質規則並ニ賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條來ル十二月一日ヨリ施行可致此旨布告候事

建物書入質規則

第一條 金穀ノ借主又ハ預リ主ヨリ返済スヘキ證據トシテ^{貸主預}ニ對シ引當トナス所ノ建物ノ圖面ト証文トニ戸長ノ公証ヲ受ケタル者ヲ^{貸主預}ニ渡シ置キタルヲ建物ノ書入質ト云フ

第二條 書入質ト爲ヌ建物自身所有ノ地所ニ建テ在ルキハ書入質証文ニ自身持地ノ建物ナ

第四部 第壹編 第貳章 第五款 第七節

戸長與書證印
ニ付テハ本章
第八款ヲ參看
スヘシ

ルヲ記入スヘシ又借地ニ建テ在ルキハ書入質ヲ爲スモノ其地主ニ請ヒ其地主ヲシテ貸地タルヲ証スルノ奥書ヲ爲サシムヘシ若シ借地ノ建物ニシテ地主ノ奥書ナキ証文ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ借用証文ト看做スヘシ

但官有ノ借地ニ建テ在ル時ハ其所屬官廳ニ請ヒテ其貸地タルヲ証スルノ奥書ヲ受クヘシ十年第六號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス

第三條 金穀ノ借主預ヨリ建物引當ノ証文ト建物ノ圖面トヲ建物ノ在ル地ヲ管轄スル戸長役場ニ差出シ戸長ノ奥書割印ヲ受クルヲ公證ヲ受クルト云フ

第四條 建物書入質ノ証文ニ添フタル圖面中ニ書入質ト爲ス所ノ建物ノ圖ハ朱引朱字ト爲シ書入質ノ外ナル建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲ス可シ第壹號書式及ヒ第貳號書式ヲ見合ス可シ

第五條 戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ヲ備ヘ置キ証文ノ奥書割印ヲ願出ル時ハ其大旨ヲ帳面ニ記入シ而シテ帳面ト証文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ奥書ヲ爲シ圖面ニモ同シ番號ヲ朱書シ割印ヲ押スヘシ若シ戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戸長奥書割印ス可シ

第六條 建物ヲ以テ金穀借用又ハ預リノ引當ト爲シタル証文ニテ前條ノ規則ニ背キ公證ヲ受ケサル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ借用証文ト看做ス可シ

第七條 此規則施行以後建物書入質ノ借用証文又ハ預リ証文ニハ必ス返濟ノ期限ヲ定ムヘシ若シ其期限ヲ定メサル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ借用証文ト看做スヘシ第八條第九拾九號布告ヲ以テ全條改正

第八條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ借川金穀又ハ預リ金穀ニテ返濟期限ノ定メナキ証文ヲ所持スルモノハ明治九年二月廿八日迄ニ金穀借用証文又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ証文ニ改ム可シ若シ借主又ハ其相續人証文ヲ改メサルハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フ可シ

但シ明治九年四月三十日ヲ以テ訴人發途ノ期ト定メ其訴人ノ住所又ハ寄留ノ地所ト裁判所トノ距離毎八里ニ一日ノ猶豫ヲ與フ

第九條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀借用証文又ハ預リ証文ヲ所有スル者ハ返濟満期ニ至ルト至ラサルトニ論ナク明治九年二月廿八日迄ニ金穀借用証文又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ証文ニ改ムヘシ若シ借主又ハ其相續人証文ヲ改メサルハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フヘシ

但書前同斷

第十條 建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ於テハ原告人ノ訴狀ヲ受取タル日ヨリ三日内ニ裁判所ヨリ被告人ノ建物ノ在ル地ノ戸長ニ對シタル報知狀ヲ原告人ニ下付シ速ニ戸長ニ送達セシムヘシ右ノ報知狀ニハ何處管下寄留何某ノ訴訟ニ因リ何大區何小區何番地ノ建物ヲ書入質ト爲ス証文ニ公書スルヲ差留ムル旨ヲ記載スヘシ而シテ其訴訟落着ニ至リシ時ハ公証ノ差留ヲ解クヲ速ニ戸長ニ報知スヘシ

第十一條 第八條及ヒ第九條ノ規則ニ背キ明治九年五月一日以後ニ至リ此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀借用証文ヲ所有スル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ借用証文ト看做スヘシ

第十二條 一棟ノ建物ヲ二重三重ニ書入質ト爲スハ嚴禁ナレモ若シ第一番ノ金主へ書入質ト爲シタルコトヲ第二番ノ金主承諾ナレハ建物代價ノ餘分ヲ見込ミ又其建物ヲ書入質ニ借添ト爲スコトヲ得ヘシ尤借主身代限ノ處分ニ至ルキハ右建物糶賣ノ代金ヲ以テ第一番ノ者へ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者へ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡スヘク若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主へ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金第二番ノ金主へ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スルキハ其不足ノ分ヲ償フコトハ平常書入質ナキ貸主ニ身代限ノ償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡スヘシ但第二番ノ金主ニ渡シ置ク書入質ノ證文ニハ建物代價ノ餘分ヲ見込ミ借添タル旨ヲ書載スヘシ

第十三條 書入質ト爲シタル建物燒失流亡等ニ至リシ時ハ建物ノ所持主又ハ代理人ヨリ遅

千六年内
廿九號達
百七十二
以テ自今
ヲ用井シ

クトモ七日内ニ其趣ヲ書面ニ記シ戸長役場ニ届出ツヘシ戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ノ朱書番號ニ引合セ朱筆ヲ以テ照合ヲ爲シ其傍ニ燒失流亡等ノ趣キヲ略記シ年月日ヲ記シ戸長ノ實印ヲ押スヘシ

第十四條 書入質ノ建物燒失流亡等ニ至リシトハ貸主ヨリ借主ニ對シ代リ質ヲ受取ルコトノ

求メヲ爲スコトヲ得ヘシ若シ借主代リ質ヲ出スコトヲ肯ハス又ハ出シ能ハサルキハ借川金數返濟期限未滿内ト雖モ貸主ヨリ借主ニ對シ元利返濟ヲ求ルノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

建物賣買讓渡規則

第一條 自身所有ノ地ニ建テ在ル建物ヲ賣渡シ又ハ讓渡シテ爲サント欲スル者ハ

ト圖面トニ戸長ノ與書割印ヲ受ク可シ又借地ニ建テ在ル建物ノ讓渡證文ニハ其地主ニ請ヒ其地主ヨリ貸地タルコトヲ證スルノ與書ヲ受ケタル上ニテ戸長ノ與書割印ヲ受ク可シ但官有地ノ借地ニ建テ在ル時ハ其所屬官廳ニ請ヒテ其貸地タルコトヲ證スルノ與書ヲ受クヘシ

第二條 建物ノ買受ケ又ハ讓受ヲ爲サント欲スル者ハ自身又ハ其代人建物ノ在ル地ノ戸長

役場ニ至リ建物書入質記載帳ヲ見合シタル上其讓渡ノ證文ヲ受取リ然シテ後ニ戸長役場ニ至リ戸長又ハ副戸長ノ面前ニテ何大區何小區何番地ノ何番ノ建物ヲ何某ヨリ買受タル旨ヲ書入質記載帳ニ記入シ年月日並ニ苗字名ヲ記シ實印ヲ押スヘシ

第三條 戸長役場ニ於テ建物讓渡證文ノ與書割印ヲ願出ル時ハ是亦建物書入質記載帳ニ記

入スルコト及ヒ證文ニ與書シ圖面ニ割印スルコト建物書入質規則第五條ニ準シ公證ヲ與ルノ手續キヲナスヘシ

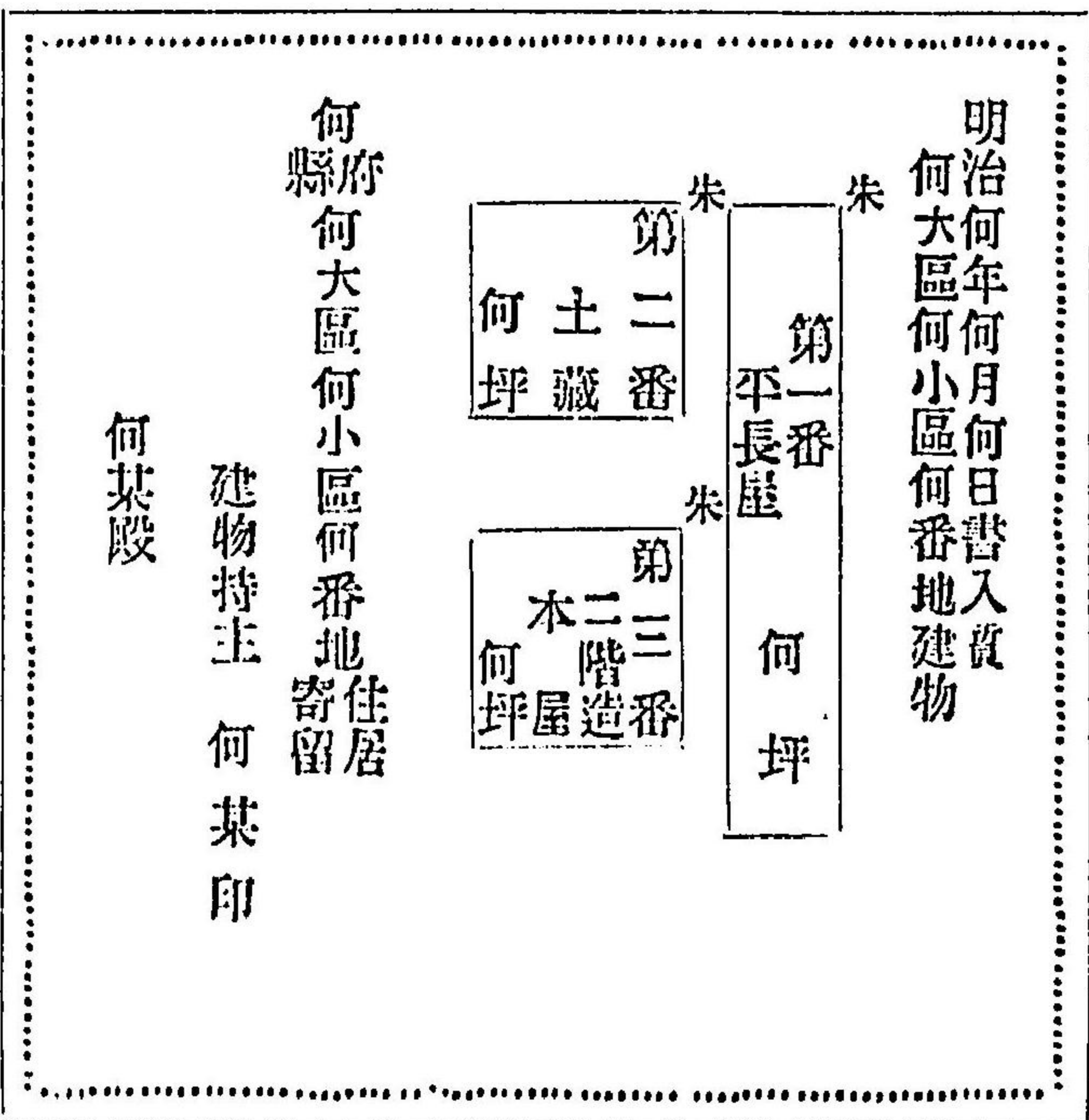
第四條 書入質ト成リタル建物ヲ買受タル者ハ其ノ建物ノ書入質トナリタル金數ノ償却ヲ

引受クヘシ但シ買受人ニ於テ其建物所有ノ權ヲ拋棄スル時ハ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受クルニ及ハス

第五條 第四條ノ場合ニ於テ戸主ノ後ヲ受ケタル相續人ハ前戸主ヨリ讓受ケタル建物所有

ノ權ヲ拋棄スト雖モ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受ク可シ
第壹號 書式(美濃紙大半紙又ハ右寸法ニ同シキ紙ヲ用ユヘシ)

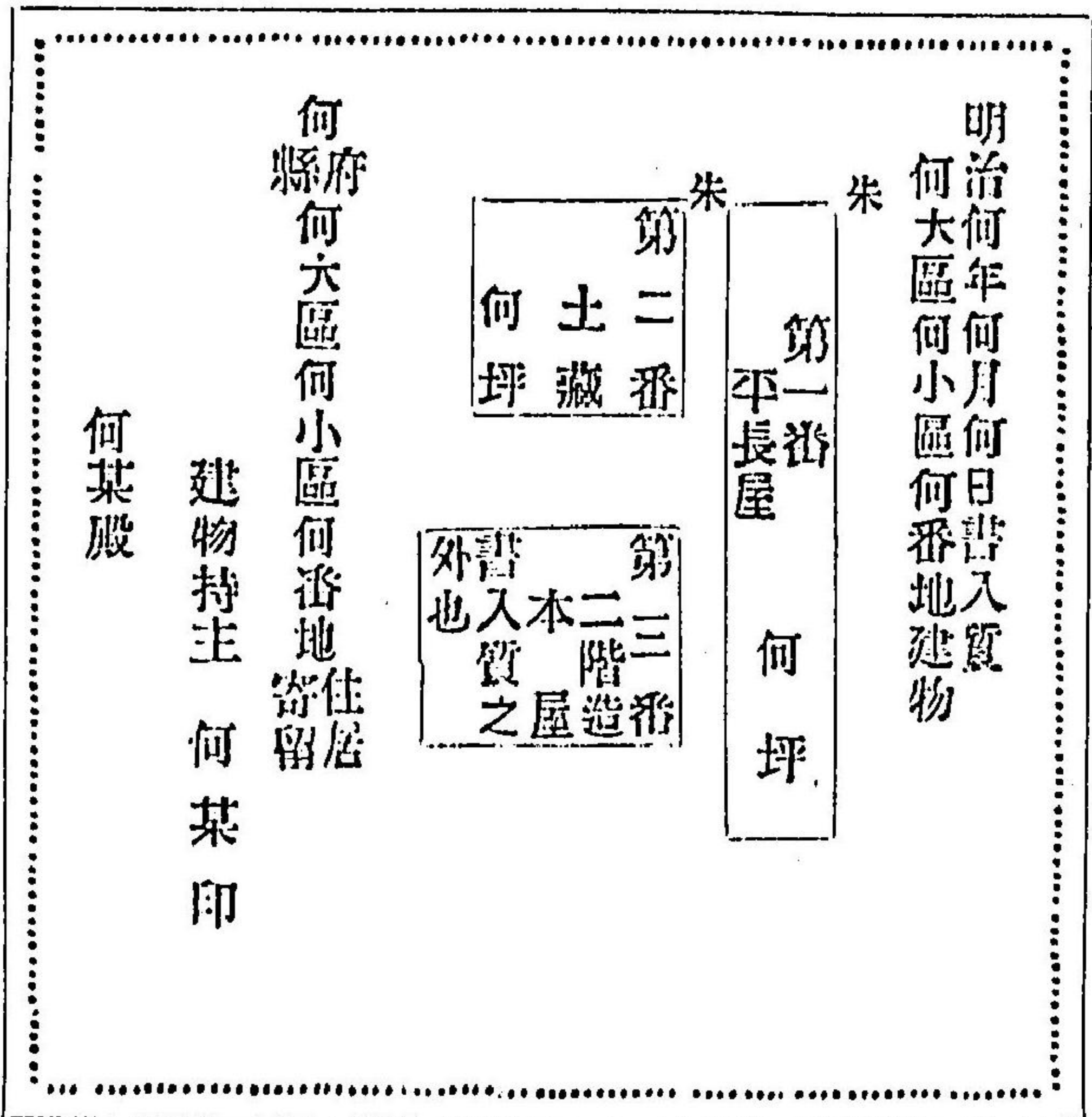
建物ノ圖ヲ引クニハ紙ノ上下左右トモ點線ノ外一寸ヲ明ケ置クヘシ



譬へハ圖ノ如キ朱引ノ建物ヲ書入質ト爲スハ第一番ヨリ第三番マテ合三棟ヲ書入質ト爲スヲ證文ニ記入シ圖面ト共ニ質取主ニ渡シ置クヘシ但シ圖面ノ寫一枚ヲ戸長役場ニ出シ置クヘシ

第貳號

書式 若シ一枚ノ紙ニテ狹キハ何枚モ繼キ合セ繼目ノ裏ニ繼目印ヲ押スヘシ



譬へハ圖ノ如ク朱引ノ建物ノミニテ第一番第二番合二棟ヲ書入質ト爲ストキハ共旨ヲ証文ニ記入シ他ノ建物ハ墨引ニテ書入質ノ外也ト記シ圖面ト共ニ質取主ニ渡スヘシ但シ圖面ノ寫一枚ヲ戸長役場ニ出シ置クヘシ

第三號 書式 建物書入質記載帳ニ燒失流亡等ノヲ書込ムノ法

第四部 第壹編 第貳章 第五款 第七節

〔何號〕

何年何月何日

何大區何小區何番地何番ノ建物ヲ何某ヨ

リ何某ニ書入質ト爲タリ

〔何年何月何日焼失
流亡〕

〔戶長何某印〕

〔何號〕

何年何月何日

、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、

第四號

書式建物書入質記載帳ニ建物ノ買
受又ハ讓受ノコヲ書込ム法

何年何月何日、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、

何年何月何日何大區何小區何番地ノ何番ノ

建物ヲ何某ヨリ買受申候也

何大區何小區何番地住居
寄置

何某印

〔第一千二百二十三〕

明治十年三月廿六日内務省甲第六號布達

第四部 第壹編 第貳章 第五款 第七節

明治八年九月第四百八號ヲ以テ諸建物書入質規則布告相成候ニ付テハ自今其證書面ニ造作
造作トハ庇天并敷居島居ノ有無記載可致此旨布達候事
ち板床ノ間押入等ヲ云フ

○第八節 船舶賣買及書入質入

第二百二十四 明治十年三月八日第四百八號布告

人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質トナサントスル時ハ明治八年九月第百
四拾八號布告諸建物書入質及買讓渡規則ニ準據シ買主又ハ書入主ヨリ其船ノ圖面ト約定
證書ニ本船管轄地戶長ノ公證ヲ受クヘシ若シ右ノ手續ヲ爲サ、ルニ於テハ其約定証文ハ裁
判上尋常金穀貸借証書ト見做スヘシ

但從前書入質ト爲シタル分ハ當明治十年六月三十日迄ニ本文ノ手續ヲ以テ更ニ約定書改
正可致尤航海中或ハ不得止事故アリテ右期日マテニ書換難致者ハ其旨豫メ本船管轄地戶
長役所ヘ届置クヘシ
右布告候事

○第九節 社寺ノ貸借

第二百二十五 明治十年五月十六日第四百三號布告

神社並寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、トキ若クハ金穀ヲ借入ル、爲メ社寺附地所
除稅地ヲ建物什器ヲ除クノ外 等ヲ抵當トナストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上
除クノ外

戸長與証印
ニ付テハ
本頁第八款
ヨリ二百三
十六マテ參
看

第三部第三編
第四章第拾貳
款第拾貳條
百五十二一八
百五十四一八

百五十五及
十二年內七第
三拾九號達一
二千百十三
參看

ノ運著ヲ要スヘシ若シ此運著ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當
アルモ其効ナキモト爲スヘシ
此旨布告候事

第二百二十六 明治十年十月二十九日內務省丁第拾貳號 神宮並官國へ達

各社々用タリト雖モ氏子及其他ヨリ金穀借入候儀ハ不相成筈ニ付此旨相達候事
乙第百壹號
府 縣

別紙丁第拾貳號之通神宮并官國幣社神官へ相達候條此旨爲心得相達候事

○第十節 證書讓渡

第二百二十七 明治九年七月六日第九拾九號布告

金穀等借用證書ヲ其貸主ヨリ他人ニ讓渡ス時ハ其借主ニ證書ヲ書換ヘシムベシ若シ之ヲ書
換ヘシメサルニ於テハ貸主ノ讓渡證書有之モ仍ホ讓渡ノ効ナキモトス此旨布告候事
但相續人ヘ讓渡候ハ此限ニアラス

○第六款 保證人ノ義務

第二百二十八 明治八年六月八日第百貳號布告

明治六年六月第百九拾五號布告金穀貸借請人證人辨償規則本年十月一日ヨリ左之通改正候條
同日以後借用證書へ加印候者ハ改正ノ通可相心得此旨布告候事 八年百廿壹號布告ヲ以テ改正
下施行ノ二字ヲ削リ候條ノ

六年第貳百五
拾貳號布告一
二千百七十五
參看

下二十二
字ヲ加フ

金穀貸借請人證人辨償規則

第一條 金銀借用返濟相滞リ本人身代限濟方申付候上不足相立候節ハ其不足ノ分請人ハ濟方申渡シ猶不相濟ニ於テハ其請人ヲモ身代限申付其上不足相立候ハ、借主並ニ請人ハ勿論其相續人ニ至ル迄身代持直シ次第皆濟可致事

第二條 借主逃亡又ハ死去跡相續人無之時ハ其請人ハ濟方申渡シ候上不相濟ニ於テハ身代限申付猶不足相立候ハ、請人ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直シ次第皆濟可致事

第三條 身代限申付候上不足相立身代持直シ次第皆濟可致旨左ノ雛形之通裁判所ニ於テ其ノ原證文ノ裏ヘ記シ押印ノ上貸主ヘ可相渡置事

裏書雛形

第一條ノ節書式

表書ノ元利金何百何拾圓相滞ルニ付請人何ノ誰身代限申付ル處不足相立請人何ノ誰ヲモ身代限ヲ以テ辨償爲致都合金何百何拾圓ニ相成ニ付右請取殘リ何百何拾圓ハ請人何ノ誰請人何ノ誰ハ勿論其相續人ニ至ル迄身代持直シ次第皆濟可致モノ也

年月日

某裁判所印

第二條ノ節書式

表書ノ元利金何百何拾圓借主何之誰逃亡跡相續人無之ニ付請人何ノ誰ヘ身代限ヲ以テ辨償申付ル處金何百何拾圓ニ相成ニ付右受取殘リ何百何拾圓ハ請人何ノ誰ハ勿論其相續人

年月日

某裁判所印

ニ至ルマテ身代持直次第皆濟可致モノ也同上失踪ヲ逃亡ト改ム

第七款 利息制限

第一千二百廿九

明治六年三月廿五日司法省第四拾三號布達

- 預ケ金穀 賣掛代金
- 諸職人手間代 地代
- 店賃 立替金穀
- 敷金 證據金
- 受負金 手附金
- 小作金穀 村入川之割合金穀
- 雇人給金 飯料
- 諸品ノ損料 無利息貸金穀

右ノ類ニテ金穀等可相渡期限ニ臨ミ渡方延滞致候節ハ其期限ノ日且期限ナクシテ金穀入川次第可相渡旨ノ約定ヲ爲シタル分ハ渡方ノ掛合ヲ受ケ候日ヨリ何レモ利息ヲ生シ可申筋ニ付其節ハ雙方示談ヲ以テ利息ノ歩合ヲ定メ證書ヲ受取渡シ致スヘシ若シ其儀ナクシテ追テ訴訟ニ及フ時ハ明治六年第九拾貳號布告ニ因リ處分致シ候條此旨可相心得候事

但債主利息ヲ請求シテ負債者承諾セサル時ニ限り本文ノ處分ニ及フ可シ若シ雙方示談整

六年第九拾貳號布告(二千三百三十一)ニ依リ消ル

フカ又ハ債主ニ於テ請求ヲ爲サ、ル分ハ此例ニアラス
七年田法省第貳拾貳號布達ヲ以テ追加

第二千二百二十 明治六年十月廿八日司法省第百七拾四號布達
明治六年常省第三拾八號金穀貸借利息ノ儀裁判決定迄算計可致旨及布達置候處右ハ貸借ノ金穀返濟之日亦ハ身代限配當金處分濟ノ日迄利息ヲ計算致シ候儀ト可相心得此旨布達候事

第二千二百二十一 明治十年九月十一日第六拾六號布告
利息制限法左之通相定候條此旨布告候事

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス

第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニソ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付自分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一割五分)千圓以上百分ノ十二(一割二分)以下トス若シ此限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各制限ニマテ引直サシムヘシ

第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ヲ定メサルハ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ不拘百分ノ六分トス

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ル者アルハ總テ裁判上無効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ違フルルハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金料等ヲ差出スヘキヲ約定スルコトアルハ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スヲ得

○第八款 公證

第二千二百三十一 明治七年五月二日內務省乙第三拾三號達

本年第六號公布地所質入書入規則第九條改正文中戸長ノ與書證印ハ戸長又ハ副戸長實印ヲ爲抑制印ハ戸長役場印ヲ相用候儀ト可心得此旨相達候事
但役場印無之候ハ、彫刻申付右出來迄ハ戸長實印ヲ換用可致事

第二千二百三十二 明治九年八月十八日司法省達第六拾三號
大審院各裁判所裁
判所ヲ置サル各縣へ達

地所建屋書入質調印ノ儀ニ付別紙ノ通御達有之候條爲心得此旨相達候事

司法省

別紙內務省伺地所建屋書入質調印ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨相達候事

明治九年八月三日 太政大臣三條實美

地所並建屋書入質ノ儀ニ付伺

地所並建屋書入質ノ儀ニ付別紙ノ通山梨縣ヨリ伺出候ニ付勘辦致シ候處事實不特止場合ニ於テハ書入又ハ質入主ノ親屬アルモノハ其親族ニテ代印親屬ナキ者ハ請人證人二人以上連印ノ上本人於テ其事由ヲ證書面へ手摺爲致置追テ實印ノ證書ト引換フルト否ラサルトハ質取主ノ意ニ任セ置候其後日其證書ノ效ハ消滅可致筋ニ有之間敷ニ付其段可及指令ト存候得共右ハ地所並建家等ノ證書ノミニ無之公私一般關係ノ儀ニ付一應相伺候條至急御指揮ヲ仰候也

內務卿大久保利通代理

十六年内七第
廿九號達二百
七十二ヲ以テ
自今官印ヲ用
ヒシム

明治九年七月七日

太政大臣三條實美殿

内務少輔林 友幸

朱書

伺之趣本人區戸長役場ニ至リ調印ナシト雖モ自分承知ノ旨ヲ口濱セシメ區戸長其趣ヲ簡略ニ與書中ニ書加ヘシムヘシ然ル上ハ其證書ハ他日書替ヲ要セス實印アル證書ト同一ノ效力ト看做スヘキ事

明治九年八月三日

地所並建家書入質之儀ニ付伺

地所並建屋書入質證書調理ノ際ニ當リ其地主及ヒ建屋主實印差向不見當又ハ紛失代リ彫刻中ニテ有證書至急ヲ要スル節ハ其書入質取主承諾ノ上書入質主ノ父兄又ハ請人証人ニ代印爲致後日自己ノ實印刻成ノ上證書ニ改候歟又ハ書入質取主承諾ノ上ハ其儘据置候共不苦候哉右ハ即今伺出ノ向モ有之ニ付至急御指揮有之度相伺候也

明治九年四月廿日

山梨縣令藤村紫朗

内務卿大久保利通殿

附錄

明治九年十一月廿五日司法省達第八拾貳號 大審院上等裁判所 地方裁判所 へ達

本年達第六拾三號ヲ以內務省伺地所建屋書入質調印ノ儀ニ付正院御指令ノ趣相達置候處右御指令へ左之通但書追加相成候旨尙又御達有之候條爲心得此旨相達候事
但シ實印ナキ旨ノ保證人二員以上連印ヲ要ス

第二千二百三十四 明治十一年十二月十二日内務省乙第八拾三號 縣府 へ達

地所建物船舶等質入書入及ヒ質買スルニハ町村戸長ノ公証ヲ要スル成規ノ處町村戸長ニシテ自分所有ノ地所建物船舶等質入書入及ヒ質買セントスルトキハ戸長次席ノ役ヲ勤ムル者用掛筆生ニ取扱ハセ公証ノ割印ハ戸長役場ノ印ヲ用非其由ヲ割印帳ニ登記シ置ク可シ此旨相達候事

第二千二百二十五 明治十三年七月七日司法省丁第拾三號 大審院 諸裁判所 へ達

利息制限外ノ質入證書ニ戸長公証ノ件ニ付別紙ノ通法制部ヨリ通達有之候條爲心得此段相達候事

別紙

法制部ヨリ通達 明治十三年 六月廿三日

利息制限外ノ質入證書ニ戸長公証ノ件ニ付舊法制局ヨリ及説明置候處今般開裁ヲ經テ左ノ通熊本縣ニ及回答候條爲心得此段及通達候也

法制部ヨリ熊本縣ニ回答

戸長ハ地所家屋等ノ書入質入ヲ公証スルモノニシテ利息ノ制限ニ超ユルト否トニ關セサルモノトス

第二千二百二十六 明治十五年十二月廿一日第六拾號布告

戸長ニ於テ地所建物船舶賣讓渡及ヒ質入書入ノ公證ヲ爲スヘキ際該物件又ハ所有主ノ身分ニ關シ既ニ訴訟ヲ起シ公證猶豫ノ儀申立ル者アル時ハ其裁判ヲ執行シ得ヘキ迄公證ヲ爲

スヘカラス

右奉 敕旨布告候事

第一千三百二十七 明治十七年三月十七日第五號布達

明治十五年^{十二}月^{十二}第六拾號布告ハ勸解又ハ刑事告訴中ナルヲ以テ公證猶豫申立ル者アル場合ニモ適用スヘキモノトス

右布達候事

○第貳編 訴訟

○前加 詞訟ニ代人ヲ用フル事

○第壹款 代言人規則

第一千三百二十八 明治十三年五月十三日司法省甲第壹號布達

明治九年當省甲第壹號代言人規則左ノ通改正候條此旨布達候事
但該規則ニ牴觸スル從前ノ布達ハ總テ廢止タル可シ

代言人規則

第一款 總則

第一條 代言人ハ法令ニ於テ代言ヲ許サレタル詞訟ニ付テ原告又ハ被告ノ委任ヲ受ケ其代言ヲ爲ス者トス

第二條 代言ノ業ヲ爲サント欲スル者ハ第四款ニ掲クル所ノ手續ニ依リ定式ノ試験ヲ經テ司法卿ノ免許ヲ受ク可シ

第三條 免許ヲ受ケシ代言人ハ大審院及ヒ諸裁判所ニ於テ代言ヲ爲スヲ得

第四條 代言人ノ免許ヲ得ル能ハサル者左ノ如シ

- 一 未丁年者
- 二 身代限リノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
- 三 盜罪詐偽罪ニ付刑ヲ受ケタル者
- 四 懲役禁獄一年以上ノ刑ニ處セラレタル者

十四年同省甲第貳號布達ヲ以テ本項改正

五 官更准官吏及ヒ公私ノ雇人

第五條 免許ヲ受ケシ者ハ必ズ第二款ニ掲クル所ノ代言人ノ組合ニ入りテ其規則ヲ守ル可シ若シ一時他管ニ出テ代言ヲ爲スキハ其地組合ノ規則ヲ遵守ス可シ

第六條 代言人新ニ免許ヲ受ケシ時及ヒ他ノ地ニ轉住セント欲スル時ハ其業ヲ爲ス所ノ裁判所及ヒ檢事檢事ナキ地ハ檢事ノ職務ヲ並ニ議會長ニ其旨ヲ届ケ廢業ノ時ハ免許狀ヲ檢事ニ返納ス可シ

第七條 代言免許ハ滿一年月ヲ以テ算フヲ以テ限トシ免許料ハ金十圓トス其業ヲ繼續セント欲スル者ハ毎年免許料ヲ納ム可シ既ニ納メタル免許料ハ廢業停業除名ノ時ト雖モ之ヲ還付セ

第八條 新規出願ノ者ハ免許狀ヲ受ル時免許料ヲ直チニ檢事ニ納ム可シ

引續出願ノ者ハ必ズ免許期限ノ盡ル前願書ニ免許料ヲ添ヘ檢事ニ差出ス可シ但右手續ヲ爲シタルトキハ期限後ニ係リ未タ免狀ノ下付有ラサルモ其儘代言ヲ爲スヲ得可シ

第九條 免許料ヲ納メサルヲ以テ免許ヲ得ス又ハ期限前ニ於テ引續願ヲ爲サシテ免許ノ効ヲ失ヒシ者再ヒ代言ヲ爲サント欲スル時ハ新規出願ノ手續ニ循フ可シ

第十條 免許狀ヲ紛失シ又ハ氏名ヲ改メシ者ハ更ニ免許狀下付ノ願ヲ檢事ニ出ス可シ但願書ノ副本ニ檢事ノ捺印ヲ受ケ置キ引替免許狀下付迄ハ之ヲ以テ免許代言人タルノ證ト爲ス可シ

第十一條 代言ヲ爲スニハ必ズ詞訟本人ノ委任狀ヲ受ク可シ

第十二條 代言人ノ懲罰ハ第三款ニ依テ處分ス可シ

第十三條 代言人ノ所業ニ因リ生シタル詞訟本人並ニ相手方關係人ノ損害ハ其代言人ニ於テ之ヲ償フ可シ

第二款 議會

第十四條 代言人ハ各地方裁判所本支廳所轄每一ノ組合ヲ立テ議會ヲ設ケ左ノ目的ヲ以テ規則ヲ定メ契約ヲ固クス可シ但組合ハ各裁判區ノ廣狹遠近ニ依リ檢事ノ見計ヲ以テ之ヲ分合スルヲアル可シ

一 互ニ風儀ヲ矯正スル事

二 名譽ヲ保存スル事

三 法律ヲ研究スル事

四 誠實ヲ以テ本人ノ依頼ニ應スル事

五 強テ本人ノ權利ヲ捏造セサル事

六 妄リニ言詞ヲ變改セサル事

七 故ナシ時日ヲ遷延セサル事

八 相當謝金ノ額ヲ定ムル事

但該規則ハ必ス檢事ノ照閱ヲ經可シ其改正増補モ亦之ニ同シ

第十五條 組合毎ニ會長一名副會長一名又ハ二名ヲ毎年第一次會ニ於テ投票ノ多數ヲ以テ定ム可シ若シ投票ノ數相均シキ時ハ先キニ免許ヲ得タル者ヲ以テシ其時日相同シキ時ハ

年長ノ者ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第十六條 會長ハ議會ノ管理ヲ爲シ副會長ハ會長ヲ補助シ會長差支アル時ハ之カ代理ヲ爲ス可シ其任期ハ各滿一年トス但每期投票多數ヲ得ル者ト雖モ其職務ヲ繼續スルハ二期ヲ以テ限リトス

第十七條 第二十二條ニ記載シタル條件ヲ犯ス者アル時ハ各代言人ハ之ヲ會長ニ報告シ會長ハ之ヲ檢事ニ告發ス可シ

第十八條 議會ヲ開クハ毎年二次ヲ以テ定例ト爲シ其日數一次十五日ヲ過クルヲ得ス若シ已ムヲ得サル場合ニ於テ期日ヲ延サントスルカ又ハ臨時會ヲ開カントスル時ハ必ス檢事ノ認可ヲ受ク可シ但其會費ハ各代言人ニ於テ之ヲ擔當スル者ト爲ス

第十九條 會長ハ組合總員ノ名簿ヲ作り其本貫族籍住所年齢及ヒ代官免許ノ年月日ヲ記シ轉住廢業懲罰ノ事アル毎ニ其旨ヲ記ス可シ

第二十條 議會中詞訟事件ニ付參會スルヲ得サル場合ニ於テハ其旨ヲ會長ニ届出ツ可シ

第三款 懲罰

第二十一條 會長及ヒ副會長ト雖モ代官ノ職業ニ付テハ一般ノ代官ト異ナルナシ

第二十二條 代官人左ノ條件ヲ犯ス時ハ輕重ヲ量リ第二十三條及ヒ第二十四條ニ依テ懲罰ス可シ

一 訟廷ニ於テ現行ノ法律ヲ誹議スル者

二 訟廷ニ於テ官吏ニ對シ不敬ノ所業ヲ爲ス者

三 訟廷ニ於テ相手方ヲ陵辱罵詈シタル者

四 詞訟ヲ教唆シタル者

五 證據ト爲ル可キ者ヲ捏造シタル者

六 他人ノ詞訟ヲ買取り自己ノ利ヲ圖ル者

七 強テ謝金ヲ前收シ又ハ過當ノ謝金ヲ貪リタル者

八 故ヲニ時日ヲ遷延シ詞訟本人並ニ相手方關係人ノ妨害ヲ爲シタル者

九 議會組合ノ外私ニ社ヲ結ビ號ヲ設ケ營業ヲ爲シタル者

十 議會ニ於テ定メタル取締規則ヲ犯シタル者

第二十三條 懲戒ノ目次左ノ如シ

一 譴責 二 停業

三 除名

第二十四條 所犯法律ニ該ル者ハ法律ニ依テ處斷シ仍ホ第二十三條ノ罰目ヲ併科スルコトアル可シ

第二十五條 譴責ハ止々呵責シテ業ヲ停メス停業ハ一月以上一年以下其業ヲ停メ除名ハ代官人名簿ノ名ヲ除キ三年ヲ經ルノ後ニ非サレハ復々代官人タルヲ得ス若シ其所犯ノ情狀重キ者ハ終身之ヲ許サス

第二十二條ノ懲罰ヲ受ケタル者アルモ其旨ヲ裁判所ノ扣所ニ揭示ス可シ

第四款 出願

第二十六條 代官免許ヲ願フ者ハ第二十九條ノ書式ニ倣ヒ願書ヲ作り現住戸長(又ハ區長)ノ與印ヲ受ケ履歷書ヲ添ヘ其所轄ノ檢事ニ差出シ定式ノ試験ヲ受ケ可シ

第二十七條 出願定月

二月 八月 各上半ヶ月ヲ以テ限リト爲ス

第二十八條 試験ノ課目左ノ如シ

- 一 民事ニ關スル法律
 - 二 刑事ニ關スル法律
 - 三 訴訟ノ手續
 - 四 裁判ニ關スル諸規則
- 第二十九條 願書及ヒ履歷書々式

代官願

本貫住所 寄留ナル時ハ其寄留所ヲ記入ス可シ

身分

氏

年 齡

代官營業仕度ニ付御試験之上免許被成下度此段奉願候也
年號月日

右

氏 名 印

司法卿某殿

前書ノ通出願候ニ付キ與印致候也

右戸長 又ハ區長

氏 名 印

履歷書

本貫住所 寄留ナル時ハ其寄留所ヲ記入ス可シ

身分

職業

氏 名

年 齡

- 一 地名身分何某ニ隨ヒ何年ヨリ何年迄何學修行何某ニ隨ヒ何技術ヲ修行
 - 一 何年月日何職ニ任シ何年月日免官 辭職
 - 一 何年月日何々ノ職ヲ以テ何職ヨリ賞典ヲ受ケ
 - 一 何年月日何々ノ犯罪ニ依リ何ノ刑ヲ受ケ
 - 一 何年月日身代限リノ處分ヲ受ケ何年月日辨償ノ義務ヲ終フ
- 右之通ニ御座候也

年號月日

氏名印

代官引續願ノ免許狀紛失氏名改換ノ時

引續代官營業仕度候ニ付免許狀御下付被下度此段奉願候也

本貫住所寄留ナル時ハ其寄留所ヲ記ス可シ

年號月日

免許代官人 氏名印

司法卿某殿

○第貳款 代官人取扱手續

第一千二百二十九

明治十三年五月十三日司法省丙第八號諸裁判所へ達

司法省明治九年二月第貳拾五號達代官人取扱手續左ノ通改正候條此旨相達候事

代官人取扱手續

- 第一條 代官ノ免許ヲ願フ者アル時ハ檢事檢事ナキ地ハ檢事ノ職務ヲ攝行スル者其願書及ヒ履歷書ヲ査閱シ若シ寄留ニテ履歷ノ顛末分明ナラサル時ハ本管ニ照會シテ取調ヘタル上之ヲ試験シ一切ノ書類ヲ經メ司法卿ニ進達スヘシ
- 第二條 試験問題ハ出願定月前司法卿ヨリ各地方ノ檢事ニ送付ス
- 第三條 檢事ハ司法卿ヨリ受クル所ノ問題ヲ以テ出願定月ノ下半ヶ月間ニ試験ヲ行フヘシ

但試験ニ法律書籍ヲ携帶スルモ妨ナシ其問題ニ之ヲ許サヘル旨ヲ記セシ時ハ携帶ヲ禁スヘシ

第四條 免許狀ハ司法卿ヨリ檢事ニ送付シ檢事之ヲ其本人ニ授與スヘシ

第五條 大審院裁判所并檢事ニ於テハ代官人名簿ヲ製シ年月日ヲ詳ニシテ左ノ件々ヲ登録スヘシ

- 一 氏名身分住所年齢
- 二 新規及ヒ引續免許
- 三 住所移轉姓名改換及ヒ廢業免許狀紛失等
- 四 懲罰

附錄 明治十三年六月十二日司法省丙第拾壹號大審院諸裁判所檢事へ達

代官人取扱手續第五條ノ手續ヲ行フニ就キ同條諸件ハ各地方檢事檢事ナキ地ハ檢事ノ職務ヲ攝行スル者其裁判所へ通報シ又上等裁判所大審院ノ檢事へ届出ヘシ上等裁判所大審院ノ檢事ハ之ヲ其裁判所其院へ可通知儀ト可相心得此旨相達候事

第六條 代官人ハ總テ其地ノ檢事ニテ監視シ代官人規則ニ照シテ之ヲ取扱フヘシ若シ犯則ノ者アル時ハ其處分ヲ裁判官ニ求ムヘシ訟廷ニ於テノ犯則ハ裁判官直チニ之ヲ處分シ後チ檢事ニ通知スヘシ

第七條 議會ノ規則ハ檢事之ヲ認許シ其副本及ヒ會長副會長組合人ノ氏名簿ヲ司法卿ニ進達スヘシ

第八條 代官人他ノ裁判所管内ニ轉住シ又ハ廢業スルトキハ檢事ヨリ司法卿へ上申スヘシ尤モ廢業ノトキハ其免許狀ヲ返納スヘシ

第九條 免許狀紛失或ハ改名ニ係リ書換等ニテ更ニ下付ヲ願出ル者アル時ハ檢事ヨリ司法卿へ上申シ其免許狀下付ヲ得テ之ヲ本人ニ授與スヘシ但右出願ノ時其願書ノ寫へ捺印ヲナシテ本人へ與へ置クヘシ

第十條 檢事ハ免許料ヲ收領シタル上ニテ免許狀ヲ本人ニ授與スヘシ

第十一條 免許料ハ一月毎ニ司法省へ納ムヘシ十三年丙第拾四號省達ヲ以テ全條改正

但シ檢事所在ノ裁判所ハ該會計課へ交付スル義ト心得ベシ

第十二條 代言人ノ處刑懲罰ハ其都度檢事ヨリ之ヲ司法卿へ上申スヘシ除名ノ時ハ其免許狀ヲ褫奪シテ返納スヘシ

第十三條 檢事ハ停業ノ罰ヲ受ケタル者ノ免許狀ニ某年月日ヨリ某年月日マテ停業シタル旨ヲ裏書シ捺印ヲ爲シテ之レヲ本人ニ下付スヘシ 〔括弧内朱書〕

同年省丙第拾
貳號達ヲ以テ
免許狀表而右
角へ朱書添號
ヲ增加ス

免 許 狀 雛

〔何 某〕
〔代 言 者 免 許 申 請 書 此 證 ヲ 授 与 〕

〔番 號〕
〔免 許 期 限〕
〔從 何 年 何 月〕
〔至 何 年 何 月〕
〔停 業 期 限〕

形

司法省 明治年月日 印

從何年何月何日 至何年何月何日 印

第二千四百四十 明治十三年十一月廿九日司法省丙第拾六號地方裁判所檢事檢へ達申アラサル各縣

明治十二年五月司法省丙第七號達左之通改正候條此旨可相心得事

文部省所轄東京大學法學部ニ於テ法律學卒業ノ者代言人營業出願セシ時ハ明治十三年五月司法省甲第壹號布達改正代言人規則第二十七條出願月第二十八條課目ニ關セス免許狀授與候條右出願ノ節ハ卒業免狀ヲ檢査シ願書ニ其寫ヲ添へ進達可致此旨相達候事

但本文試驗ニ關スルモノ、外代言人規則ニ準據スルハ一般代言人ト異ナルヲナシ

○第三款 詞訟代人

第二千四百四十一 明治十七年一月廿四日第壹號布達

明治十三年五月司法省甲第貳號布達左ノ通改正ス

詞訟又ハ勸解ニ付已ムヲ得ズ代人ヲ出サントスル者ハ親屬又ハ相當ノ者ヲ撰ミ管轄裁判所ノ許可ヲ受ク可シ但代人タル者同時ニ二人以上ヨリ二件以上ヲ受任シ其他不適當ノ所爲アリト認ムル時ハ裁判所ニ於テ之ヲ差止ムルコトアル可シ
右布達候事

○第壹章 訴訟ノ取捨

○第壹款 通則

第千四百四十二 明治十年四月五日司法省丁第廿九號^{上等裁判所へ達}從來目安糺シト云成例アリテ出訴之起願被告ノ答辯ヲ俟タヌ直ニ受理不受理ヲ判決スル等ノ有之候處右ハ廢止可致候條此旨相達候事
但シ大審院ニ於テ願訴ノ下調ヲ爲スハ此限ニアラス

○第貳款 賣買貸借ニ係ル訴訟

○第壹節 官方貸下其他華族寺院等各目貸付ノ事

第千四百四十三 明治五年五月十九日第百五拾九號布告

五年第三百號
布告ハ(二千
百四十九)ニ
基キ

宮華族其他寺院之名目ヲ以金銀貸附置候事件ヨリ起ル訴訟ノ者相對ノ濟方申附來候處右返濟相滯難澁ノ旨相聞候ニ付相對ノ示談難行屆者自今訴狀取揚可及裁判候條其筋へ可願出事
第千四百四十四 明治九年五月十一日司法省達第百五拾壹號^{大審院各裁判所各縣へ達}官方貸下金ノ内大藏省處分ノ檢印有之分ハ自今舊藩々貸下金同様可及裁判旨今般御達有之候條此旨相達候事

○第貳節 郷印證文ノ貸金穀并諸道助郷驛費

▲二〇

ニ關スル滯金

第千四百四十五 明治五年四月十四日第百貳拾三號布告

舊藩藩又ハ舊旗下之者へ米金ヲ貸附領内又ハ知行所之郷印證文ヲ取置候事件ヨリ起ル訴訟ハ相對ノ濟方ニ申付來候處右返濟方相滯下方難澁不少哉ニ相聞候ニ付相對ノ示談難行屆者ハ自今訴狀取揚裁判ニ可及候條來七月晦日限リ其筋エ可願出候事

第千四百四十六 明治五年十一月四日司法省第百三拾貳號布告

郷印證文ニ舊領主舊地頭借用ノ金穀ニ無相違旨ヲ記載シテ其舊領主舊地頭之證印有之分ハ勿論假令證印無之トモ右ノ明文書加有之分ハ壬申十月八日第三百號ノ御布告ニ基キ裁判ニ不及候此旨相達候事

第千四百四十七 明治六年一月十二日司法省第四號布告

郷印證文ノ内當省壬申第三拾貳號ヲ以テ及布達置候處右者華士族卒ノ私債ニ懸リ候儀ニテ舊藩債ハ格別ニ候條混同無之様可相心得候事

第千四百四十八 明治六年六月十二日第貳百號布告

諸道各驛附屬村々助郷其他驛費ニ關スル滯金丁卯十二月以前ノ分ハ一般不及裁判候事

○第三節 華士族卒及再立ノ諸藩へ掛ル金穀

貸借 附家祿引當並期滿後ノ貸借

第千四百四十九 明治五年十月七日第三百號布告

五年第三百號
布告ハ(二千
百四十九)ニ
基キ

一華士族卒へ掛り候金穀貸借ハ明治二年己六月郡縣ノ制被仰出候以前ノ分ハ裁判ニ不及候事

一静岡及ヒ仙臺會津其外再立ノ藩々再立以前ノ金穀貸借ハ裁判ニ不及候事

一自今貴賤上一般ノ人民互ニ期ヲ約シテ金銀貸借シ如シ期ニ及テ不返時内證屢催促ヲナ

スト雖モ期月後滿五年ニ至ル迄一度モ訴出サル者ハ裁判ニ不及候事

但當七月以前ノ貸借ノ分ハ此ノ限ニアラス

一從前今後共家祿ヲ引當ニ致シ候金銀貸借ノ儀ハ一切裁判ニ不及候事

〔第二百五十一〕 明治五年十一月廿七日司法省第四拾壹號布達

太政官第三百號ノ御布告ニ基キ左之通可心得此旨及布達候事

第一條 華士族卒へ掛ル金穀貸借ハ明治二年己六月二十五日以前ノ分ハ不取上翌二十六日以後ノ分ハ取上裁判スヘキ事

但華士族卒ヨリ平民へ係ルモ本條之通タルヘシ

第二條 預リ金穀ハ証文而預ケ金穀ノ名目ニテ利足有之亦ハ預リ人へ融通セシムル廉ヲ以禮金等ヲ請ケル分ハ第一條ノ通心得ヘク尤全ク預ケ金ニテ利足禮金ヲ請ケサル分ハ及裁判若シ其金穀ヲ費用シ濟方不埒明時ハ斷獄課へ可引渡事

第三條 元士族卒當時歸農商ノ分及ヒ己六月ノ改革ニ付三代以下ニテ平民トナル者己己六月廿五日以前ノ証文ニテ其節士族卒ナレハ取上ヘカラサル事

第四條 神職僧侶等ニ關スル分ハ貸借ノ節准士族卒ナレハ士族ヲ以テ可取扱事

十年第拾貳號
布告(二千百
五十六)參看

第五條 明治二年己六月廿五日以前ノ金穀貸借ヲ新規証文ニ書改タル分ハ不取上事

第六條 己己六月廿五日以前ノ貸借ニテ華士族卒へ掛ル分ハ御布告前審判亦ハ對談日延中ト雖モ濟方不及裁判旨可申渡事

第七條 御布告前身代限中渡濟之分ハ申渡ノ通可及處分事

第八條 從前出訴吟味中和解シ家祿ヲ引當トナシ新規証文ニ改メ濟口問届タルハ御布告ニ依リ不及裁判事

第九條 從前華士族ノ名目ヲ用ヒタル貸附金ハ第三百號ノ御布令ニ依リ取上ヘカラス候事

第十條 動産不動産ヲ債主ニ質入シタル者ハ取上裁判可致事

附リ 沽券狀ヲ債主ニ渡シ金穀ヲ借用セシ者モ本條ニ准シ質入ト見做スヘキ事

〔第二百五十一〕 明治六年三月三十一日司法省第五拾號布達

壬申第三百號御布告第三條但書ノ儀ハ左之通可心得事

一壬申七月以前ノ金穀貸借ニテ既ニ同七月以前返濟期限過去タルハ同七月ヨリ五ヶ年ノ内

訴出サル者ハ不及裁判事

一壬申七月以前ノ貸借ニテ返濟期限同七月後ニ係リタルハ期限後滿五年ニ至ル迄一度モ訴

出サル者ハ不及裁判事

○四節 平民相互ノ貸借

〔第二百五十二〕 明治五年十月廿二日第三百拾七號布告

平民相互ノ金穀借貸慶應三年丁卯十二月晦日以前ニ係ル者ハ一般裁判ニ不及明治元年戊辰正月元日以後ノ分ハ裁判ニ及候事

第二百五十三 明治六年一月十三日第九號布告

昨壬申歲第三百拾七號平民相互金穀借貸慶應三年丁卯十二月晦日以前ニ係ル者一切不及裁判旨及布告候處動産(金銀衣服家什等)搬運スヘキ者ヲ云フ)不動産(土地家屋等)搬運スベカラサル物ヲ云フ)ヲ質物ニ取候分ハ右期日以前ニ係ルト雖取上及裁判候條此旨相達候事

○第五節 無年期ノ貸付及小野組閉店以前ノ取引

第二百五十四 明治六年一月十三日第拾號布告

金穀貸附証文ノ内返濟期限無之歟又ハ出來次第返却可致等ノ證書取置後日訴出ツルニ於テハ裁判申渡ヨリ十二ヶ月ノ内濟方可申付事

但從前今後共無年期貸附中内證屢返濟ヲ促スト雖モ滿五年ニ至ル迄一度モ不訴出者ハ裁判ニ不及候尤土地家屋等ノ貸賃ハ不動産ニ屬スル儀ニ付滿五年ヲ過ルト雖モ可及裁判事

第二百五十五 明治十五年九月五日司法省丁第四拾七號大審院判所へ達

小野組閉店以前該組ト取引セル債主ハ明治七年第百貳拾九號布告并明治八年大藏省甲第拾四號達ニ依リ當時同省ニ申出其處分ヲ可受等ノ處往々其中出ヲ怠リ當今ニ至リ出訴致候者

有之哉ノ趣右ハ不都合ノ義ニ付訴致候トモ可取上モノニ無之候條此旨相達候事

○第三款 附托物ニ係ル訴訟

第二百五十六 明治十年一月二十九日第拾貳號布告

預ケ金穀ノ訴訟ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サ、ル明文アルモノハ年數ニ拘ハラヌ受理スヘキ成規ニ候處自今二十年以前ニ係ルモノハ一切裁判不及候條此旨布告候事

附錄 明治十年八月十七日司法省丁第五拾八號大審院判所へ達

本年第拾貳號公布預ケ金ノ儀東京上等裁判所ヨリ甲號ノ通伺出候ニ付乙號ノ通太政官へ上稟シ裁令ノ上丙號ノ通指令候條此段爲心得相達候事

甲號 本年第拾貳號公布預金穀ノ儀ニ付伺 十年二月二日

東京上等裁判所長心得西判事

今度太政官第拾貳號公布ヲ以テ預金穀期滿得免ノ法被定候處抑預ケ金穀ノ儀ハ從來裁判上三種ノ區別有之第一該公布面掲載相成居候證書中封印ノ儘預リ置候或ハ融通使用ヲ爲サ、ル明文アル者ニシテ則チ從前新律綱領費用受寄財産條ニ同ヒ處分セシ者第二証書中前兩條ノ明文ナキ者ニシテ則チ七年太政官公布第貳拾七號ニ依リ貸金同様ノ裁判ニ及ヒ右刑律ニ問ハサルモノ第三前兩條ノ明文ナク利足禮金等申受クルモノニシテ壬申本省布達第四拾壹號第二條ニ基キ丁卯十二月以前ノ分ハ裁判ニ及ハサルモノ即チ

是ナリ然ルニ是迄前書第二項ノモノハ第一項ノモノト等シク年數ニ於テハ定限無之候
處其處分方ハ從前ノ通可据置筋ニ有之候哉權衡不都合ニモ存候得共該公布面右第二項
ノ分合有不致様相見候間此段相伺候至急何分ノ御指令有之度候也

乙號 太政官へ上稟

東京上等裁判所同本年第拾貳號布告預ケ金穀ノ件ヲ審思スルニ右ハ全ク明治五年本省
第四拾壹號布達第二條ニ基キ七年第貳拾七號布告ノ旨趣ヲ狹隘ノ意義ニ解セシヨリ起
ル疑議ニシテ之ニ一歩ヲ進メテ廣ク其ノ法意ヲ了解セハ其疑ヒ一朝ニシテ氷釋セン依
テ該布告ノ意ヲ釋マルニ其貸金同様ニ裁判スト云フモノハ管ニ之ヲ刑律ニ問ハサルノ
ミナラス都テ通常貸借同様ニ裁判シ明治五年第三百拾七號布告ニ據リ丁卯十二月晦日
以前ニ係ル者ハ一般裁判ニ及ハスト爲ス者ナルヤ必セリ依テハ左之通指令可及ト存候
此段一應相伺候也

明治十年三月一日

司法卿大木喬任

右大臣岩倉具視殿

丙號 指令 二十年四月
二十一日

伺之趣封ノ儘預リ置歟或ハ融通使用ヲ爲サ、ル明文ナキモノハ七年第廿七號布告ニヨ
リ一切通常貸借同様裁判致スヘキ儀ニ付其旨可心得事

但シ通常貸借同様處分スルニ於テハ丁卯以前ニ係ル者ハ裁判ニ及ハサル儀ト可心得事

附錄 明治十年八月十七日司法省丁第五拾九號大審院諸
裁判所へ達

本年第拾貳號公布ノ儀ニ付太政官へ甲號ノ通上申候處乙號ノ通御裁令有之候條此段爲
心得相達候事

甲號 本年第拾貳號公布ノ儀ニ付上申 十年四月
十日

本年第拾貳號公布預ケ金穀訴訟ノ儀ハ過去ノ事ヲ指サヤ將來ノ事ヲ謂フヤ法文明
確ヲ欠クト雖思フニ必ス既往ノ事ノミニ限リ一時ノ活斷ヲ以テ之カ限界ヲ立テシ者
ニシテ即チ丁卯以前ノ貸借訴訟ハ不探上ノ類ナラント信用セリ若シ之ヲ將來ノ事トシ
通常ノ出訴期限ヲ定メラレタル者トセバ抑モ又附托物(預物ヲ云金銀ナラハ封ノ儀)ニ
出訴ノ期限ヲ設クルハ何等ノ理由ナリヤ本來預ケ預リノ約ハ金穀貸借ノ約ト其性質ヲ
異ニスルモノナルニ出訴ノ期限ヲ設クルハ政府ノ法律ヲ設テ我カ人民ノ權利財產ヲ保
護スルノ原理ニ扞ルモノナリ今此ニ貸借ト其性質ヲ異ニシ金穀貸借ニ出訴期限ヲ設ケ
預ケ預リノ約ニ出訴期限ヲ設ク可カラサルノ理由ヲ述ントス抑政府保護ノ點ヨリ之ヲ
論スル時ハ假令幾多ノ歲月ヲ經ルト雖モ貸タル者へハ取返スヘキノ權利ヲ伸張セシメ
借タル者へハ返償スヘキノ義務ヲ執行セシムルコソ當然ノ理ナリ然レトモ年移リ物換リ
事跡モ自ラ堙滅シテ其証ヲ得ルニ由ナク假令ヒ之ヲ得ルモ證以テ證トナスニ足ラス徒
ニ紛争ヲ生シ權利者却テ權利ヲ失ヒ義務者却テ義務ヲ免ル、ニ至ルノ恐アリ元來金穀
ノ貸借タルヤ貸主ハ其契約期限ニ至ラザレハ返償ヲ要求スルノ權ナク借主ハ公ニ之ヲ
自由ニ使用スル所有權ヲ得タル者ニテ期限ニ至リ始メテ返償ノ義務アリ故ニ債主其期
限ヲ過テ數十年ノ久ヲ經ルモ一應ノ催促ナク又訴フルコトモ無キ時ハ法律上借主ハ義務

五年第三百拾
七號布告ハ
二千五百五
二(二)掲出シ
七年第廿七號
布告ハ(二)千
百十六(二)掲
出ス

ニ返償シタル者ト看做シ又債主ハ既ニ其權利ヲ拋棄シタル者ト看做スノ理由ニ基ク是レ金穀貸借上出訴期限ノ設アル所以ナリ然ルニ附托ノ約ハ本來懇親信用ノ點ヨリ起ル者ニシテ財産ヲ自家ニ藏貯スルノ安堵ナラサルカ或ハ子孫ノ爲メ慮ル所アルヨリ之ヲ他人ニ附托シ保護ヲ依頼スル所以ナルヲ以テ(預ケ金ハ必ス融通使用スル)附托者ハ何時タリトモ之ヲ取戻ヲ得ヘキハ固ヨリ言ヲ俟タス受托者ニ在テハ受托中敢テ其所有權ヲ得タルモノニアラス其所有權ハ他人ニアルコトヲ明認シテ其附托ヲ受ケ之ヲ保護スルノ義務アルモノニテ附托者ノ求ニ應シ何時モ之ヲ返戻セサル可ラサルノ理由アリ故ニ制法者ハ此ノ理由ニ基ツキ雙方ノ權利義務ヲ保護完全ナラシムヘキモノナリ是レ其附托物等ニ出訴ノ期限ヲ設クヘカラサルノ理由ナリ(彼ノ有名ナル佛國民法中此ノ)然レト受托者受托ノ物品ヲ轉賣若クハ遺失等ヲナシ現存セサル時附托者ヨリ要償ノ訴ヲナスハ固ヨリ出訴ノ期限ヲ要スヘキナリ請フ當ミニ之ヲ論セン元來受托者ハ最初契約ノ時ヨリ一種ノ義務ヲ負フ者ナリ第一ハ附托者ノ求メニ從ヒ何時タリトモ返戻スヘキノ義務アリ第二ハ若シ返戻シ能ハサル時ハ其償ヲ爲スヘキノ義務アリ故ニ其物品受托者ノ手ニ現存セサル時ハ第二ノ場合即チ其償ノ要求ヲナサ、ルヘカラス是ニ於テハ其附托物ヲ轉賣遺失セシ日ヨリ出訴ノ期限ヲ起算スヘク若シ附托者ヨリ轉賣遺失等ノ日ヲ證據立ル能ハサル時ハ初メ附托契約ノ時ヨリ起算スヘキ者ナリ(抑モ附托契約ハ全ク附其附托セシ翌日ニテモ又何時ニテモ取戻シ得ヘキ者ナルニ付キ若シ其証ヲ立)是レ法理ル能ハサル時ハ其附托契約ノ日ヨリ起算セサル可カラサル理由アルモノナリ)是レ法理ノ然ラシムル所蓋斯場合ニ至テハ一般負債要償ト同一ノ性質ナレハナリ是ニ依テ之ヲ

觀レハ附托物取戻ノ訴ニ二十年ノ出訴期限ヲ立ツルハ事理ニ反シ事實ニ戻リ決シテ期限ヲ設クヘキモノニ非ス而シテ亦必スシモ出訴期限ヲ立テサルモ物換リ星移リテ現物存在セサルニ唯其預リ證文ヲ以テ強テ取戻ヲ訴フルアルモ即チ右第二ノ場合ニ移ルヲ以テ之ヲ裁スルハ自カラ出訴期限ニ與ルヘケレハ決シテ不都合ヲ生セサルナリ然ル時ハ該公布ハ全ク過去ノ事ノミニ限り候儀ト信用致シ候過般各裁判所ヨリ陸續伺出候ニ付右ノ主旨ヲ以テ指令可及ト存候條一應爲念相伺候也

乙號 指令 十年四月十九日

伺之通

○第四款 例規ニ違背シタル訴訟

第二百五十七

明治六年四月廿八日司法省第六拾九號達

爾來郵便等ヲ以テ訴狀差出候者往々有之右ハ殊裁ニ於テモ不都合ニ涉リ實際ニ於テモ裁判難相成候ニ付以來右等ノ書類差出候節ハ一切不取上其時々燒捨候條此旨相達候事

第二百五十八

明治八年五月十二日第八拾三號布告

明治六年六月一日以後同七年八月三十一日以前ニ取結ヒタル諸約定ニテ印紙ヲ貼用セス或ハ界紙ヲ用ヒサル證書ヲ取置クカ又ハ附込ノ諸帳簿ニ押印ヲ受ケサル者ハ聽訟裁判上無據事故ノ有無ニ因リ採上クルト採上ケサルトノ別之レアリ候處七年(七月)第八拾壹號布告ヲ以テ證券印稅規則改正相成候ニ付テハ六年六月一日以後七年八月三十一日以前ノ分ト雖モ

右規則ニ準シ證書受取主或ハ帳簿主ニ於テ舊規則相當ノ印紙ヲ自分ニテ貼用押印ノ上訴出ル時ハ採上裁判ニ及ヒ候條此旨布告候事

第一千六百六十九

明治十一年十二月廿六日司法省丁第四拾五號 大審院 諸へ達 裁判所

民事訴訟上証券印紙貼用規則ニ觸レタル者ノ審判手續申號ヲ以テ東京上等裁判所エ下問候處乙號ノ通申出候ニ付丙號ノ通相違候條此旨爲心得相違候事

甲號東京上等裁判所エ下問 明治十一年十二月十七日

職業ニ管スル金銀受取書ノ儀八十圓以上印紙ヲ貼用スヘキハ規則モ有之候處譬へハ

今茲ニ甲介ナル者アリテ乙造ヨリ二千圓ノ負債ヲ有ス或日該金高ノ内千圓ヲ返却シ受取書ヲ取置ク(印紙貼)後又五百圓ヲ返却ス此時乙造ハ最前受取ノ金高ヲ合併シ都合千五百圓ノ受取書ヲ(貼用ス)甲介へ渡シ乙造ハ甲介ヨリ最前千圓受取書ノ返リ証書ヲ(印紙貼)取置ク爾後乙造ハ甲介ニ係リ殘金五百圓ノ延滞ヲ訟求ス然ル處被告甲介ハ却テ五百圓ノ渡過アルヲ以テ之ヲ取返サントノ答辨ヲナシ千五百圓ノ受取書ト(印紙貼)自ラ印紙貼用消印セシ處ノ千圓ノ受取書(最前印紙貼)トヲ確証トシ裁判所エ呈供ス原告乙造ハ其千圓ノ證書ヲ消サンカ爲メ當時ノ返リ證書ヲ(印紙貼)捧クルト雖モ被告甲介ハ該證書ハ證券印稅規則第二則第一條第一項ニ觸ルハ、ヲ以テ裁判上無効ナル旨ヲ主張ス
右ノ如キ場合ニハ是迄其裁判所ニ於テ何様ノ手續ヲ以テ何様ノ處分致シ來リ候哉詳細至急申出ヘキ事

乙號東京上等裁判所ヨリ申出 明治十一年十二月十八日

今茲ニ甲介ナル者アリテ乙造ヨリ二千圓ノ負債ヲ有ス或日該金高ノ内千圓ヲ返却シ受取書ヲ取置ク(印紙貼)後又五百圓ヲ返却ス此時乙造ハ最前受取ノ金高ヲ合併シ都合千五百圓ノ受取書ヲ(貼用ス)甲介へ渡シ乙造ハ甲介ヨリ最前千圓受取書ノ返リ證書ヲ(印紙貼)取置ク爾後乙造ハ甲介ニ係リ殘金五百圓ノ延滞ヲ訟求ス然ル處被告甲介ハ却テ五百圓ノ渡過アルヲ以テ之ヲ取返サントノ答辨ヲナシ千五百圓ノ受取書ト(印紙貼)自ラ印紙貼用消印セシ處ノ千圓ノ受取書(最前印紙貼)トヲ確証トシ裁判所ニ呈供ス原告乙造ハ其千圓ノ證書ヲ消サンカ爲メ當時ノ返リ證書ヲ(印紙貼)捧クルト雖モ被告甲介ハ該證書ハ證券印稅規則第二則第一條第一項ニ觸ルハ、ヲ以テ裁判上無効ナル旨ヲ主張ス
右ノ場合ニ於テ被告甲介提供セシ處ノ千圓ノ受取書ハ自ラ相當ノ印紙ヲ貼用ノ上消印シタル者ニ付證券印稅規則第五則第十二條ニ依リ裁判上ノ證據ニ採用スト雖原告乙造取置シ千圓ノ返リ証書ハ印紙貼用無之ニ付同規則第一則第二條ニ照シ取揚ケ裁判難相成モノ故原告乙造要求相立メサル旨裁決シ各自印紙貼用セサリシ廉ハ檢事へ告發シテ其處分ニ附シ候儀ニ有之候此段上申候也
丙號東京上等裁判所エ達 明治十一年十二月廿四日
過般下問ニ及ヒ候民事訴訟上証券印紙貼用規則ニ觸レタル者ノ審判手續ノ義ハ左ノ通相心得處分可致此旨相違候事
別紙原告乙造ノ如ク印紙貼用規則ニ觸ル者ハ直ニ其廉ヲ以テ處罰シ規則ノ通印紙貼用爲致該証書取揚ケ審理ヲ爲スヘキモノトス

○第貳章 訴答

○第壹款 民事訴訟用印紙規則及印紙種類等

第二十百六十 明治十七年二月廿三日第五號布告

民事訴訟用印紙規則別紙之通制定シ明治十七年四月一日ヨリ施行ス

但明治八年^{十二}第百九拾六號布告訴訟用印紙規則ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

別紙

民事訴訟用印紙規則

第一條 凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應シ左ノ區別ニ隨ヒ其受付ノ時ニ於テ印紙ヲ貼用ス可シ

金額 五圓マテ	貳拾錢	同拾圓マテ	三拾錢
同貳拾圓マテ	六拾錢	同五拾圓マテ	壹圓五拾錢
同七拾五圓マテ	貳圓貳拾錢	同百圓マテ	三圓
同貳百五拾圓マテ	六圓五拾錢	同五百圓マテ	拾圓
同七百五拾圓マテ	拾三圓	同千圓マテ	拾五圓
同貳千五百圓マテ	貳拾圓	同五千圓マテ	貳拾五圓
同五千圓以上ハ千圓マテ毎ニ貳圓ヲ加フ			

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第三條 人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ

但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戶長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スルコトアル可シ

第四條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

答辯書證據物寫辯駁書辯論書上申書陳述書等

證人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書

審判ノ延期ヲ請求スル願書

第五條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書

財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書

執行命令書ヲ請求スル願書

身代限ノ處分ヲ請求スル願書

第六條 裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

但裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ壹枚二十行一行十八字詰トス

第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者ニ辨償ス可キモノトス

第九條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第一千六百六十一 明治十七年二月廿三日第四號布達

今般第五號布告ヲ以テ訴訟用印紙規則制定候ニ付印紙ノ種類定價及ヒ貼用方左ノ通之ヲ定ム

- 淡黑色印紙 一枚三錢 黑色印紙 同 五錢 赭色印紙 同 拾錢
 - 茶褐色印紙 同 五拾錢 黃色印紙 同 壹圓 青色印紙 同 五圓
 - 橙黃色印紙 同 拾圓 綠色印紙 同 拾五圓 嬌栗色印紙 同 貳拾圓
- 印紙ハ訴狀其他書類ノ正本ニ貼用シ貼用者ノ印章ヲ以テ消印ス可シ
右布達候事

第一千六百六十二 明治十七年三月六日司法省丁第三號 大審院 裁判所 へ達

民事訴訟用印紙製造及ヒ賣捌等ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ通御達有之候條爲心得此旨相達候事

司法省

今般第五號布告民事訴訟用印紙製造及賣捌等ノ儀ハ大藏省ニ於テ可取扱旨別紙ノ通相達候條此旨相達候事

太政大臣三條實美

大藏省

今般第五號ヲ以テ民事訴訟用印紙規則布告候處右印紙製造及賣捌等ノ儀ハ其省於テ取扱可申此旨相達候事

太政大臣三條實美

明治十七年三月四日

第一千六百六十三 明治十七年三月五日司法省甲第壹號告示

今般第五號布告ヲ以テ訴訟用對紙規則廢セラレ候ニ付テハ本年四月一日以後民事訴訟ニ關シ大審院又ハ裁判所へ差出ス書類ハ都テ美濃紙又ハ之レト同尺度ノ紙ヲ用ヒ一枚貳拾四行一行貳拾字詰ニ書スヘキモノトス
但訴訟入費ハ明治九年當省甲第五號布達第一條第九條ニ定メタル割合ニ依リ書類認料ハ一枚金貳拾錢翻譯料ハ一枚金四圓ト相成ル義ト心得ヘシ
右告示候事

第四部 第貳編 第貳章 第貳款 第壹節 第貳節

十七年裁第拾七號(千二百七十八)參看

九年丙甲第百五號布達(八二二)千九百九十二ニ掲出ス

○第貳款 出訴手續

○第壹節 民事ノ詞訟勸解ヲ乞フヘキ事

第千六百六十四 明治九年十一月廿七日司法省甲第拾七號布達
民事ノ詞訟ハ可成丈ケ一應區裁判所ノ勸解ヲ乞フ可ク此旨諭達候事

○第貳節 課税及備荒儲蓄金區町村費土木費

ニ關スル處分不服ニ付訴ノ事

第千六百六十五 明治十五年五月十日第貳拾貳號布告

課税ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ先ツ其旨ヲ申立課額ヲ上納シ領收
證書ヲ添ヘ其翌日ヨリ六十日內ニ訴出ツヘシ

但納税期限前ニ訴出テ訴訟中ト雖モ其期限ニ至レハ課額ヲ上納スヘシ

右奉 勅旨布告候事

第千六百六十六 明治十五年十二月廿八日第七拾四號布告

備荒儲蓄金及區町村會若クハ水利土功ノ集會ニ於テ評決シタル土木費ニ關シ不服アリテ出
訴セントスルモノハ都テ明治十五年^五第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

第千六百六十七 明治十七年七月四日第貳拾三號布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五

年^五第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ
右奉 勅旨布告候事

○第三款 出訴期限

第千六百六十八 明治六年十一月五日第三百六拾貳號布告

金穀貸借ヲ始メトシ物品買賣ヨリ其外種々ノ取引等ニ至ルマテ雙方ノ者互ニ受取渡ノ期限
ヲ定メ條約ヲ結ヒ置キタルニ一方ノ者其條約ヲ破リタル時ハ早速裁判所へ出訴イコシ不苦
候處延期ノ勸解ヲ加ヘ出訴ヲ見合候者モ有之是亦慈愛ノ人情ニテ尤ノ事ニ付早速出訴イタ
シ候トモ又ハ勸解ヲ加ヘ候トモ人民ノ自由ニ任セ出訴期限ノ法則不相定候處有延期勸解中
數多ノ歲月ヲ過去リ出訴致シ候時ハ貸方借方請人証人ノ内死亡又ハ轉住又ハ失踪等ノ者モ
有之無理曖昧ニ立至リ裁判上不都合不少候ニ付訴訟ノ事柄ニ因リ夫々出訴ノ期限ヲ定候條
來明治七年一月一日ヨリ後ニ結ヒタル條約期限ニテ右出訴期限ヲ過去リ出訴セサル者ハ自
分條約ヲ取消シタル者ト看做シ受取ルヘキ者ハ受取ルヘキ權利ヲ失ヒ引渡スヘキ者ハ引渡
スヘキ義務ヲ免レ候事ト相定メ候ニ付若シ出訴致シ候トモ取上不致候此旨布告候事

出訴期限規則

第一條

一 學藝ノ授業料

一 旅籠料

- 一 運送賃
 - 一 飲食料
 - 一 手附金
 - 一 商人互ノ賣掛金
 - 一 職人ノ手間代金
 - 一 日雇人ノ給料
 - 一 請負金
 - 一 芝居等ノ木戸錢又ハ棧敷錢等
 - 一 男女藝者ノ揚代金
- 右ハ六ヶ月限

第二條

- 一 醫師ノ診診及ヒ藥料
 - 一 授業師ヨリ門弟ニ給與シタル飲食料
 - 一 商人ヨリ商人ニ非サル者ヘノ賣掛代金
 - 一 一ヶ年期マテノ奉公人給料
- 右ハ一ヶ年限

第三條

一 期限ヲ定メタル貸附米金及ヒ利息アレハ其利息

- 一 期限ヲ定メタル預米金及ヒ利息アレハ其利息
 - 一 家屋及ヒ土地ノ借賃
 - 一 小作米金
 - 一 証據金
 - 一 敷金
 - 一 物品ノ借賃又ハ損料
 - 一 養育料
 - 一 七ヶ年期マテノ奉公人給料
 - 一 期限ナキ年金及一生涯ノ年金
- 右ハ五ヶ年限

第四條

一 條約証書中期限ナキ者ハ出訴ノ日ヲ期限ト看做シ候故何時出訴致シ候テモ若シカラサル事

第五條

一 従前取結ヒタル條約ニテ明治六年十二月三十一日以前ニ條約期限ノ切レタル事件ハ右明治六年十二月三十一日ヲ條約ノ期限ト看做スヘシ又従前取結ヒタル條約ニテ其期限ノ明治七年一月一日後ニ及フ事件ハ條約期限ノ切レタル翌日ヨリ第一條第二條第三條ノ種類ニ從ヒ出訴ノ期限ヲ起算致スヘキ事

但明治五年壬申第三百號布告第三條ニ定メタル規則ハ格別ナリトス

第一千六百六十九 明治九年四月十七日司法省達第四拾四號各裁判所裁判所へ達

區裁判所或ハ裁判所支廳ニ勸解願出候者勸解中出訴期限満期ノ者處置方左之通可相心得此旨相達候事

第一條 勸解出願ノ者勸解中ニ出訴期限ノ満期ニ至ル者ハ其勸解不調ノ翌日ヨリ滿三十日迄ハ出訴期限ノ猶豫ヲ與フ可シ

第二條 勸解調ハサル時右滿三十日迄ニ府縣裁判所ニ出訴ヲ爲サ、ルニ於テハ其事件ニ付出訴スルノ權利ヲ拋棄シタルト看做ス可シ

第一千七百十 明治十一年三月十一日司法省丁第九號大審院諸裁判所へ達

裁判執行ノ出訴期限ニ付高知裁判所ヨリ甲號ノ通伺出ニ因リ乙號ノ通太政官へ伺候處伺ノ通ト御裁令有之ニ付丙號ノ通及指令候條爲心得相達候事

甲號 高知裁判所長判事石井忠恭十一年一月十二日

明治八年四月廿五日滋賀縣伺ノ御指令ヲ玩味スルニ主タル訴件ニ附帶シ訴訟入費出者ヨリ直者ニ償却可致旨裁判言渡ノ後直者ヨリ滿六ヶ月ヲ經過シテ其償却ヲ請求スルキハ出訴期限第一條ニ據リ直者ニ於テハ要償權利ヲ失シ曲者ニ於テハ期滿得免ノ權ヲ得ルニ至ル然ルニ主タル訴件ニ限リ權利者ニ於テ往再數年ノ久ヲ經過スルモ裁判執行ヲ請求スルヲ得ルハ允當ナラサル緣被相考等シク是レ直者ノ曲者ニ於ケル如ク本案ニ關スル賣掛代金貸金等ノ訴件モ初審又ハ終審裁判言渡當日ヨリ起算シ夫々該訴ノ種類ニ應シ出訴期限ノ的條

ヲ經過シテ權利者ヨリ裁判執行ヲ請求スルキハ權利者ニ於テハ裁判權利ヲ拋棄シ義務者ニ於テハ其義務ヲ免レタルモノト見做シ裁判執行ノ訟求狀及却下可然哉至急御指令ヲ仰キ候也

乙號太政官へ上申十一年二月八日

別紙高知裁判所伺ノ趣ヲ審思スルニ裁判言渡ノ後更ニ執行ヲ請求セス在再歲月ヲ經過スル者ハ固ヨリ期滿得免ノ効ヲ得ヘシ何トナレハ裁判言渡ニ因リ裁判ヲ執行スルノ權義ヲ生セシムルヲ以テ其權義ニ付必ス期滿得免ノ効アラサルヘカヲサレハナリ抑斯ノ期滿得免ハ訴訟原案ノ種類ニヨリ期滿得免ノ長短ニ拘ハラサルヘシ蓋シ裁判言渡ナル者ハ雙方ノ間ニ更ニ裁判上ノ契約ヲ生セシムルノ理アルヲ以テナリ我國現行ノ出訴期限六年第三告號布ヲ視ルニ裁判執行ノ出訴期限ニ於テハ明文アルヲナシ而シ其最モ長キ者五年ナリトス因テハ該伺ノ如キ訴訟原案ノ種類ニ拘ハラヌ滿五年ヲ以テ期限トナスコ允當ト思考スルニ因リ左ノ通指令可及ト存候得共明文ナキヲ以テ此段申稟候也

丙號 指令

伺ノ趣裁判執行ノ出訴期限ハ出訴期限規則第三條ニ準據シ五ヶ年タル可シ

第一千七百十一 明治十年七月七日司法省丁第四拾九號大審院上等裁判所へ達

過般地所賣買契約等ノ儀ニ付甲號乙號ノ通り三重縣及ヒ熊谷裁判所ノ伺ニ因リ丙號ノ通り太政官へ上稟シ御裁令ノ上丁號戊號ノ通り及指令候條此段爲心得相達候事
甲號

地所年限賣買及ヒ質地證文ノ儀ニ付伺 九年八月二十六日

三 重 縣

第一條 茲ニ年季ヲ定メ地所買得シタルモノアリ自作又ハ他人ヘ宛テ作為致貢租諸役之レヲ勤ムルモノ其年季中ハ地所々有ノ權買者ニ有スル者ニ似タリト雖モ明治七年第四百四號及ヒ明治八年第六號公布其地券書替ヲ爲サ、ル限リハ即チ未タ地所買得ノ効力ナキモノニ付右地所買得者ニ於テ其買得ノ証及ヒ小作証文ヲ以テ小作米或ハ加地子米淹滞ノ訴ヲナストモ准スヘカラサル手

第二條 同上地所買得者ニ於テ其買得ノ證ヲ有スト雖モ賃租諸役共依然賣者ニテ勤ムルモノ右買得ノ證文ノミヲ以テ買得者ヨリ地所代金取戻シノ訴ヲ爲ス者ハ明治六年第三百六拾貳號公布出訴期限第二條ニ照シ准不准ヲ決シ可然乎

但シ第一條ノ場合ニ於テ地券書替ノ訴訟ヲナシ第二條ノ場合ニ於テ地所不渡ノ訴訟ヲ爲スアリト雖トモ何レモ先ツ其所有者タルノ確据ヲ前ニ置カサレハ裁判ノ結ヲ成ス能ハサルニ在ルヲ唯々其買得ノ證書而已ヲ以テシテ之レカ確据タルヘキ地券狀ヲ書替ンヲ裁判ヲ得ント欲シ及ヒ地所ヲ受取ント訴フルカ如キ到底無着ノ裁判ニ歸スヘキヲ以テ採用及ハスシテ可然乎猶又此ノ如キハ行政上ノ裁判上ノ裁判ニ屬スルモノト心得可然候哉

第三條 同上證文中年限相立チ元金返濟致サハ地所差戻スヘキ旨及ヒ年限相立チ幾年過タルトモ元金返濟致サハ無異議地所差戻ス可キ旨ノ約定タルカ如キハ文言中ニ代金受取り

六年第拾八號
布告八(二千
百十七)ニ掲
出ス

正ニ地所賣渡ス云々トシテ其賣渡等ノ字句之レアルトモ約定ノ期限又ハ期限後元金ト原地ト交換ノ本約定タルモノニシテ買主^{即チ}ニ於テハ元金返濟ヲ受クレハ原地ノ儘差戻ス可クシテ未タ其買得ノ地所ヲ自己ニ變更シ^{如ク田成トシ田ヲ屋敷或ハ之レヲ賣却讓與等ヲ行フヲ得サルモノニ在ルヲ以テ視レハ純乎買主ニ所有ノ權ノ完備シタル者ニ非ス然レハ文言中ニ賣渡等ノ字句アルモ證スル所唯々貸借金ノ質地ト看做サ、ルヲ得サルヲ覺ユ果シテ然ラハ右ノ如キハ年季賣買ノ名稱ヲ用ヒス之レヲ無年季質地ナルモノ、類似トシテ而シテ其實際ニ就キテ質入又ハ書入ノ區別ヲ審究シ明治六年第拾八號公布ニ照準シ取捨裁判及ヒ可然乎}

但シ本文ノ如クナル時ハ證文中期限元金返シ地所差戻スノ明文之レ無クトモ既ニ年季ノ定メ之レアルモノハ同シク明治六年第拾八號公布第一二三條ニ照シ貸借ヲ行フタルモノト看做シ可然乎

第四條 前條々其實際ヲ問ハス總テ年限賣買ト看做ス可キニ於テハ假令ハ丁卯十二月以前ノ貸借ニシテ質地差入ル、等ノ明文之レアル證文ヲ明治六年第拾八號公布ニ照シ書改メノ期限ヲ失スルニ因リ尋常貸金催促ノ訴ヲナスモノアランニハ證文上質地ヲ差入レタル貸借ナリト認メ丁卯以前ノ貸借ナリト雖トモ採上ケ裁判及ハサル可カラズ而ルニ被告ニ於テハ証文上質地差入ル等ノ文字之レアルモ唯々該地ヲ書入ニナシタルマテニテ貢租諸役モ皆地主<sup>即チ被
告人</sup>ニ於テ勤メ來ルニヨリ質地ニアラスト答辨ス依テ役場ノ帳簿ヲ查スルニ會テ原告ノ質地ニ取り置キタルノ證據視ル可キ無シ然ル時ハ地所書入ノ貸借ト看做シ

丁卯以前ノ貸金ナルヲ以テ採上ケサルノ裁判ニ出テサル可ガラス斯ノ如キモ尙實際ニ就カスシテ證文面ニ依リ質地ヨリ起ル貸金ノ裁判致ス可キモノニ可有之乎
右迅速御指揮被成下度此段相伺候也

乙號

地所賣買ノ儀ニ付伺 十年一月十六日

熊谷裁判所

第一條 爰ニ地所賣買約束ヲ爲スニ追テ地券書替相渡スヘキ云々記載戸長奥印ノ證書ヲ授受シ未タ地券書換ノ手續ヲナサハル内賣主他ノ負債ノ爲メ身代限ノ處分ヲ受クル時ハ明治八年第百六號公布ニ依リ買主ニ其地所々有ノ權無之ニ付其地所糶賣ノ上價主一同金高ニ應シ分配金ヲ受取り若シ買得スル所ノ金額ニ不足相立時ハ該證書ニ加印スル保證人ヘモ辨償申付可然哉將タ地所賣買ヲ保證スルモノニ付右金返濟ノ義務ヲ負擔セサル者ニ可有之乎

第二條 前條ノ證書ヲ所持スルモノ身代限揭示滿期後ニ至リ其地代金取戻ヲ訴出ル時ハ出訴期限第二條ニ依リ處分致シ可然哉

右至急御指揮有之度此段奉伺候也

丙號

太政官へ上申案

別紙三重縣及熊谷裁判所伺ノ趣ヲ案スルニ賣買ノ契約既ニ成リタルモノナレハ買主ハ其賣

八年第百六號
公布八十二年
第百六號布
告(二千百二
十)ヲ以テ廢

主ニ對シ地券ノ書換ヲ要求スルノ權アルコトハ固ヨリ不俟言ナリ八年第百六號ノ公布ヲ熟閱スルニ末段ノ結局規則ノ通地券書換可申請事ト明示セラレタルモノナレハ勿論賣買約束ノ成リタル上ハ其地券書換ノ請求ヲ爲シ得ヘキコトハ疑ヲ容ル、可カラサルナリ因テ左ノ通指令イタシ度存候得共爲念一應相伺候也

明治十年三月八日

司法卿大木喬任

右大臣岩倉具視殿

丁號

指令

三重縣裁判所

第一條 未タ地券ノ書換ナク共買主ニ對シ既ニ買得ノ証アルモノニ付固ヨリ受理スヘキ事

第二條 伺之通り

但書既ニ買得ルノ証アルヲ以テ地券書換又ハ地所受取ノ訴ヲナス者ハ受理スヘシ固ヨリ行政裁判ノ限ニ無之事

第三條 伺之通り

但書其實賣買ナレハ年季ノ定メ之アルモ賣買ノ裁判可致事

第四條 其實際ニ付處分可致事

戊號

指令

第四部 第貳編 第貳章 第四款

熊谷裁判所

伺ノ趣地所賣買ノ約束既ニ成リ戸長奥印ノ證書ヲ授受スル上ハ買得ノ證尤モ著明ナルモノニ付賣主身代限糶賣ノ部中ニ入ル、コヲ得ス尤モ詐欺不良ノ所爲ニ出タル賣買ハ此限ニ非ラス

但本條ノ通りニ付第一條末段第二條ノ差支ハ無之筈ニ候事

○第四款 訴答文例

第二百七十二 明治六年七月十七日第貳百四拾七號布告

今般訴答文例並附錄別冊ノ通被相定候ニ付來ル九月一日ヨリ原被告人共訴答文式都テ此例ニ照準可致此旨相達候事

別冊

訴答文例

第一卷 原告人ノ訴狀

第一章 原告人ヨリ被告人住所身分ノ書付ヲ取ル事

第一條 訴訟ヲ爲サントスル原告人ハ其管轄ノ村役場ノ添翰ヲ以テ被告人ノ現住管轄ノ村役場ニ至リ被告人ノ身分ノ書付ヲ取タル後訴狀ヲ作ルヘシ若シ住所氏名身分明瞭ナラハ其書付ヲ取ルニ及ハス
住所トハ某縣管下某國某郡某町住居又ハ寄留ト記スノ類身分トハ官名役名華族士族神職

六年第百六拾
貳號布告(七
百八十九)及
十年丁第廿
七號(二千
百)參看

僭尼百姓何職何商賣何渡世ト記スノ類

若シ一戸ノ本主ニ非スシテ子弟又ハ厄介ノ類ハ某ノ子弟又ハ某厄介ト記スヘシ

第二條 原告人被告人ト管轄ヲ異ニシ道路隔絶ナラハ原告人我管轄ノ村役場ニ願ヒ役場ノ

文通ヲ以テ被告人ノ氏名住所身分ノ書付ヲ取ルモ亦妨ケ無シトス但シ役場文通ノ入費ハ原告人ヨリ償フ可シ

但此章原告外國人ナル時ハ本人名前本國職分及寄留ノ處ヲ訴狀中ニ記載シ次ニ被告ノ名前職分住所等委細記載ス可シ

第二章 代書人ヲ用フル事 七年第七拾五號八年第拾三號布告ヲ以テ代書人差添人ヲ廢シ右抵觸ノ廢止ニ付本文代書人ニ關スルモノハ悉皆除之

第三條

第四條

第五條

第三章 訴狀ノ定則ノ事

第六條 訴狀ヲ作ルニハ左ノ定則ニ循フ可シ

第一 訴狀ハ簡明確實ニシテ憑據ト爲ス可キ事件ヲ掲ケ文飾冗長ナラサルコトニ注意シ自己ノ想像ヲ以テ踪跡ナキ事件ヲ述ルコトヲ得ス

第二 一切ノ訴狀ハ首ニ原被告人ノ氏名ヲ記シ住所身分ヲ肩書ニシ其末ニ年月日ヲ記シ原告人ト代書人トノ氏名連印スヘシ 附錄第一號ヲ同上ニ付代書人見合ス可シ(連印ヲ要セス)
但外國人ノ爲ニハ第一章但シ書ヲ見ル可シ

第三 訴狀ノ末ニ署スル氏名ハ其本人自署ス可シ若シ自署スルヲ能ハサル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記スヘシ

第四 訴狀ハ十六行ニシテ一行十五字詰ニ認メ正副二通ヲ具ス可シ
但外國人ノ訴狀ハ銘々英佛語ヲ以認ルヲ得ヘシ其日本翻譯ハ裁判所ニ於テ正副二通ヲ認メ其手数料ヲ取立ツヘシ

第五 被告人ノ住所呼出ヲ受ク可キ裁判所ノ八里ノ距離外ニ在ル時ハ其里數ヲ被告人ノ氏名ノ左側ニ記載ス可シ若シ八里以内ナル時ハ其里數ヲ記載スルニ及ハス

第四章 訴狀ノ書式ノ事

第七條 貸附米金等淹滞ノ訴狀

貸附米金等淹滞ノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ米金元利ノ計算ト貸渡シタル年月日トヲ標記シ次ニ證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ期ヲ過キテ返濟セサル事情ヲ書ス可シ
附録第二號ヲ田島ヲ貸渡シタル小作米金又ハ物品ノ損料金又ハ諸種ノ立替金又ハ召抱人等ノ引負金又ハ職人等ノ前貸米金又ハ貸地貸家等ヲ受取ラントスルノ訴狀モ亦本條ニ照スヘシ
但以下十九條迄原告外國人ナル時ハ其訴訟ノ趣意並願意ヲ簡明ニ記載スヘシ
但附録第拾八號ヲ見合ヌ可シ

第八條 預ケ米金淹滞ノ訴狀

預ケ米金淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ米金ノ員數ト預ケタル年月日トヲ標記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約シテ返濟セサル事情ヲ書ス可シ

十年丁第廿七號達(二千一百)參看

借地等ノ敷金又ハ妻及ヒ養子女等ノ持參金又ハ實家若クハ親族等ノ仕送り金ヲ受取ントスルノ訴狀モ亦本條ニ照ス可シ

第九條 賣掛代金淹滞ノ訴狀

賣掛代金淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ金高ヲ標記シ次ニ其帳面總計ノ高ヲ出シ之ニ被告人ノ證印アルヲ記入シ次ニ違約淹滞シタル事情ヲ書ス可シ
附録第三號ヲ賣掛代金又ハ旅籠代金賄代金等通帳附込帳等ニ被告人ノ證印ナキ時ハ原告人ノ證據ト爲スヲ得ス

第十條 手附金買賣違約ノ訴狀

諸物品ヲ買ヒ手附金ヲ渡シ約定期限内ニ殘金ヲ渡サントスル時ニ至リ被告人違約シテ諸物品ヲ渡サハルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ買附タル物品ノ總高次ニ手附金ヲ渡シタル年月日及ヒ殘金ヲ渡シ物品ヲ受取可キ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ
附録第四號ヲ

諸物品ヲ賣リ手附金ヲ受取リ約定期限ニ至リ殘金ヲ受取ル可キ時ニ被告人違約シテ殘金ヲ渡サハルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ手附金ヲ受取リタル年月日及ヒ殘金ヲ受取リ物品ヲ渡ス可キ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ
附録第五號ヲ見合ヌ可シ

第十一條 受負料淹滞ノ訴狀

諸職業受負淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ受負ヒタル年月日ト受負ノ金高ト既ニ受取リタ

ル金數ト未タ受取ラサル金數トヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫職シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ

第十二條 奉公人違約ノ訴狀

奉公人ニ年期ヲ約シ前金ヲ渡シ其年期未滿内ニ其家ヲ出テ還ラサレ者ヲ取返サントスルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ抱入レタル年月日ト約定ノ年期ト前渡シノ金數トヲ標記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫職シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ
職業傳習ノ弟子職業練熟ノ後ハ禮奉公ノ年期ヲ約シ年期未滿内ニ其家ヲ出テ還ラサル者ヲ取戻サントスルノ訴狀モ亦本條ニ照ス可シ
奉公人又ハ弟子奉公ノ者等其主人師匠ヨリ受取ル可キ給米金淹滞ノ訴狀モ亦本條ニ照ス可シ

第十三條 專賣免許ヲ犯シタルノ訴狀

專賣ノ免許ヲ得タル者ヨリ他ノ摸倣密賣スル者ヲ差留メントスルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ專賣免許ヲ得タル年月日ト免許ヲ受タル役所ノ名ト專賣免許ノ年限トヲ標記シ次ニ免許ノ證印又ハ證書ヲ寫職シ次ニ其密賣ノ事情ヲ書ス可シ
諸商工專賣ノ免許ナクシテ株式ト稱スル者ハ自己ニ妨アルヲ以テ他人ノ商業ヲ差留ル事ヲ訴ルコトヲ得ス

第十四條 商社中取引ノ訴狀

商社中甲ノ商人ヨリ乙ノ商人ニ對シ各種ノ取引ノ米金又ハ物品ノ類ニテ乘合商賣ト稱ス

十年四月第廿七號達(三千百)參看

ル者モ證書確實ナル者ハ之ヲ訴ルコトヲ得可シ其訴狀ハ取引ノ摸倣ニ付キ各種ノ本條ニ照ス可シ

先ニ開キシ商社ニ後ニ開カントスル商社ノ妨クルコトアルヲ以テ之ヲ訴ルコトヲ得ス但シ專賣免許ヲ犯スコトヲ得サルノ法ト相抵觸スルコトナカル可シ第十三條ヲ見合ス可シ

第十五條 夫妻離別ノ訴狀

夫妻離別ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ夫妻ノ氏名生年及ヒ婚姻ノ年月日ヲ標記シ次ニ其戸長役場ヘ届置キタル戸籍人別ヲ寫職シ次ニ離別ヲ爲ス可キ原由ヲ書ス可シ

原告人夫ナレハ其父母若シ父母在ラサレハ祖父母祖父母在ラサレハ尊族ノ親尊族ノ親在ラサレハ同等ノ親同等ノ親在ラサレハ身族ノ親身族ノ親在ラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ與書連印ヲ爲ス可シ附録第六號ヲ見合ス可シ

原告人妻ナルモ前條ニ照シテ其父母親族等ヨリ訴フ可シ若シ事危急ニ出テ親族等ニ告ルニ暇ナキ時ハ自ら訴フ事ヲ得可シ

第十六條 養子女ヲ離別スル訴狀

養子女ヲ別離スルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ養父母及ヒ養子女ノ生年ト其養子女トナシタル年月日ヲ標記シ次ニ原被雙方ノ戸籍人別ヲ寫職シ次ニ離別ス可キ原由ヲ書シ原告人親族在ラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ與書連印ヲ爲ス可シ

本生父母ヨリ養子女ヲ取戻サントスルノ訴狀モ本條ニ照ス可シ若シ本生父母在ラサレハ其親族ヨリ訴ルコトヲ得ヘシ

養子女ヨリ養父母ヲ相手取リテ自ラ離別ヲ請フ訴ヲ爲スヲ得ス

第十七條 家督相續ノ訴狀

家督相續ヲ争フ訴狀モ住所氏名ノ次ニ亡父母ハ死亡ノ年月日生父母ハ其生年ト原被告人
生年トヲ標記シ次ニ其原被雙方ノ戶籍人別ト讓狀遺狀等ノ證書アレハ其全文ヲ寫載シ次
ニ自己相續ス可キ條理ト被告人相續ス可キ條理ナキヲ書ス可シ附録第六號ヲ
見合ス可シ

第十八條 田畑山林等賣買違約ノ訴狀

田畑山林屋敷建家等ヲ買ヒ之ヲ受取ラントスルノ訴狀及ヒ貸地貸家ヲ取戻サントスルノ
訴狀モ第十條ノ第一項ニ照ス可シ附録第六號ヲ
見合ス可シ

田畑山林屋敷建家等ヲ賣リ之ヲ引渡シテ其代價受取ントスルノ訴狀モ第十條ノ第二項ニ
照ス可シ

第十九條 經界ヲ争フノ訴狀

國郡鄉村山川田宅等ノ分界ヲ争フ訴狀モ住所氏名ノ次ニ其舊記繪圖ノ枚數ヲ標記シ次ニ
被告人ノ非理ヲ書ス可シ
舊記繪圖ノ寫ハ別冊ト爲シ目錄ヲ附シ各番號ヲ朱記ス可シ
繪圖ハ色ヲ以テ區別シ原告ノ區域ハ淺紅色ヲ用ヒ被告ノ區域ハ黃色ヲ用ヒ争フ所ノ區域
ハ着色ヲ用ヒス其他ノ經界ハ別色ヲ用ユ可シ附録第七號ヲ
見合ス可シ
但第七條但シ書ヲ見ル可シ

第二十條 控告ノ訴狀

曲庇壓制ノ件
ハ刑法ニ依リ
治ル

原被告人預審又ハ終審ノ裁判言渡ヲ受ケ其裁決ニ服セスシテ之ヲ上等ノ裁判所ニ控告セ
ントスルノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ訴訟ノ題目ト其年月日ト裁判所ニ呼出サレタル度數其
年月日ト訟庭ニ臨ミタル裁判役ノ氏名ヲ知ルヲ得可キニ於テハ之ヲ記載シ次ニ其裁判言
渡書ノ寫ト裁決ニ服セサルノ旨趣トヲ書シ且ツ前訴狀ノ寫ヲ別冊ト爲シ訴出可シ但シ控
告人ノ住所ト控告ヲ爲ス裁判所トノ距離八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ得ルノ外裁決ノ言渡ヲ受
タル日ヨリ二ヶ月ノ期限ヲ過ル時ハ控告ヲ爲スヲ得ス十五年第廿一號布告ニ
依リ三月ヲ(二月)ト改ム
預審又ハ終審ノ裁判以前ノ場合ニ於テ其裁判役ノ曲庇壓制等アルヲ以テ原被告人之ヲ上
等ノ裁判所ニ申告スル者モ亦本條ニ照ス可シ

第五章 一冊ノ訴狀ハ一事件ニ止ル可キ事

第二十一條 原被告人共人員多少ニ拘ラヌ訴狀ハ一事ヲ一冊ニ書スルニ限ル可シ又原告人
一名ニシテ全時ニ數件ヲ訴フルモ訴狀ヲ各冊ニ作ル可シ

第六章 一冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合スヲ得ル事

第二十二條 貸借二事以上ニシテ原被告人共別人ニ非レハ一冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合
スヲ得可シ

第七章 原告人連名ノ訴狀ノ事

第二十三條 債主連名ノ證文ヲ以テ米金等ヲ貸附タル訴狀ハ連名ヲ以テ訴フ可シ若シ債主
連名三人ナルヲ一人ニシテ訴フル時ハ他ノ二人ヨリ依頼ノ證書ヲ以テ訴フ可シ附録第八
號ヲ見合
ス可シ

第二十四條 債主二人以上ニシテ管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ訴ルモ乙ノ管轄ニ訴ルモ其便宜ニ從フ可シ

第八章 連名ノ被告人ヲ訴フル事

第二十五條 負債主連名ノ借用證文ヲ以テ貸渡シタル米金等ノ訴狀ハ連名ノ人數ヲ盡ク相手取ル可シ

第二十六條 負債主連名中若シ失踪死亡等ニテ相續人ナキ者アラハ連名ノ末ニ其人名ヲ記シ年月日失踪死亡等ノ事ヲ其者ノ管轄戶長某ヨリ承ルト附載スヘシ附録第九號ヲ見合ス可シ

第二十七條 負債主ノ連名中管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ於テ審判スルヲ願フモ乙ノ管轄ニ於テスルヲ願フモ原告人ノ情願ニ任ス可シ

第九章 讓證文ヲ以テ訴ル事

第二十八條 九年第九拾九號
布告ニ依リ消ル

第二十九條 父母祖父母等ノ貸附タル米金等ハ其家ノ相續ヲ爲シタル者ニ非レハ其子孫ニシテ貸附證文ヲ所持スト雖モ父母祖父母等ノ讓渡シタル證書ナキ時ハ之ヲ訴ルコトヲ得ス但外國人ハ其本人ノ國法ニ隨ヒ正シキ權ヲ得可シ同上但書ハ

第十章 代言人ノ事 九年第九拾八號
布告ニ依リ代官ノ條ヲ廢止ス以下皆同シ

第三十條

第三十一條

第三十二條

十七年丁第
廿七號(一)
千七百參拾

第二卷 被告人ノ答書

第一章 答書ノ定則ノ事

第三十三條 答書ヲ作ルニハ左ノ定則ニ循フ可シ

第一 被告人裁判所ノ呼出狀ト共ニ原告人ノ訴狀ヲ受取ル時原告人ノ陳述スル所條理アラハ速ニ熟議シ原告人之ヲ許諾セハ解訟ヲ請フ事ヲ得ヘシ其場合ニ於テハ代書人ヲシテ熟議解訟ノ答書ヲ作ラシメ之ヲ裁判所ニ呈ス可シ第四十七條及四十七年第七拾五號人ノ件ハ消滅ス

第二 原告人ノ述ル所非理不實ニシテ辨解ス可キ確證アラハ其書類ノ全文ヲ寫載シ次ニ非理不實ノ事ヲ書ス可シ

第三 答書ノ首ニ被告人ノ氏名ヲ記ス住所身分ヲ肩書ニシ答書ノ末ニ年月日ヲ記シ被告人ト代書人トノ氏名連印アル可シ附録第十三號(上)見合ス可シ

第四 答書ノ末ニ署スル氏名ハ其本人ノ自筆ヲ用ユ可シ若シ本人自署スルヲ能ハサル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記ス可シ

第五 答書ハ十六行ニシテ一行十五字詰ニ認メ正副二通ヲ具ス可シ

第二章 代書人ヲ用フル事同上

第三十四條

第三章 代言人ノ事 九年第九拾八號
布告ニ依リ本章廢止ス

第三十五條

第四部 第貳編 第貳章 第四款

第三十六條

第三十七條

第四章 原告人ノ返リ證文ヲ所有シタル答書ノ事

第三十八條 負債主米金等ヲ返濟スルニ債主原ノ證書ヲ還附セサルヲ以テ二重ノ催促ヲナス訴訟ハ被告人其答書ニ返リ證文返證文ハ債主ヨリ原ノ證書ヲ還附セスシテ寫載シテ次ニ原告人二重ノ催促ヲ爲シタル旨ヲ書ス可シ

第三十九條 原告人米金等ヲ受取リタルノミノ證書ニシテ貸附ノ米金ヲ受取リタル確證ノ文字ナク又ハ他ノ憑據トス可キ證跡ナキ時ハ其米金ヲ受取タルノミノ證書ヲ以テ返リ證文ト看做ス可キ得ス

第五章 原告人ヨリ返濟延期ノ約ヲ破リタル答書ノ事

第四十條 借用ノ米金等ヲ返濟ス可キ期限ニ至リ負債主ヨリ債主ニ熟議シテ返濟延期ノ約ヲ結ヒ其證書ニ押印ヲ爲シタル債主ヨリ其約ヲ破リ本證文ニ據リ訴ヘタル答書ハ對談一札對談一札トハ返濟延期ノ證書ヲ云フアルコトヲ記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ原告人ノ約ヲ破リタルコトヲ書ス可シ

第四十一條 負債主ヨリ返濟延期ノ約ヲ破リタル事件ヨリ起リ債主本證文ニ據リ訴出タル原由アル時ハ負債主ナル者己レヨリ約ヲ破リタル返濟延期ノ證書ヲ以テ原告人破約ノ證トナスコトヲ得ス

第六章 原告人證書ヲ偽造シタル答書ノ事

第四十二條 被告人ノ證書ヲ原告人偽造シタル答書ハ其偽造ヲ證スル爲ニ管轄村ノ役場ニ届ケ置タル年月日ノ人別帳ノ寫ヲ記載シ次ニ此人別帳ノ印ト證書ノ印ト相違シタル旨ヲ書ス可シ

第七章 經界ヲ爭フ答書ノ事

第四十三條 國郡鄉村山川田宅等ノ分界ヲ爭フ答書ノ方法ハ第十九條ヲ照ス可シ

第八章 既ニ訴ヘラレタル事件ニ未タ訴ヘサル事件ヲ接續スル事

第四十四條 負債主米金ヲ返濟ス可キ期限ヲ過キテ返濟セサルヲ訴ヘラレタルニ別ニ其債主ヨリ受取ル可キ米金アリテ其受取可キ期限モ亦タ過キ未タ訴ヘスト雖モ雙方均シク返濟ノ約期ヲ破リタルヲ以テ兩件ヲ接續シ差引ノ計算ヲ爲サントスル答書ハ負債主ヨリ其別ニ受取ル可キ米金ノ證書ヲ寫載シ次ニ差引計算ヲ爲スノ旨ヲ書ス可シ

第四十五條 負債主甲某債主乙某ヨリ借用シタル米金ヲ返濟スヘキ期限ヲ過キテ訴ヘラレタルニ答ルニ當リ甲某其借用シタル米金ハ更ニ丙某ニ貸附ケ其期限ヲ過キ返濟セサルヲ以テ既ニ訴ヘラレタル乙某ノ事件ト未タ訴ヘサル丙某ノ事件トヲ接續シテ丙某ノ返濟ヲ爲ス可キ米金ヲ以テ乙某ニ返濟センコトヲ答ルヲ許サズ何トナレハ乙ノ貸ス所ノ者甲ニシテ丙ニ非ス丙ノ借ル所ノ者ハ甲ニシテ乙ニ非ラサルヲ以テナリ

第九章 對決前熟議解訟ヲ爲シタル答書ノ事

第四十六條 被告人訴狀ニ對シ辨解スルコト能ハサル者ハ速ニ原告人ト熟議シ對決前ニ解訟ヲ爲シタル答書ハ原告人承諾ノ與書連印ヲ爲サシム可シ附錄第拾四號見合ス可シ

第四十七條 前條ノ場合ニテ貸借滯滞ノ訴ニ起ル解訟ノ答書ハ債ノ既濟又ハ未濟ト雖モ更ニ延期ノ約ヲ結ヒタル等ハ前條ニ照ス可シ各種違約ノ訴訟ハ原被雙方ノ熟和ニ至リ又ハ更ニ改定ノ條約ヲ立テタル等モ亦前條ニ照ス可シ

第十章 對決前返濟延期ノ約定ヲ爲シタル答書ノ事

第四十八條 原被告人對決審判前ニ被告人ヨリ負債ヲ返濟スルノ延期ヲ請ヒ原告人之ヲ承諾シ其審判ヲ仰カス延期ノ日ニ至リ完ク返濟スルノ後解訟ノ證書ヲ呈セントスル者ハ其答書ニ延期ノ旨趣ヲ書シテ原告人承諾ノ與書連印ヲ爲サシム可シ附錄第拾五號

第十一章 對決前親戚又ハ朋友ヨリ代價ノ延期ヲ約シテ解訟ヲ爲シタル答書ノ事

第四十九條 原被告人對決審判前ニ被告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告人ノ負債ヲ延期代價セシムコトヲ請ヒ原告人之ヲ承諾セハ熟議解訟ノ答書ニ其延期代價ノ旨趣ヲ書シ代價人及原告人ノ與書連印ヲ爲サシム可シ附錄第拾六號

第十二章 對決前親戚又ハ朋友ヨリ代價延期ノ約定ヲ爲シタル答書ノ事

第五十條 原被告人對決審判前ニ被告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告人ノ負債ヲ延期代價セシムコトヲ請ヒ原告人之ヲ承諾シテ其審判ヲ仰カス延期ノ日ニ至リ完ク返濟スルノ後解訟ノ證書ヲ呈セントスル者ハ其答書ニ延期代價ノ旨趣ヲ書シ代價人及原告人ノ與書連印ヲ爲サシム可シ附錄第拾七號

訴答文例附錄

第一號

訴狀表紙ノ式 美濃紙大半紙又ハ右寸法ニ同シキ紙ヲ用ニ可シ

年月日

某訴狀

住所

身分

氏名

某訴狀トハ假令ハ貸金ノ淹滞ヲ訴ルハ貸金催促ノ訴狀ト記シ流質地ノ爭訟ハ流質地引渡催促ノ訴狀ト記スノ類
訴狀ノ式

住所

身分

原告人 氏名

書式中等代書
人通印アリ七
年第七拾五號
布告ニ依リ除
キ又六年第三
百拾貳號布告
ヲ以テ死書ヲ
改正ス毎號皆
同シ

某訴

標記云々

右原告人氏名申上候私儀云々

年月日

某
裁判所長

氏名

被告人

住所

身分

氏

名

第二號

貸金催促ノ訴狀

住所

身分

氏

名

原告人

貸金催促ノ訴

住所

身分

氏

名

被告人

一元金何圓 年月日貸附

一利金何圓 一年又ハ一月幾分ノ利

合何圓

右證文ノ寫左ノ如シ

借用證文

一金何圓

右云々

貸主

名當

右原告人氏名申上候云々

年月日

借主

氏

名

證人

氏

名

住所

身分

氏

名

印

第四部 第貳編 第貳章 第四款

三百六十一

三百六十一

某
裁判所長
氏名

第三號

賣掛代金淹滞ノ訴狀

賣掛代金淹滞ノ訴

原告人
住所
身分
氏名

被告人
住所
身分
氏名

一金何圓

右賣掛帳ノ總計高ニ御坐候

但帳面ニ被告人ノ證印有之候

若賣掛帳ニ非スシテ證文ナレハ其證文全文ノ寫ヲ出ス可シ

右原告人氏名申上候云々

某
年 月 日
裁判所長
氏名 印

第四號

買附米引渡違約ノ訴狀

買附米引渡違約ノ訴

原告人
住所
身分
氏名

被告人
住所
身分
氏名

一米何石
年月日買取約定満此
度受取ル可キ石高

代金何圓
何圓換

内何圓年月日手付金トシテ渡滿

幾何圓年月日眼現米引替ニ渡ス可キ約定

右約定證書ノ寫左ノ如シ

證書云々

右原告人氏名申上候云々

某
年 月 日
裁判所長
氏名

氏名 印

第五號

賣附生絲代金引渡違約ノ訴狀

賣附生絲代金引渡違約ノ訴

原告人
被告人

住所
住所
身
身
氏分
氏分

名
名

一金何圓

年月日取ル可キ替ニ
元金何圓

但何斤ニ付何圓替

内何圓
年月日手附金

右約定證ノ寫左ノ如シ

證書云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

裁判所長

氏名

氏名印

第六號

妻離別ノ訴狀

妻離別ノ訴

原告人
被告人

住所
住所
身
身
氏分
氏分

名
名

夫氏名
當何歳

妻氏名
當何歳

某御役所ニ差出置候年月日ノ戶籍人別帳ノ寫左ノ如シ

人別帳云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

前書申上候處相違無御座候

住所

氏名印

身分

原告人ノ祖
父母父母等

年月日

氏名印

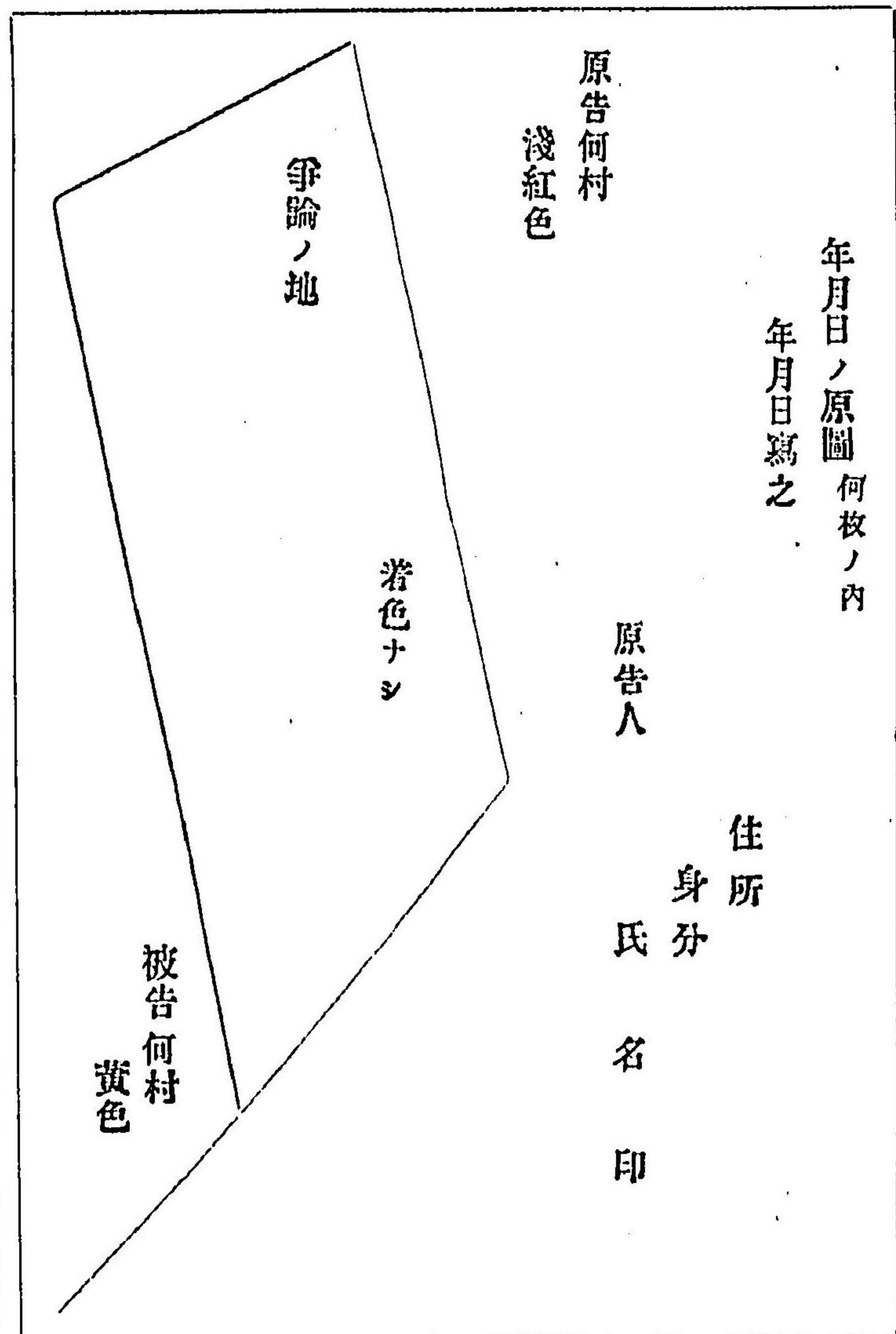
裁判所長
氏名

第四部 第貳編 第貳章 第四款

第七號

經界ヲ爭フ繪圖ノ式

年月日ノ原圖 何枚ノ内
年月日寫之



住所
身分
氏名
印

原告何村

淺紅色

着色ナシ

爭論ノ地

被告何村
黃色

第八號

原告人三人以上ナルヲ一人ニ任ヌル訴狀

某ノ訴

住所	身分	氏名	印
原告人			
住所	身分	氏名	印
被告人			

標記云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

氏名印

前書ノ儀原告私共連名ニテ御願可申上管ニ御座候處病氣云々ニテ難罷出ニ付
何ノ誰エ總代和頼候然ル上ハ何之誰ヨリ申上候事柄並ニ御受仕候事柄共後日
ニ至リ私共ヨリ異儀申上問敷候爲後證與印仕候

住所	身分	氏名	印
原告人			
住所	身分	氏名	印
被告人			

年月日

第四部 第貳編 第貳章 第四款

第九號

某
裁判所長
氏名

被告人連名中脱走又ハ病死人アルノ訴狀

被告人	住所	原告人	住所
某ノ訴	身分	元住所	身分
被告人	身分	被告人	身分
被告人	住所	被告人	住所
被告人	身分	被告人	身分
被告人	住所	被告人	住所
被告人	身分	被告人	身分
被告人	住所	被告人	住所
被告人	身分	被告人	身分

右何ノ誰ハ年月日脱走致シ候段何村役人
何之誰ヨリ承知仕候

右何ノ誰ハ年月日死亡致シ候段何村役人
何之誰ヨリ承知仕候

▲二二二

右原告人氏名申上候云々

年月日

某
裁判所長
氏名

氏名 印

第十號

讓證文ヲ以テ催促スル訴狀
九年第九拾九號
布告ニ依リ消滅

第十一號

代言人ヲ頼ム訴狀上同

第十二號

一時假リノ代言人ヲ出ス證書上同

第十三號

證書表紙ノ式
用紙寸法第壹號
訴訟ノ法ノ如シ

年月日

第四部 第貳編 第貳章 第四款

某ノ答書

住所
身
氏分
名

答書ノ式

住所
身
氏分
名
被告人

某ノ答

右住所身分何之誰何々之儀訴出候付今何日御呼出之御狀拜見仕御答申上候
私儀云々
證據ノ書類アラハ其寫ヲ記載スヘシ
右之通御坐候

年月日

氏名 印

某
裁判所長

氏名

第十四號

對決前熟議解訟ノ答書

某ノ訴濟口ノ答

住所
身
氏分
名
被告人

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出ノ御狀拜見仕原告人ニ熟
談濟方仕候趣申上候
私儀云々

年月日

住所
身
氏分
名 印
代書人

前書被告人何之誰ヨリ申上候通熟談濟方仕候付此上對決ノ御裁斷不奉願候

年月日

住所
身
氏分
名 印
原告人

某
裁判所長

氏名

第十五號

對決前返濟延期ノ約定ヲ爲シタル答書

住所
身分
氏名

某ノ訴濟口日延ノ答

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出ノ御狀拜見仕原告人エ熟談之上濟方日延約定仕候段左之通御坐候

私儀云々

年月日

氏名 印

前書被告人何之誰申上候通熟談之上濟方日延約定仕候付來何年月何日迄御裁斷御猶豫奉願候

住所

身分
氏名 印

原告人

年月日

某
裁判所長

氏名

第十六號

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル解訟ノ答書

住所
身分
氏名

某ノ訴何之誰ヨリ日延代償ニテ濟口之答

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出之御狀拜見仕原告人へ熟談之上親族中何之誰ヨリ日延代償約定仕候段左之通御座候

私儀云々

年月日

住所
身分
氏名 印

代書人

住所

年月日

代償人

身分
氏名 印

前書被告人何之誰申上候通私共承諾仕候付此上對決ノ御裁斷不奉願候

住所

年月日

原告人

身分
氏名 印

其
裁判所長
氏名

第十七號

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル答書

住所
身分
氏名
被告人名

某ノ訴何之誰代償濟口日延ノ答
右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出之御狀拜見仕原告人エ熟
談之上親族中何之誰ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候段左之通御座候
私儀云々

年月日
氏名 印
前書被告八何之誰申上候通私共ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候段相違無御座
候
住所
身分
氏名 印
代償人名

年月日
前書被告八何之誰申上候通熟談之上何之誰ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候付
來何年月何日迄御裁判御猶豫奉願候

其
年月日
原告人
住所
身分
氏名 印
裁判所長
氏名

第十八號

外國原告人訴狀ノ式

本國住所
原告人
住所
身分
氏名
被告人名

右原告人氏名ヨリ右被告人氏名ニ對シ當御裁判所へ左之通訴訟申上候
第一云々
第二云々
第三云々
依之原告ヨリ御裁判所へ云々被成下度願上候事

但シ訴訟ノ根源事實ノ大略ヲ明白ニ認ム
ヘシ若其事實混交シテ長文ナル時ハ第一
第二第三條ト之ヲ區別スヘシ
但シ何等ノ處置ハ原告人ノ所願ニ候ヤ金

子ノ拂カ其金高何程カ右判然ト認メ其他公正ノ御裁判ヲ願フ趣ヲ認ムヘシ

日本地名
年月日

原告人 氏名 花押

若シ原告人ノ代言者アル時ハ左ノ如ク加判スヘシ

代言者 氏名 花押

裁判所長

氏名

第二百七十三 明治六年十月十日第三百三十九號布告

本年七月第貳百四拾七號布告訴答文例ハ詮議ノ次第モ有之當分御國人ノミ遵守候儀ト可相心得此旨布告候事

附錄 明治十年十二月三日司法省丁第八拾四號大審院諸へ達

控訴者訴狀數通差出方ノ儀長崎上等裁判所ヨリ甲號ノ通伺出候ニ付乙號ヲ以テ太政官へ上申シ御裁令ノ上丙號ノ通及指令候條此段爲心得相達候事

甲號 長崎上等裁判所長判事伊丹重賢伺 十年九月十一日

控訴者訴狀正副兩通ヲ差出ヌ成規ニ有之動モスレハ被告數名ニシテ該時居住各所ニ相成違ノ數十里ヲ相隔候者間々有之右副書一冊ヲ以テ數人へ答辨等申付候ヲハ不都

合不少是カ爲メ自然事務遷延人民ノ難澁渺ナカラス以來右様相手方數員ニツ其内旅行又ハ隔地へ散在スル者アル時ハ上等裁判所於テ直ニ原告人へ申談時宜ニ應シ數通差出サセ候テ可然哉此段上申仰御指揮候也

乙號 太政官へ上申 十年十月二十九日

長崎上等裁判所伺控訴人訴狀ノ儀正副二通トハ訴狀進呈ノ常式ニシテ該伺ニ謂ヘル如ク相手方數名或ハ旅行或ハ遠地隔絶ノ場合於テ原告人へ申談シ適宜ニ數通差出サシムルハ差支無之儀ト思考候得共訴答文例第六條第四項ニ明文アルヲ以テ一應相伺候間急速何分ノ御裁令被下度候也

丙號 指令 十年十一月三十日

伺之通

○第五款 負債者失踪後ノ訴訟

第二百七十四 明治八年一月廿日第六號布告

民法裁判上負債者失踪後ノ訴訟ハ失踪後三十六ヶ月ノ時間ハ採上ケサル成例ニ有之候處本年三月一日ヨリ以後ハ左之通相改メ候條此旨布告候事

第一條 債主定期期限未滿内ニ負債者ノ失踪ヲ知ル時ハ定期滿期ニ至リ直ニ裁判所へ訴出ツ可キ事

第二條 債主未タ負債者ノ失踪ヲ知ラス定期滿期又ハ出訴期限將ニ盡ントスルヲ以テ裁判

所へ出訴シ裁判所ノ與書ヲ以テ負債者ニ掛合始テ其失踪ノ事ヲ知ル時ハ右與書訴狀ヲ再呈シ其旨届ケ出ツヘキ事

第三條 前條々ノ場合裁判所ニ於テハ一應訴狀採上ケ直ニ失踪者所管ノ戸長ヘ申付失踪ノ年月日ヲ訊明シタル上債主差出シタル証書ニ負債者何年何月何日家出ノ末行簡相分ラサルニ付還テ本人見當ルカ又ハ三十六ヶ月ノ滿月後跡相續ヲ爲ス可キ者ニ掛リ此裏書証書ヲ以テ再訴致スヘキ旨ヲ記載シ訴狀下戻ス可キ事

第四條 債主於テ前條ノ裏書証書ヲ受取置キタル上ハ本人見當リ又ハ搜索三十六ヶ月ノ時限ハ明治六年^{十一月}第三百六拾貳號布告出訴期限ノ限内ニハ加算致サ、ル事

○第六款 定約期限未滿ノ負債ニ對スル出訴

第一千七百七十五 明治六年七月十七日第貳百五拾貳號布告

負債者身代限ニ遇フ節其者ヘ對シ貸金穀其他義務ヲ得可キ者定約期限未滿内ノ分處置振左之通被定候條此旨相違候事

第一條

貸金穀又ハ義務ヲ得可キ者定約期限未滿内ニハ訴出ルコトヲ許サ、ル規則ナレモ其負債者又ハ義務ヲ行フヘキ者右期限未滿ニ身代限ニ遇フ時ハ訴出ルコトヲ得ヘシ

第二條

定約期限未滿内ニ訴出ル者ハ滿期後訴出ル者ト同一ノ權利ヲ有シ身代限財產糶賣金ノ分配

ヲ受ルコトヲ得ヘシ

第三條

請人証人等連印ニテ本人返濟相滯ルニ於テハ引受返濟可致ノ明文之レアル証書ヲ取置タル者ハ本人身代限財產糶賣金ノ分配ヲ受ケ尙ホ不足アラハ滿期ノ時ニ至請人証人ニ掛リ之ヲ訴ルコトヲ得ヘシ

第四條

身代限ニ遇フ者期限未滿内ノ者ニハ滿期ノ時ニ至リ返濟セント欲スルトキハ別段請人ヲ立請人ヨリ動不動産ヲ引當又ハ質物ト爲シ違變ナキヲ求ルヲ必要トス

第五條

負債者滿期ヲ保スル爲メ改メテ請人ヲ立請人ヨリ動不動産ヲ引當又ハ質物ト爲シ違變ナキヲ証明シ原告人之レヲ承諾スル時ハ其原告人ハ此回ノ身代限財產糶賣金ノ分配ヲ求ムルコトヲ得ヘカラス

第六條

定約期限未滿内ノ債主ハ身代限ニ遇フ負債主ニ對シ期限未滿内ニ訴フルモ滿期後ニ至リ訴フルモ其者ノ情願ニ任スト雖モ身代限ニ遇フ者ノ動不動産ヲ引當又ハ質物ニ取置タル債主ハ右動不動産ヲ身代限ノ糶賣ヲ爲スニ付己レノ受取ルヘキ金高ヲ求ムルコトヲ得ヘキ而已ニテ糶賣ヲ爲スコトヲ拒ムコトヲ得可ラス

八年第百貳號
布告(二千百
廿八)參看

第七條

動不動産ヲ引當又ハ質物ニ取置タル者ハ其財產羅賣金ノ内ニテ元金高又ハ利息アレハ利息ト共ニ其定約ノ証書ニ據リ處分ノ時迄ノ金高ヲ算計シ受取ル可キノ求ヲ爲シ裁判所ニ於テハ羅賣金分配ノ規則ニ從ヒ引當又ハ質物ヲ取置タル者ニ分配スヘキ金高ヲ引渡ス可シ

第八條

引當又ハ質物ヲ取置カサル金穀ノ債主定約期限未滿内ニ訴出ル時ハ元金高又ハ利息アレハ利息ト共ニ定約ノ証書ニ據リ處分ノ時迄ノ金高ヲ算計シ受取ヘキノ求ヲ爲シ裁判所ニ於テハ羅賣金分配ノ規則ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

○第七款 刑事附帶ノ民事取扱方

第一千七百七十六

明治十年十月八日司法省丁第七拾四號^{大審院諸}裁判所へ達

本年丁第六拾號達ハ取消更ニ左之通相違候事

刑事ニ附帶シテ起ル民事ノ賠償ハ其性質ハ全ク民事ナリト雖モ刑事裁判官其處分ヲ行フハ其便ニ從フナリ故ニ民事ノ裁判ニ付不服ノ者ハ民事ノ手續ニ據ルヘキ儀ト可相心得此段爲念相違候事

○第三章 裁判手續

○第壹款 裁判所ノ呼出ヲ受遲參不參ノ者及勅

奏任官華族ニ係ル喚問ノ事

第一千七百七十七

明治十年一月十七日第五號布告

凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタルモノ疾病等ノ事故アリテ遲參又ハ不參スル時ハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限マテニ其裁判所ニ届出ヘシ若シ右刻限ヲ過キテ届出ルカ又ハ無届ニテ遲參不參スル時ハ裁判官ニ於テ直ニ五錢以上拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ
右布告候事

第一千七百七十八

明治十年十月三十一日司法省丁第八拾壹號^{大審院}裁判所へ達

本年第七拾壹號布告ヲ以テ六年第四百五號布告被廢候ニ付勅奏官及ヒ華族ハ民事裁判上其家令執事ヲ喚問スヘシ若シ其本人喚問イタサス候テハ事實差支アル場合ニ於テハ時々奏請ヲ經テ喚問スヘク候條此段爲心得相違候事
但勸解ニ付喚出ノ節モ同様タルヘキ事

○第貳款 代人ノ名ヲ以テ結約セシ證書ニ付裁判處分方ノ事

第一千七百七十九

明治十六年六月廿四日司法省丁第拾八號^{大審院諸}裁判所へ達

義務ノ証書ニ某代理某ト代人ノ名ヲ以テ捺印結約シタル者ハ權利者ニ於テ此証書ヲ提供シ出訴スルニハ其本人ヲ相手取ル固ヨリ當然ナリト雖モ便宜ニ隨ヒ記名捺印シタル代人ヲ相手取ルコトアルモ必ス棄却スルヲ要セス他ノ本人又ハ代人ヲ引合人トシテ召喚シ俱ニ之カ答

辭ヲ爲サシメ被告者ノ義務ニ歸スルキハ被告ヲシテ負擔セシメ引合人ノ義務ニ歸スルニ於テハ引合人ヲシテ負擔セシムル様相當ノ裁判ヲ爲シ與フヘキ筋ニ有之候條豫テ心得モ可有之候得共爲念此旨相達候事

○第三款 證據物件

第一千八百八十

明治七年七月九日司法省第拾四號各裁判所裁判へ達

聽訟上原被告ヨリ差出ス處ノ證據物ハ其裁判官見認メ有無且取捨ノ振合ニ因リ後來ノ裁判ニモ差響ク筋ニ付今後出訴ノ者之レアル時ハ事件採用不採用ヲ論セヌ其差出ス處ノ證據物本紙ニハ總テ年號月日番號ト判事誰或ハ見認メタルコトヲモ記載シ押印可致此旨相達候事

第一千八百八十一

明治十三年十一月十一日司法省第貳拾五號大審院諸裁判所へ達

本年當省丁第八號達左ノ通改正候條此旨相達候事

明治七年第拾四號ヲ以テ聽訟上原被告ヨリ差出ス所ノ證據物云々相達置候處公債証書地券等ハ記名捺印スヘキ義ニ無之候條此旨爲心得相達候事

第一千八百八十二

明治十四年六月四日司法省丁第七號大審院諸裁判所へ達

裁判上諸役所之帳簿入用之節ハ可成必用之分ヲ寫取候儀ト相心得右寫本ニ正寫之証トシテ各役所之印ヲ捺シ差出シ候様照會シ紙丁多數ヲ要スルキハ其費用仕拂可申事

但可成寫本ニテ可取計等ニ候ヘトモ裁判事件ニ依リ元帳ヲ要スル節ハ取寄方照會可致尤遠隔之地ニテ運送不便ナルキハ其地最寄之裁判所ヘ右取寄方及調方共依頼可致事

十六年丁第三拾五號達(二千四百五十五)ヲ以テ費用仕拂方ヲ達ス

第一千八百八十三

明治十四年六月四日司法省丙第拾壹號府縣へ達

請訟審判上必要ニ付其應並郡區役所及戶長役場所管之帳簿等寫取方各裁判所ヨリ及照會候節ハ右寫本ニ正寫之証トシテ該應所之印ヲ捺シ同所ヘ差廻候様可取計事

但寫本多數ニテ費用相掛候節ハ其照會ヲ發シタル裁判所ヨリ仕拂候儀ト相心得且請訟事件ニ依リ元帳ヲ要スルキハ差廻方可取計此旨豫テ郡區役所及戶長役場ヘ相達可申事

○第四款 裁判言渡

第一千八百八十四

明治六年十一月廿七日司法省第百八拾五號達

從來聽訟上裁判申渡ノ儀ハ請證文爲差出候處今般有請證文相廢シ別紙之通改正候條此旨可相心得候事

別紙

第一條

各裁判所及ヒ地方官ニテ裁判ヲ爲ストキハ從前ノ請証文ヲ申付ル法ヲ廢シ然シテ裁判言渡書ノ寫ニ裁判廳ノ印ヲ押シ之ヲ原告人被告人ニ下付シ原告人被告人ヲシテ其裁判言渡ノ寫ヲ受取タル證書ヲ出サシムヘシ

但地所境界論ニテ測量繪圖ノ裏ニ裁判ノ旨趣ヲ記載シ原告人被告人ニ下付シタルトキハ原告人被告人ヲシテ裁判表書ノ繪圖ヲ受ケ取タル證書ヲ出サシムヘシ

第二條 八年九拾三號布告ニ依リ消ル